

令和5年度  
社会福祉研修・介護実習普及センター  
研修事業報告書

社会福祉法人京都市社会福祉協議会  
社会福祉研修・介護実習普及センター

## 目 次

□ 研修体系	1
□ 京・福祉の研修情報ネット事業	4
□ 社会福祉研修事業	6
□ 介護実習・普及センター事業	80
（・認知症介護実践研修	110）
□ 区役所・支所福祉業務職員研修	120

## 社会福祉研修・介護実習普及センター研修体系

令和5年度

社会福祉研修事業	キャリアパス研修	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔初任者コース〕	
		福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔中堅職員コース〕	
		福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔チームリーダーコース〕	
		福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程〔管理職員コース〕 <b>Zoom オンライン研修</b>	
	人権研修	福祉職員人権研修（新任・中堅職員編）	
		福祉職員人権研修（指導的・管理的職員編）	
	専門課題別研修	援助技術系	社会福祉援助基礎講座
			利用者の声を聴く
			アセスメント・プランニング
			ケース記録の基礎と活用
			スーパービジョン基礎講座
			アサーション
		福祉職場のマナー研修 <b>オンライン動画視聴型</b>	
		組織運営系	はじめての広報研修 <b>オンライン動画視聴型</b>
			リスクマネジメント(一般職員編)
			リスクマネジメント(担当職員編)
			福祉職員のためのコーチング講座
			問題解決のための思考法
			職場内研修担当職員研修
			社会福祉実習担当職員研修
ファシリテーション			
OJTリーダー育成研修			
福祉職員のためのアンガーマネジメント講座			
プレゼンテーション研修 <b>Zoom オンライン研修</b>			
モチベーション・マネジメント <b>ハイフレックス型研修</b>			
福祉職場のよりよい人間関係研修			
その他の研修	施設長等管理者セミナー <b>オンライン動画視聴型</b>		
	地域協働セミナー		
	京都市新規採用職員研修（福祉施設体験オリエンテーション）		
	介護支援専門員実務研修受講試験のための受験対策講座		
介護実習・普及センター事業	市民講座	介護基礎講座	
		介護体験講座	
		やさしい介護講座	
	専門職研修	介護研修（基本）	
		介護研修（応用）	
		ステップアップ研修	
	介護機器普及事業	福祉用具展示・見学	
		福祉用具情報提供	
		福祉機器シミュレーション事業	
		介護・福祉用具の相談・情報提供	
認知症介護実践研修		認知症介護実践者研修	
区役所・支所福祉業務職員研修		新任・2年目生活保護CW等対象研修・新任保護係長等対象研修 <b>一部オンライン動画視聴型</b>	

# 京・福祉の研修情報ネット事業



## 京・福祉の研修情報ネット事業

京・福祉の研修情報ネット事業の実績

		累計
ホームページのアクセス数	閲覧回数（実際にページが閲覧された回数）	515,689
	訪問者数（閲覧ページ数のうち、30分以内の同一 IP アドレスからのアクセスを一人とみなしたもの）	151,280
研修情報ネットからの申込者数		1,734
研修主催者登録数		66
研修情報登録数（新規）		165
メールマガジン登録者数		499



# 福祉の 研修情報ネット

Kyoto City Social Work Training  
Information Network

スキルアップ!

みやこけんしゅう 検索  
www.miyako-kenshu-net.jp



## 福祉に役立つ情報が満載!

福祉の仕事に携わる人、ボランティア活動をしている人、福祉のことを学びたい人、そんなみなさんに役立つ研修や講座が、京都でもたくさん開催されています。「京・福祉の研修情報ネット」は、それらの情報を紹介するホームページです。



## 京・福祉の研修情報ネットで できること

### 1 研修情報の 検索・閲覧

研修・講座をさまざまな条件で絞り込み、ご希望の研修情報を見ることができます。各主催者いち押しの研修・講座も注目情報からチェックできます。

### 2 申込手続きも らくらく

参加したい研修や講座が見つかったら → **申し込む** をクリック! その場で簡単に申込手続きができます。  
※研修によっては、本サイトからの申込が設定されていないものがあります。



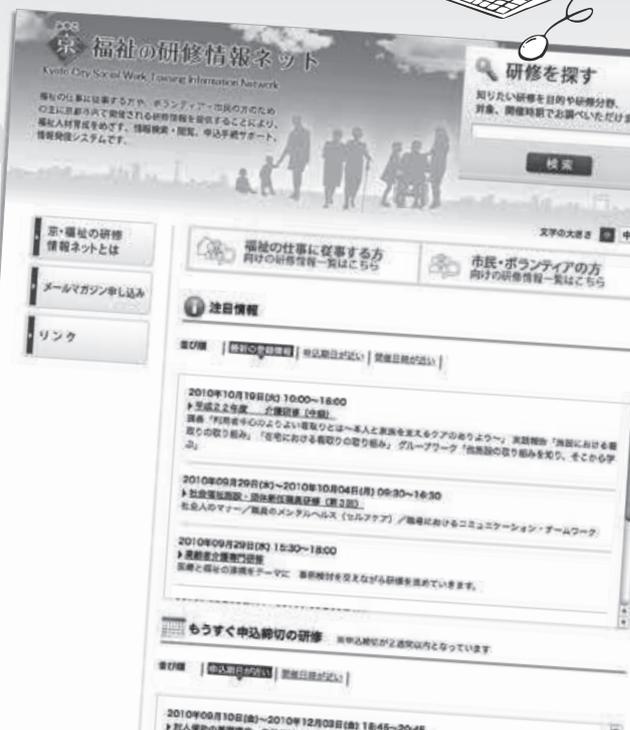
### メールマガジンの配信

あなたが希望する研修・講座の最新情報を、随時お届けします。

登録は

メールマガジン申し込み

からメールアドレスを  
入力するだけ!



京・福祉の研修情報ネット事業事務局 (社会福祉研修・介護実習普及センター)

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1 ひと・まち交流館 京都 TEL: 075-354-8771 E-mail: info@miyako-kenshu-net.jp  
設置 京都市 / 運営 社会福祉法人京都市社会福祉協議会

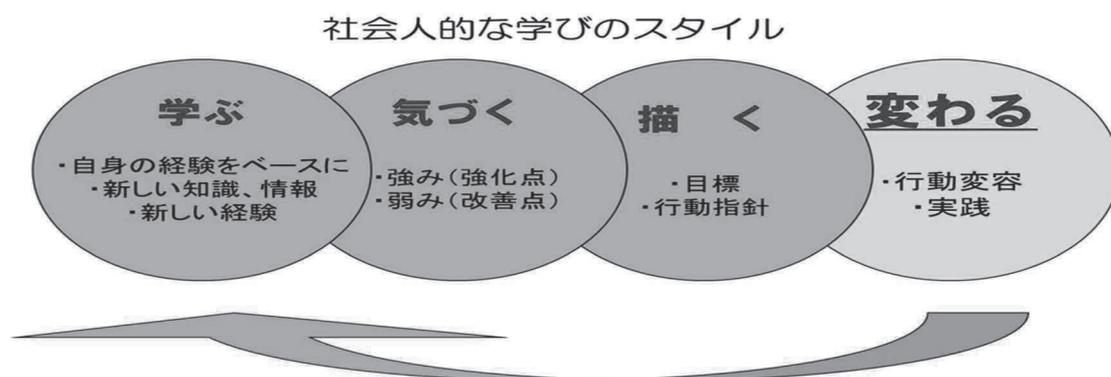
# 社会福祉研修事業



## 社会福祉研修事業

### 今年度の状況と研修実施後の行動変容についてのアンケート結果（3ヶ月後アンケート結果）

研修は、学習したことを受講後に実践することで、業務に活かすことができ、サービスの質の向上等に役立てることができます。

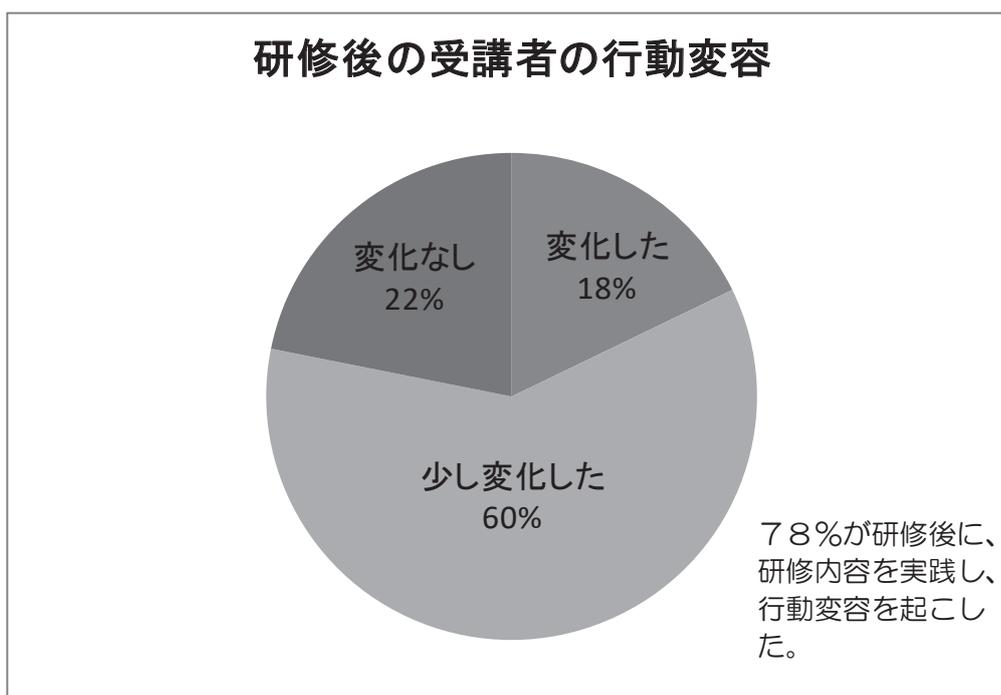


社会福祉研修事業において、研修実施後に受講者が研修内容を実践し、どのように自らの行動を変化（行動変容）させたかについて、研修実施3ヶ月後にアンケートを実施。

#### 令和5年度 3ヶ月後アンケート全体集計

	変化した	少し変化した	変化なし	返信数
合計	89	303	109	501
割合	18%	60%	22%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった社会福祉研修受講者501名についての結果。



## 社会福祉研修事業

研修名	期日	内容	定員	受講者数	掲載頁
キャリアパス対応生涯研修課程					
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【初任者コース A・B・C日程】	A 7月 6日 7月 13日 B 8月 30日 9月 8日 C 12月 1日 12月 7日	①自身のキャリアアップの方向性について自覚を深める②福祉の基本理念と倫理について基礎を習得する③チームケアの一員としてメンバーシップやコミュニケーションの基本を学ぶ④キャリアアップに必要な啓発課題について基本を学び、啓発意欲を高める⑤福祉職員としての役割行動と行動指針を確認し、自己のキャリアデザインとアクションプランを策定する	A50 B50 C50	A33 B19 C28	15
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【中堅職員コース A・B日程】	A 6月 22日 6月 28日 B 10月 11日 10月 16日	①中堅職員としてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ②福祉の倫理と基本理念の理解を深め、実践での手法を習得する③チームケアの一員としてメンバーシップやチームワークのあり方を再認識する④中堅職員としてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする⑤中堅職員としての役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する	A50 B50	A41 B35	17
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【チームリーダーコース A・B日程】	A 6月 6日 6月 13日 B 10月 20日 10月 27日	①チームリーダーとしてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ②福祉の倫理と基本理念の実践的検証と考察、指導のための手法を習得する③チームリーダーとして職場の問題解決手法を学び、問題解決能力を高める④チームリーダーとしてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする⑤チームマネジメントの役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する	A50 B50	A40 B27	19
福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 【管理職員コース】 Zoomオンライン研修	8月 7日 8月 8日	①福祉職員としてのキャリアデザインと職場環境のあり方を学ぶ②福祉の基本理念と倫理の徹底・浸透のための手法を習得する③管理職員としてのリーダーシップの醸成を図る④管理職員としてキャリアアップの啓発課題を確認し、方向性を明確にする⑤職場管理・役割行動に関する行動指針を確認し挑戦目標を設定する	30	22	21
人権研修					
福祉職員人権研修 【新任・中堅職員編】 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～	9月 7日	前提となる人権の考え方／ソーシャルワークにおける人権の意味／人権意識や態度と利用者支援の関係／人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性／人権意識の向上に向けたスキルアップ／情報交換	40	18	25

研修名	期日	内容	定員	受講者数	掲載頁
福祉職員人権研修 【指導的・管理的職員編】 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～	1月9日	ソーシャルワークにおける人権の意味／人権意識や態度と利用者支援の関係／コミュニケーション力の必要性／人権意識の向上に向けたスキルアップ・人権を意識した記録方法／情報交換	30	29	27
専門課題別研修(援助技術系)					
社会福祉援助基礎講座 ～福祉の職場で働きはじめた方、働きつづけた方のため～	5月9日 5月18日	社会福祉って何？／近年の社会福祉の動向／専門職って何？／倫理綱領／利用者の立場に立つ／バーンアウトに気を付けて／利用者や家族を理解する・かかわり続ける／価値ということ／日常生活を支援する／生活支援のためのコミュニケーション技法／自己覚知／利用者を理解する	50	49	31
利用者の声を聴く ～“対人援助のプロ”としてのコミュニケーション～	9月20日	利用者の思いをどこまで受け止めているか／援助職員の普段の“聴き方”は／当事者からのメッセージ／演習(インタビューによってひとりの利用者を理解する)	30	15	33
アセスメント・プランニング ～利用者をよく知り、支援を深める～	8月9日	アセスメント・プランニング概論／アセスメント・プランニング演習／アセスメント・プランニングシートを使っての情報交換	24	15	35
ケース記録の基礎と活用	2月8日	記録の意義と概要／記述のポイント／記録と個人情報保護／観察の視点／観察、記録の演習／情報交換	30	22	37
スーパービジョン基礎講座	11月9日	スーパービジョン(SV)とは／SVの方法・形態／SV場面を通じて自らの実践を振り返る／SV関係と援助関係	30	24	39
アサーション ～「感情労働」から考える対人コミュニケーション～	2月17日 2月18日	対人コミュニケーションについて／自己の対人関係上の特徴について／上手に伝えるためのシナリオ作りとロールプレイング／ロールプレイングとまとめ	20	15	41
福祉職場のマナー研修 ～気持ちに寄り添う～ 動画視聴型研修	5月1日 ～9月29日	あいさつ／丁寧な話し方／表情・態度／電話対応・来客対応	40	37	43
専門課題別研修(組織運営系)					
[京都市社会福祉施設連絡協議会] はじめての広報研修 ～組織と読み手をつなぐ情報発信とは～ 動画視聴型研修	5月22日 ～7月21日	広報担当者の仕事とは／WEBサイト・SNSの運用3つの失敗例から学ぶWEBサイト・SNSに掲載しておきたい情報とは？	20	35	47
リスクマネジメント研修 【一般職員編】 ～現場職員の基礎知識と心構え～	2月1日	リスクマネジメント概論／福祉・介護現場におけるリスクマネジメント／リスクマネジメントを進める体制整備／事故防止／苦情対応／演習	40	24	49

研修名	期日	内容	定員	受講者数	掲載頁
リスクマネジメント研修 【担当職員編】 ～利用者・家族・地域に信頼される組織づくりを目指して～	5月15日 5月29日	苦情申立から見た事故・苦情の処理／事後処理と保険／インシデントレポートの活用／職場での課題解決の実践	40	29	51
福祉職員のためのコーチング講座 ～主体性を引き出し、人を育てるコミュニケーション～	11月27日	自ら考え、行動できるスタッフのいる職場にするため、考えと行動を「引き出す」コーチングスキルを習得する／職場の目標、リーダーとしての役割を果たすための基本姿勢を学び、コーチングを現場に活かせるようにする	24	23	53
問題解決のための思考法 ～TOCを活用した取り組みやすくなる工夫～	11月17日	問題解決の思考の流れ／制約理論TOCとは／クラウドワーク／対立する意見の先にある共通の目的を見つける／歩み寄るために・感謝の表明等	24	12	55
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 職場内研修担当職員研修 ～職場の活性化を図る研修を企画しよう！～	12月14日	実践報告「各施設での職場内研修の取り組みと課題」 職場の活性化をテーマとした研修プランを作成	20	17	57
〔京都児童福祉施設実習教育連絡協議会〕 社会福祉実習担当職員研修	9月2日	新カリキュラム実習プログラムをどうつくり、どう指導するのか	50	40	59
ファシリテーション ～人を動かし、会議を活性化させる～	7月27日 8月3日 午後のみ	ファシリテーションの基本的考え方／人の意見やアイデアを引き出す技術／ラボラトリーという考え方(学びの循環)／チーム・ビルディングの大切さ／演習 自分の性格や癖の分析と行動対策／まとめる技術の実践／可視化の重要性と技術／ファシリテーション会議運営の実践	24	16	61
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 OJTリーダー育成研修 ～人を育てる！職場が変わる！～	7月10日 9月13日	OJT構築の方法／OJTのためのコミュニケーション／職場実践の共有	24	22	63
福祉職員のためのアンガーマネジメント講座 ～怒りの感情と上手につきあうために～	1月26日	アンガーマネジメントとは／怒りの感情とは／アンガーマネジメント実践テクニック／自分の怒りの傾向に合わせた対処法／怒りの原因となりやすい6つのコアビリーフ／アンガーマネジメントを習慣化するために	40	30	65
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 心に響く！伝える技術 プレゼンテーション研修 Zoomオンライン研修	6月27日	プレゼンテーションの基礎知識／プレゼンテーションの種類／プレゼンテーションの流れ／ストーリー作り／TEDに学ぶプレゼンテーション／演習 プレゼンテーションの実際	24	18	67
モチベーション・マネジメント ～職員のやる気を引き出す～ ハイフレックス型研修	【来場・Zoom】 8月24日 【動画配信】 9月19日 ～10月20日	研修転移／外発的動機と内発的動機／ESなくしてCSなし／MINDSET／ABC理論／価値創造としての仕事／今後の実践プランをつくる	【来場】 24 【Zoom】 24 【動画】 40	【来場】 10 【Zoom】 2 【動画】 27	69

研 修 名	期 日	内 容	定員	受講者数	掲載頁
福祉職場のよりよい人間関係研修	7月19日 午後のみ	職場とは／チームとは何か／コミュニケーションを考える／言語・非言語のコミュニケーション／事例に基づくロールプレイ等／援助関係形成のための専門的態度	30	14	71
その他の研修					
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 地域協働セミナー	11月6日	連携・協働の意義／チームコーディネーション／実際の連携・協働の事例／地域アセスメントシート演習／連携・協働のプログラム作り演習	20	12	75
〔京都市社会福祉施設連絡協議会〕 施設長等管理者セミナー <u>動画視聴型研修</u>	1月19日 ～2月29日	職員の定着を図るための方策～職員のあるべき姿を「言語化」する～ 業務に必要な知識、技術、態度・価値観 ／質問で会話をする技術（質問力向上） ／相手を決めつけないコミュニケーション	70	98	77
〔京都市行財政局人事課〕 京都市新規採用職員研修福祉施設 体験オリエンテーション	中止	福祉施設体験のオリエンテーション	—	—	—
介護支援専門員(ケアマネジャー) 実務研修受講試験のための受験対策講座	7月29日 8月26日 9月2日 9月16日	介護支援専門員実務研修受講資格取得のための必要な知識を習得する	80	79	79



キ ャ リ ア パ ス 研 修

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース
目的	<p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。</p> <p><b>【ねらいと目標】</b></p> <p>① 自身のキャリアアップの方向性について自覚を深める。  ② 福祉の基本理念と倫理についての基礎を習得する。  ③ チームケアの一員としてメンバーシップやコミュニケーションの基本を学ぶ。  ④ キャリアアップに必要な啓発課題について基本を学び、啓発意欲を高める。  ⑤ 福祉職員としての役割行動と行動指針を確認し、自己のキャリアデザインとアクションプランを策定する。</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する入職半年以上3年未満の職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	A日程 令和5年 7月 6日(木)・ 13日(木) B日程 令和5年 8月30日(水)・ 9月8日(金) C日程 令和5年12月 1日(金)・ 7日(木)
開催日数	各2日
定員	A日程：50名 B日程：50名 C日程：50名
受講人数	A日程：33名 B日程：19名 C日程：28名
申込者数	A日程：37名 B日程：19名 C日程：28名
会場	A日程：ひと・まち交流館 京都 B日程：ひと・まち交流館 京都、京都リサーチパーク C日程：京都リサーチパーク

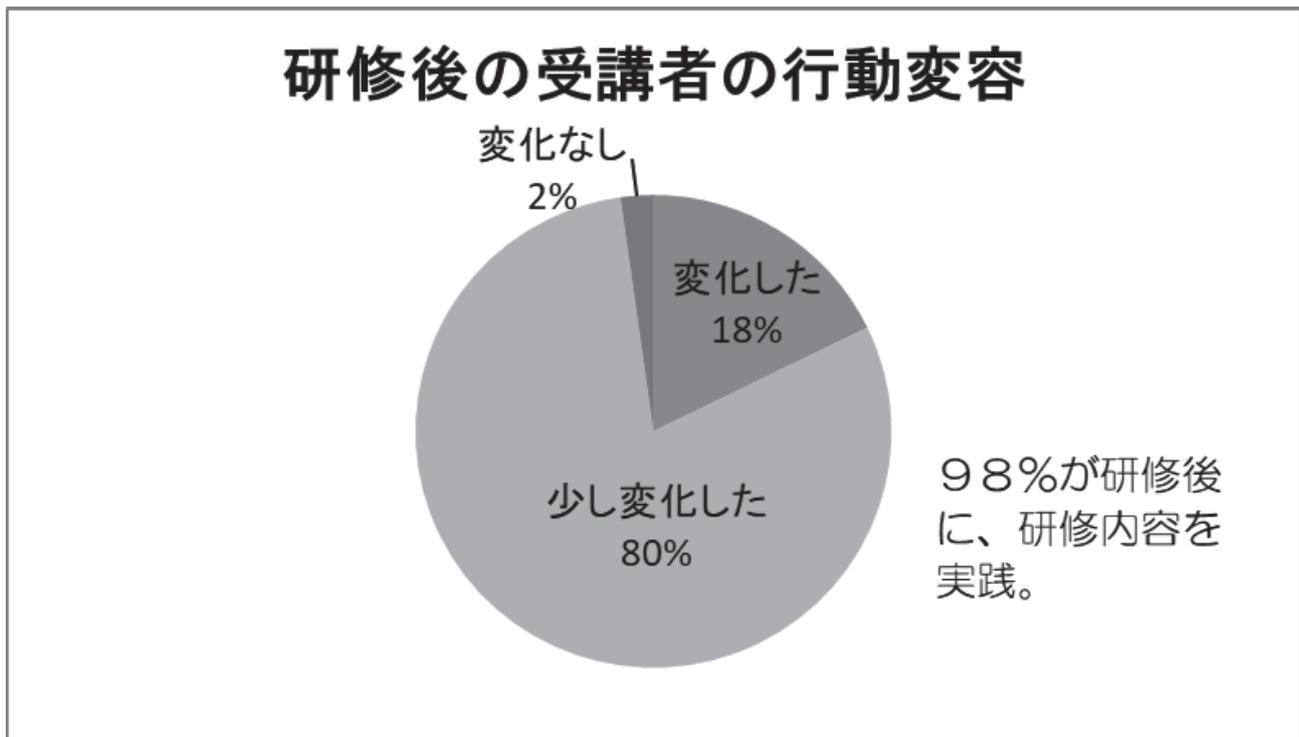
**【A・B・C日程】**

開催日	時間	テーマ	講師
A:7/6 (木)  B:8/30 (水)  C:12/1 (金)	9:30～17:00	《基軸科目の講義と演習》 ・キャリアデザインとセルフマネジメント 《基礎科目の講義と演習》 ・福祉サービスの基本理念と倫理 ・メンバーシップ・リーダーシップ 《重点科目の講義と演習》 ・問題解決のためのワークショップ	<b>【A日程】</b> 京都総合福祉協会 事務局次長 中西 大作  太陽の家 京都事業部 就労支援課課長 坂本 和也  <b>【B日程】</b> レーベン横大路居宅支援事業所 管理者 馬場 孝雄
A:7/13 (木)  B:9/8 (金)  C:12/7 (木)	9:30～17:00	《啓発科目の講義と演習》 ・能力開発 ・業務解決の解決と実践研究 ・リスクマネジメント ・チームアプローチと多職種連携・地域協働 ・組織運営管理 《行動指針と行動計画の策定》	京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 採用・育成担当部長 小谷 雅敏  <b>【C日程】</b> キャリアデザイン研究・ 研修プロデュース 梶谷 康則  児童養護施設 迦陵園 施設長 若林 里仁

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
初任者A（人）	3	14	0	17
初任者B（人）	1	11	0	12
初任者C（人）	4	11	1	16
割合	18%	80%	2%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修 初任者コース45名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・周りに目を配るようになり、落ち着いて業務ができるようになりました。自分の意見を言うようになりました。
- ・常に利用者さんの側に寄り添い、気づきや困りごとを見つけ、解決できるよう行動するようになりました。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員コース
目的	<p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。</p> <p>【ねらいと目標】</p> <p>① 中堅職員としてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ。  ② 福祉の倫理と基本理念の理解を深め、実践での手法を習得する。  ③ チームケアの一員としてメンバーシップやチームワークのあり方を再認識する。  ④ 中堅職員としてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする。  ⑤ 中堅職員としての役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する。</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する 入職後概ね3年～5年程度の節目の職員（担当業務の独力遂行が可能なレベルの職員）
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	A日程 令和5年 6月22日（木）・28日（水） B日程 令和5年10月11日（水）・16日（月）
開催日数	各2日
定員	A日程：50名 B日程：50名
受講人数	A日程：41名 B日程：35名
申込者数	A日程：44名 B日程：37名
会場	A日程：ひと・まち交流館 京都、京都リサーチパーク B日程：ひと・まち交流館 京都

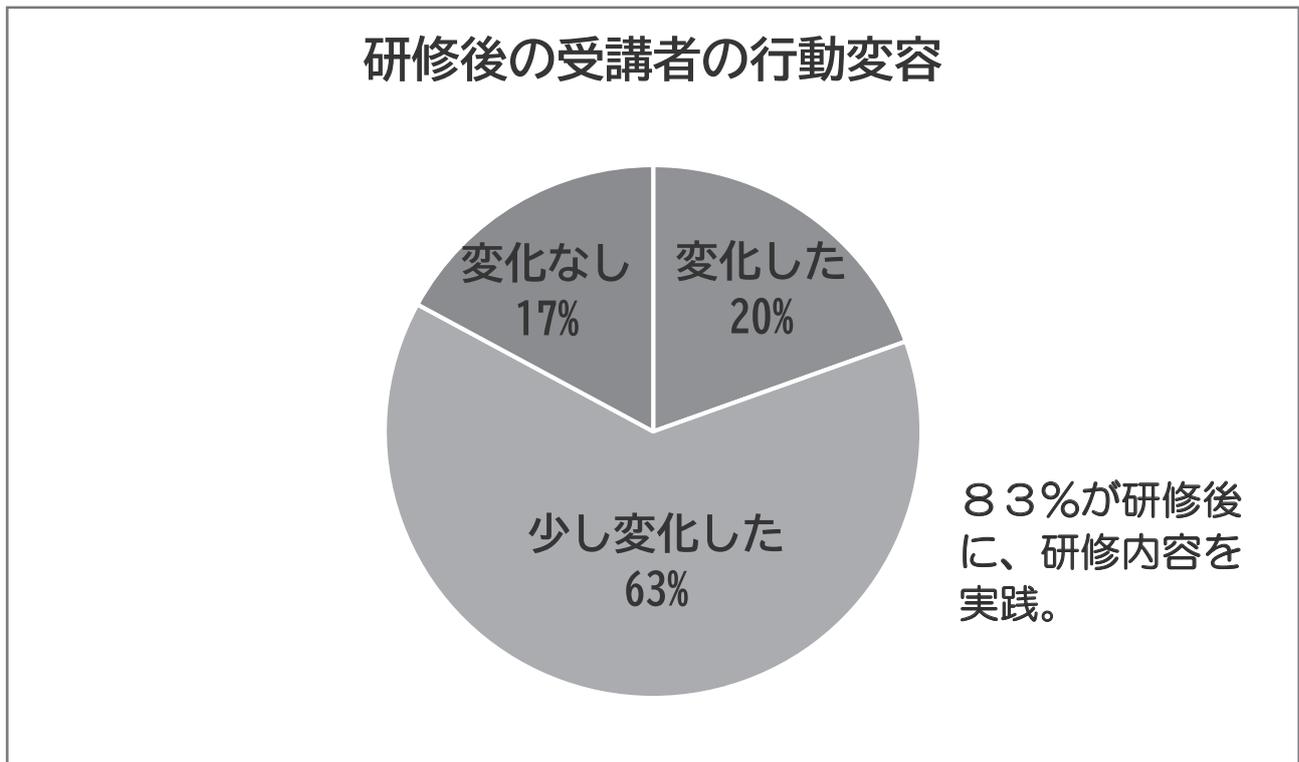
【A・B日程】

開催日	時間	テーマ	講師
A:6/22 （木） B:10/11 （水）	9:30～17:00	<p>《基軸科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインとセルフマネジメント</li> </ul> <p>《基礎科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスの基本理念と倫理</li> </ul> <p>《重点科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーシップとコミュニケーションについて</li> </ul>	<p>【A日程】</p> <p>キャリアデザイン研究・ 研修プロデュース 梶谷 康則</p> <p>六満こども園 園長 内海 日出子</p>
A:6/28 （水） B:10/16 （月）	9:30～17:00	<p>《啓発科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成・能力開発</li> <li>・業務解決の解決と実践研究</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・チームアプローチと多職種連携・地域協働</li> <li>・組織運営管理</li> </ul> <p>《行動指針と行動計画の策定》</p>	<p>【B日程】</p> <p>京都市やましな学園 園長 政田 美由紀</p> <p>京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 採用・育成担当部長 小谷 雅敏</p>

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
中堅A（人）	7	13	3	23
中堅B（人）	1	13	4	18
割合	20%	63%	17%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修 中堅職員コース41名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 中堅職員としての自覚を持てるようになり、これまでよりも会議で発言するための準備を行うことができるようになりました。
- ・ 受講前より、入居者の変化に気付くこと増えた。また、利用者のことを知るためのコミュニケーションが増えています。
- ・ 自身に求められる役割や自己タイプ・特性を理解し、意識しながら業務を行うことができるようになった。また、上司からの助言を待つだけでなく、任された業務を率先して行う努力をしています。
- ・ 受講前は、会議等の場で発言することが苦手であったが、研修終了後は積極的に発言することを心掛け、円滑なコミュニケーションを図れるよう実践しています。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダーコース
目的	<p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。</p> <p>【ねらいと目標】</p> <p>① チームリーダーとしてのキャリアデザインとセルフマネジメントのあり方を学ぶ。  ② 福祉の倫理と基本理念の実践的検証と考察、指導のための手法を習得する。  ③ チームリーダーとして職場の問題解決手法を学び、問題解決能力を高める。  ④ チームリーダーとしてキャリアアップの啓発課題を学び、方向性を明確にする。  ⑤ チームマネジメントの役割と行動指針を確認し、挑戦目標を設定する。</p>
対象	<p>市内社会福祉施設・団体に勤務する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近い将来チームリーダー等の役割を担うことが想定される職員</li> <li>・現に主任、係長等に就いている職員</li> </ul>
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	<p>A日程 令和5年 6月 6日(火)・13日(火)</p> <p>B日程 令和5年10月20日(金)・27日(金)</p>
開催日数	各2日
定員	A日程：50名 B日程：50名
受講人数	A日程：40名 B日程：27名
申込者数	A日程：42名 B日程：28名
会場	<p>A日程：京都リサーチパーク、ひと・まち交流館 京都</p> <p>B日程：ハートピア京都</p>

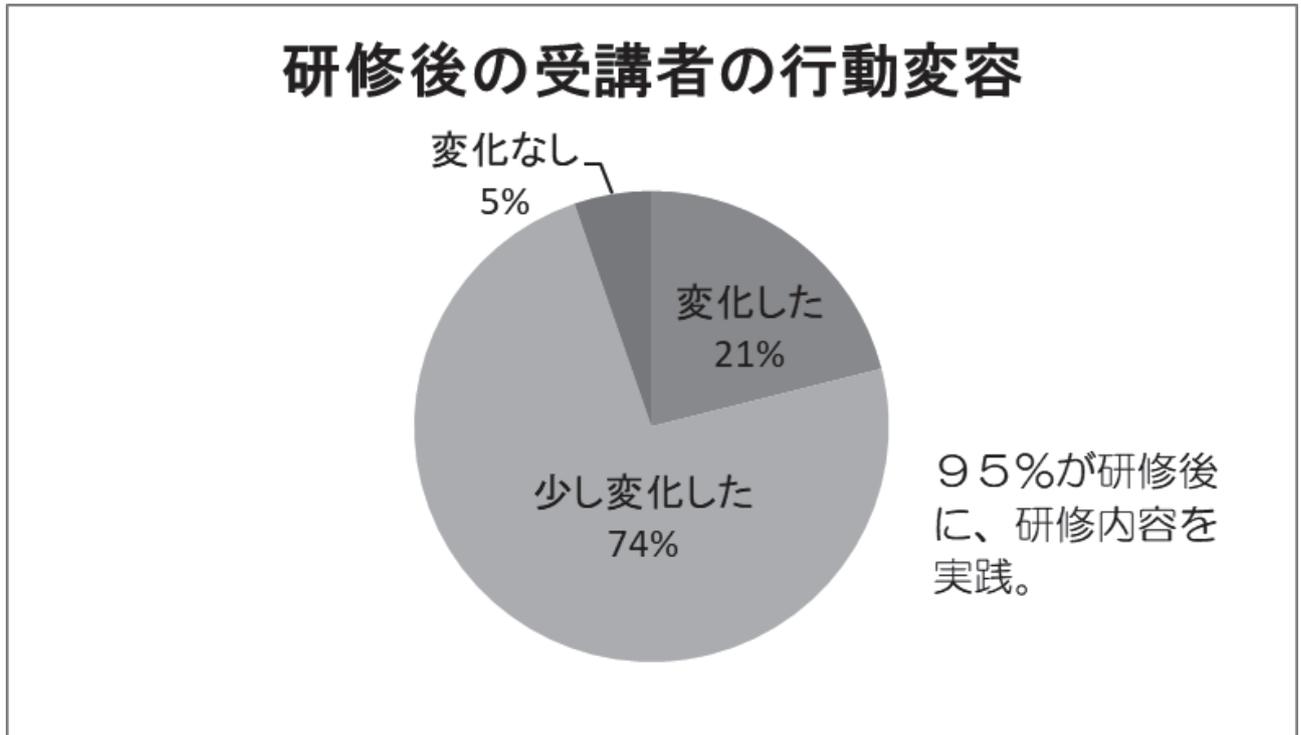
【A・B日程】

開催日	時間	テーマ	講師
<p>A:6/6 (火)</p> <p>B:10/20 (金)</p>	9:30~17:00	<p>《基軸科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインとセルフマネジメント</li> </ul> <p>《基礎科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスの基本理念と倫理</li> <li>・メンバーシップ・リーダーシップ</li> </ul> <p>《重点科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対人能力；叱る</li> </ul>	<p>【A日程】</p> <p>ベテスダの家・イマジン 統括管理者 中西 昌哉</p> <p>京都市うずまさ学園 京都市太秦障害者デイサービスセンター 施設長 竹内 竜也</p>
<p>A:6/13 (火)</p> <p>B:10/27 (金)</p>	9:30~17:00	<p>《啓発科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能力開発</li> <li>・業務解決の解決と実践研究</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・チームアプローチと多職種連携・地域協働</li> <li>・組織運営管理</li> </ul> <p>《行動指針の策定》</p> <p>《キャリアデザインシートと行動計画の策定》</p>	<p>【B日程】</p> <p>京都老人福祉協会 理事長 馬場 協一郎</p> <p>南山城学園 障害者支援施設 紡 施設長 村地 正浩</p>

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
チームA (人)	6	18	0	24
チームB (人)	2	10	2	14
割合	21%	74%	5%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修 チームリーダーコース38名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・研修の中で同じグループの方と話をしてたくさんの刺激を受けました。受講後は、以前よりも周りの模範となるような行動を心がけ、後輩職員のサポートに力を入れるようになりました。
- ・後輩への接し方やリーダーとしての心構えを自分なりに見直して、コミュニケーションの幅が広がったように感じます。

研修名	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 管理職員コース ZOOMオンライン
目的	<p>福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、福祉・介護分野に共通する能力を向上させるため全国社会福祉協議会が開発した全国共通の基礎的研修です。研修修了者には修了証書を発行いたします。</p> <p>【ねらいと目標】</p> <p>① 福祉職員としてのキャリアデザインと職場環境のあり方を学ぶ。  ② 福祉の基本理念と倫理の徹底・浸透のための手法を習得する。  ③ 管理職員としてのリーダーシップの醸成を図る。  ④ 管理職員としてキャリアアップの啓発課題を確認し、方向性を明確にする。  ⑤ 職場管理・役割行動に関する行動指針を確認し挑戦目標を設定する。</p>
対象	<p>市内社会福祉施設・団体に勤務する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近い将来管理者の役割を担うことが想定される指導的立場の職員</li> <li>・現に小規模事業管理者・部門管理者等に就いている職員</li> </ul>
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年8月7日(月)・8日(火)
開催日数	2日
定員	30名
受講人数	22名
申込者数	24名
会場	オンラインのため会場なし

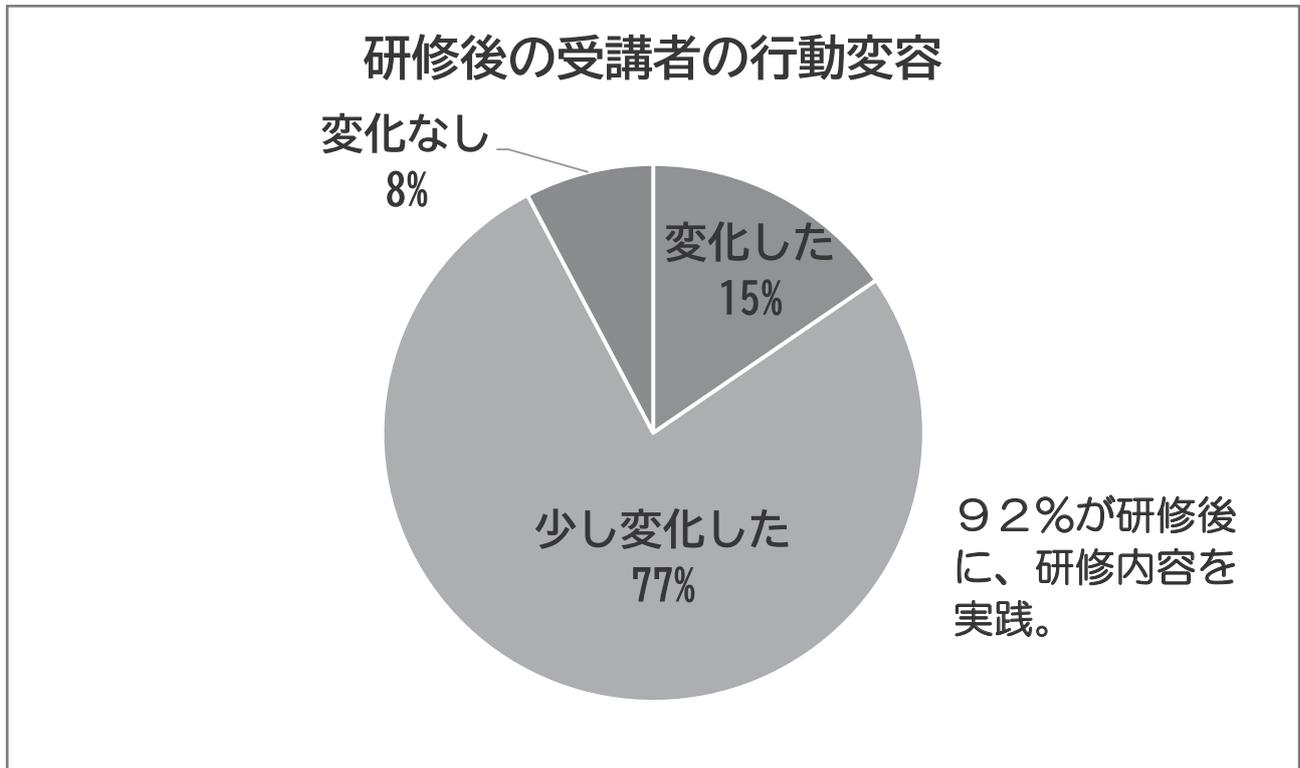
#### 【日程】

開催日	時間	テーマ	講師
8/7 (月)	10:30～ 15:45	<p>《基軸科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザインとセルフマネジメント</li> </ul> <p>《基礎科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスの基本理念と倫理</li> <li>・メンバーシップ・リーダーシップ</li> </ul> <p>《重点科目の講義と演習》</p> <p>利用者本位サービス実現と権利侵害防止に向けた取り組み</p>	日本女子大学人間社会学部教授
8/8 (火)	10:30～ 15:45	<p>《啓発科目の講義と演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能力開発</li> <li>・業務解決の解決と実践研究</li> <li>・リスクマネジメント</li> <li>・チームアプローチと多職種連携・地域協働</li> <li>・組織運営管理</li> </ul> <p>《行動指針の策定》</p> <p>《キャリアデザインシートと行動計画の策定》</p>	<p>キャリアパス対応生涯研修課程テキスト編集委員会委員</p> <p>久田 則夫</p>

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
管理職員コース（人）	2	10	1	13
割合	15%	77%	8%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったキャリアパス研修 管理職員コース 13名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 自身の管理業務を整理しデジタルな方法も利用しながら負担軽減できている。負担が減った分で周囲に気を配る頻度も増えました。
- ・ 他職種のスタッフがチームとして目標に対して、成果(結果)を出すためにリスペクトを忘れてはならないように考えるようになりました。また、リスク管理として、記録をもとにスタッフ内で協議を行い、情報共有の重要性を学ぶことができました。



# 人 權 研 修

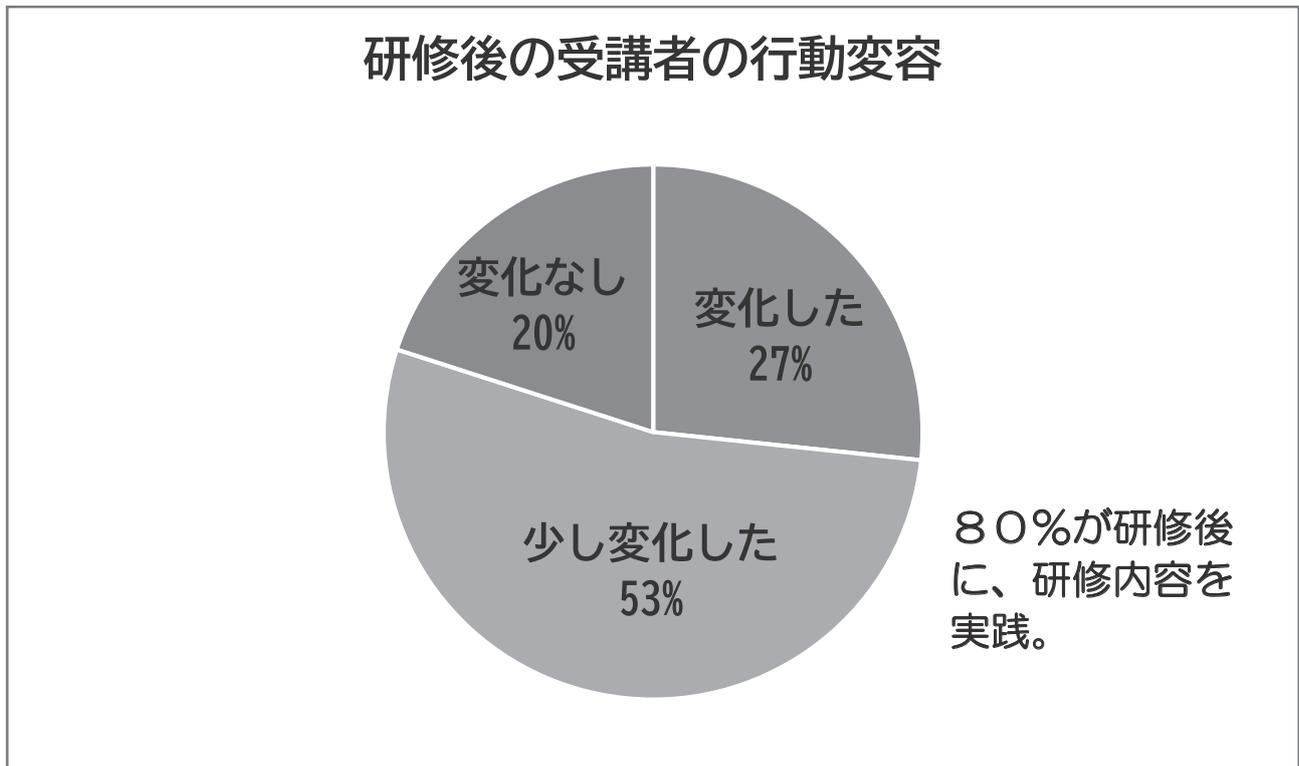
研修名	福祉職員人権研修（新任・中堅職員編） ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～
目的	「人権」とは、実はとても身近で具体的なものです。この研修では、日頃の社会福祉実践や自らのコミュニケーションのあり方などを振り返ります。 そして、利用者のみならず、私たち働く側の人権についてもその「具体的な意味」を考えます。職場内研修でも取り組むことのできる多彩な演習も魅力です。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年9月7日（木）
開催日数	1日
定員	40名
受講人数	18名
申込者数	19名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
9/7 (木)	10:00～16:00	○講義・演習 「前提となる人権の考え方」 「ソーシャルワークにおける人権の意味」 「人権意識や態度と利用者支援の関係」 「人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性」 「人権意識の向上に向けたスキルアップ」	京都府立大学公共政策学部 教授 中村 佐織

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人権—新任中堅（人）	4	8	3	15
割合	27%	53%	20%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった人権研修 新任中堅編 15名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 利用者や家族との対応時に、会話だけではなく表情や体の動きなどから考察し、何を要求されているのかを考え行動をしています。
- ・ 利用者が、これからも自分らしく生活できるよう、今自分は何をするべきか考えながら支援しなければならないと考えるようになりました。
- ・ 子ども達に大きい声を出し時「大声は必要だったのか?」「別の伝え方はなかったのか?」「子ども達の人権を尊重していたのか?」など、振返る機会を設けています。
- ・ 自分では相手に伝わっていると思い込み行き違いになったこともありましたが、自分の思いを伝えるだけで意思疎通がスムーズにできるようになりました。

研修名	福祉職員人権研修《指導的・管理的職員編》 ～社会福祉実践者に求められる人権意識・態度とは～
目的	人権とは、利用者のみならず、職員にとっても大切なものです。 この研修では、人の権利を守る専門職としての倫理について学び、それを職員にわかりやすく説明する力を鍛えます。また、お互いの価値観を認め合い、人間関係を円滑にする方法等、身近な事例から具体的に学びます。 職員の人権意識を高め、支援の質の向上や、利用者も職員も大切にする職場づくりに活かしましょう。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的・管理的職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年1月9日（火）
開催日数	1日
定員	30名
受講人数	29名
申込者数	29名
会場	ひと・まち交流館 京都

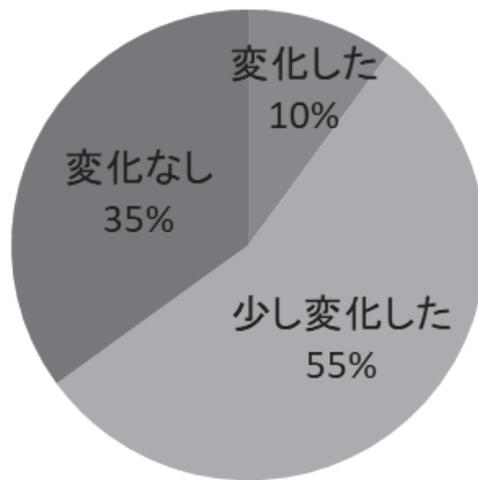
開催日	時間	テーマ	講師
1/9 (火)	10:00～16:30	講義・演習 「ソーシャルワークにおける人権の意味」 「人権意識や態度と利用者支援の関係」 「人権を意識化するためのコミュニケーション力の必要性」 「人権意識の向上に向けたスキルアップ」	京都府立大学公共政策学部 教授 中村 佐織

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人権-指導管理（人）	2	11	7	20
割合	10%	55%	35%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職員人権研修（指導的・管理的職員編）20名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



65%が研修後に、研修内容を実践。

#### 行動変容内容（抜粋）

- ・日常的に周りの変化に気づけるよう意識し、前向きな言葉を選択しながらエンパワーメントを心がけるようになりました。
- ・人それぞれ感じ方の違いがありコミュニケーションの取り方も異なるため、言葉だけに捉われずじっくり関わるスタンスでコミュニケーションを取ることを意識するようになりました。



専門課題別研修（援助技術系）

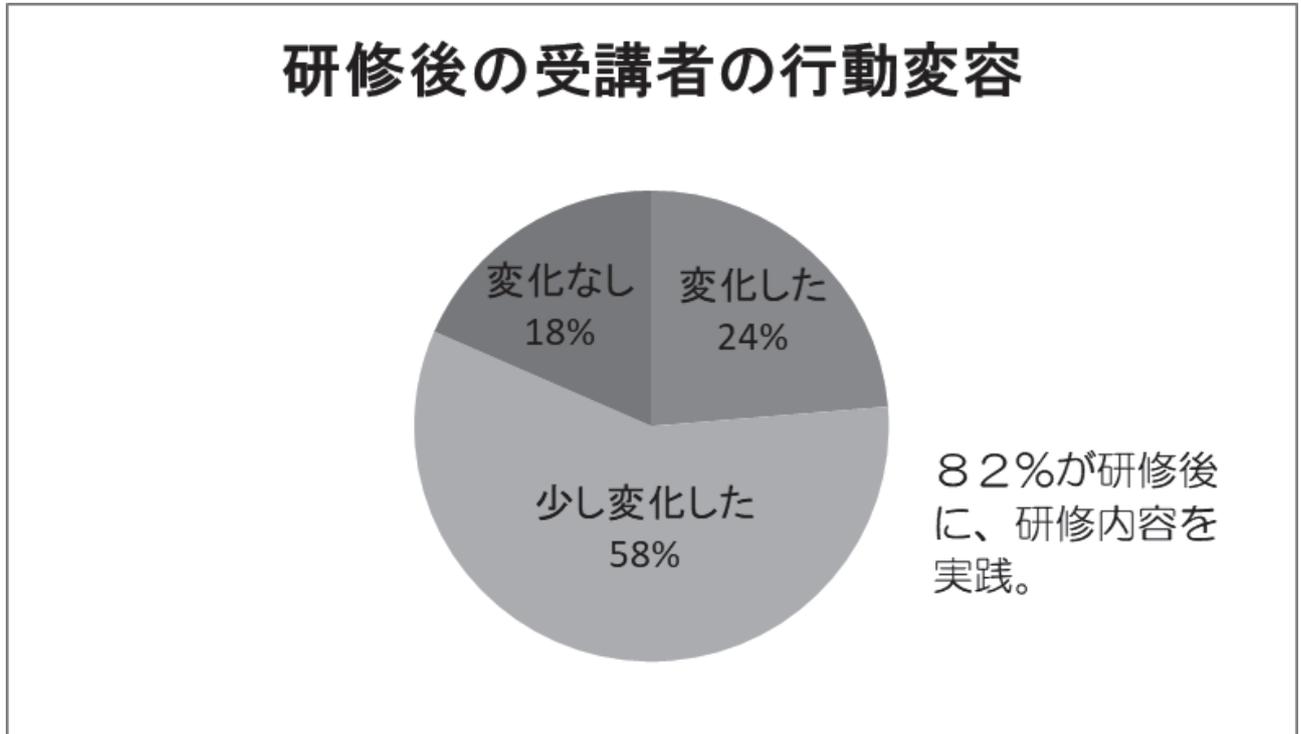
研修名	社会福祉援助基礎講座 ～福祉の職場で働きはじめた方・働きつづけたい方のために～
目的	社会福祉の仕事の基本を理解し、やりがいをもって働き続けるための基礎を学びます。日々の援助や自身のこれまでを振り返る機会とします。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任職員（職務経験が概ね3年未満の方）
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年5月9日（火）・18日（木）
開催日数	2日
定員	50名
受講人数	49名
申込者数	50名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
5/9 （火）	10:00～ 16:00	○講義・演習 「社会福祉援助の基本と福祉職員の心構え」	日本福祉大学社会福祉学部 准教授 藤井 渉
5/18 （木）	10:00～ 16:00	○講義・演習 「社会福祉の理念とソーシャルワーク」	同志社大学社会学部 教授 空閑 浩人

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
援助基礎（人）	9	22	7	38
割合	24%	58%	18%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった社会福祉援助基礎講座38名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・表情や声のトーンなど非言語の部分により気をつけるようになりました。
- ・研修内で学んだ「一緒に考える」を実践しています。担当している方だけではなく、職場の同僚とも「一緒に考える」ことで、より良い支援ができていると感じています。

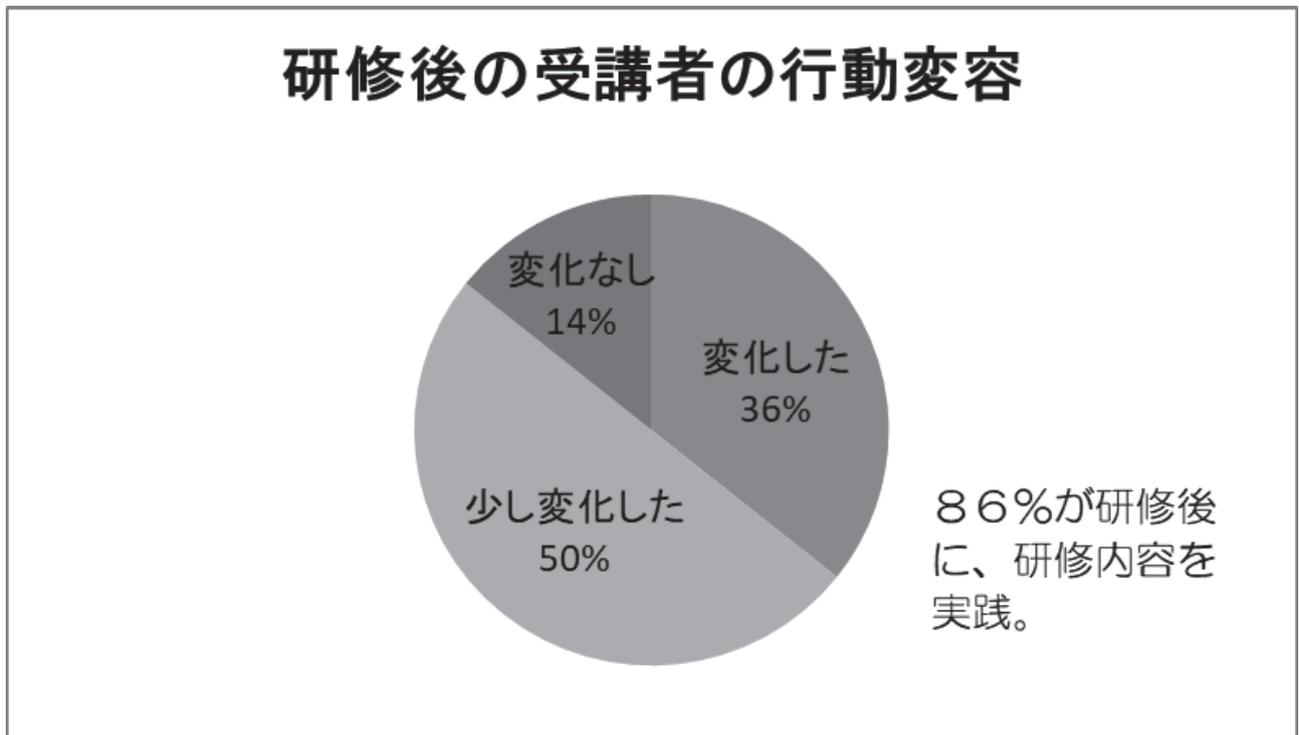
研修名	利用者の声を聴く～「対人援助のプロ」としてのコミュニケーション～
目的	「利用者主体」とは、利用者や当事者の「声になりにくい声」や「聞き流しがちな声」をしっかり聴き、受けとめることから始まります。それは、「自分のことを自分で決めたい」「人間として尊重されたい」という誰もがもっている権利であり、家族や支援者に対するさまざまな想いです。 この研修では、これまでの日頃の聴く姿勢を振り返り、見つめ直しながら、対人援助のプロとしてのコミュニケーションや、利用者の思いへの理解を深めます。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する初任、中堅職員（職務経験5年未満の方）
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年9月20日（水）
開催日数	1日
定員	30名
受講人数	15名
申込者数	15名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
9/20 （水）	10:00～16:30	○講義 「利用者の声を聴くということ －対人援助のプロとして－」	大阪公立大学 現代システム科学域 准教授 三田 優子

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
利用者の声(人)	5	7	2	14
割合	36%	50%	14%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった利用者の声を聴く研修14名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・先入観を持たず、まずは自らの心をフラットな状態にして、ご利用者様の内なる思いを今まで以上に考察するようになりました。
- ・受講前には利用者さんからお話を何気なく聞き流している場面が多々ありましたが、受講後には、その話の中に重要なキーワードがないか、今どうしてその話を始められたのかなどを意識しながら耳を傾けることで、会話が広がっているように感じています。

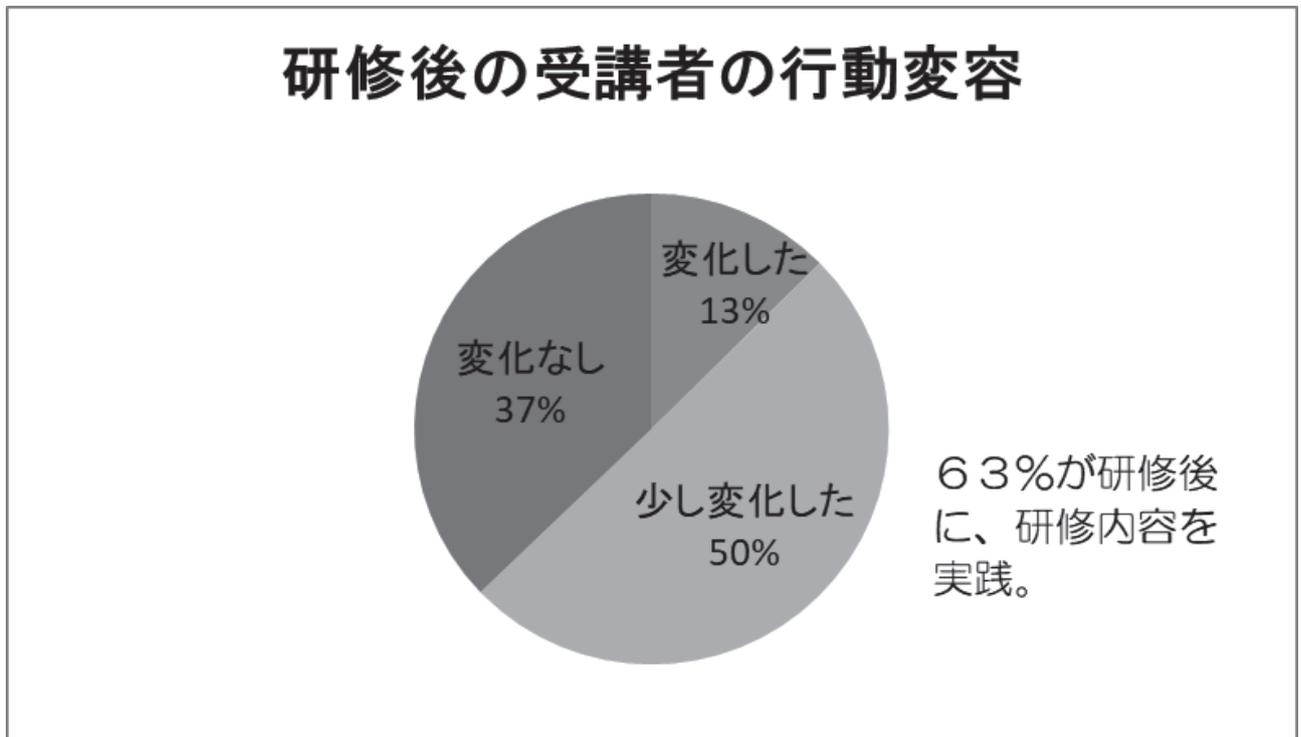
研修名	アセスメント・プランニング ～利用者をよく知り、支援を深める～
目的	アセスメント・プランニングは、支援の方向性を定める重要な過程です。ここでは利用者の「困難な状況の把握」に加え利用者のもつ「意欲や能力・資源等を発見」することが求められます。しかし現実には、具体的にどうすれば良いのかわからない！という方も多いのではないのでしょうか。 この研修では、アセスメントの基礎から「エコロジカル視点・ストレングス視点」等といった援助視点の習得を通し、質の高い支援の実施を目指します。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年8月9日（水）
開催日数	1日
定員	24名
受講人数	15名
申込者数	21名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
8/9 (水)	10:00～16:30	○講義・演習 「アセスメント・プランニング概論」 「アセスメント・プランニング演習」	同志社大学社会学部 教授 野村 裕美

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
アセプラ (人)	1	4	3	8
割合	13%	50%	37%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったアセスメント・プランニング8名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・リアルニーズを明らかにするために、利用者と関係を築いていきました。フェルトニーズだけでなく、専門的な見地からニーズを理解しようと努めています。
- ・プランニングについても研修を受けたことで、これまで以上に同僚とも話し合い、具体的なプランを立てやすくなりました。

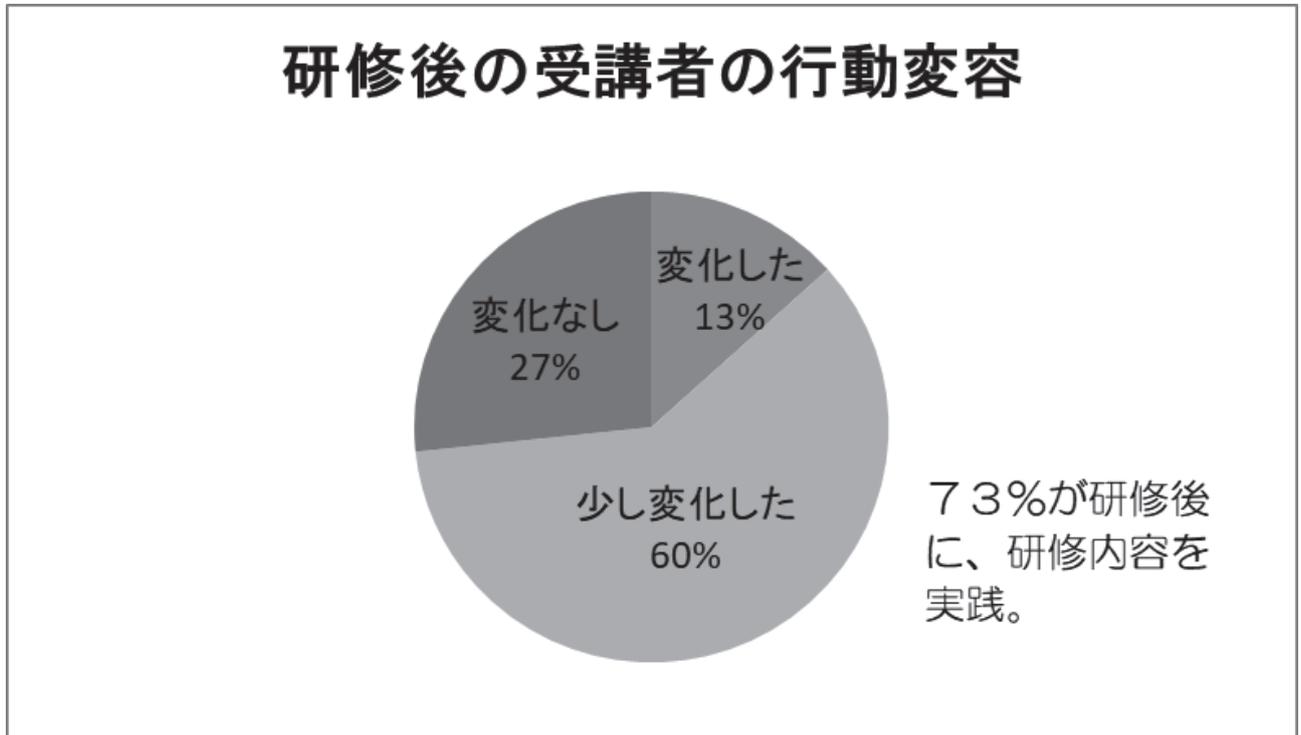
研修名	ケース記録の基礎と活用
目的	<p>ケース記録は、利用者の状況把握や職員間の情報共有、サービスの見直し等、支援の質の向上に欠かせないものです。また、リスクマネジメントやクレーム対応の観点からも大変重要です。</p> <p>この研修では、ケース記録の目的や意義を理解し、事実と判断を区別した誰が見てもわかりやすい記録作成のポイントや活用方法を学びます。</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任・中堅職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年2月8日(木)
開催日数	1日
定員	30名
受講人数	22名
申込者数	22名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
2/8 (木)	10:00～16:00	<p>○講義・演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義と目的</li> <li>・記録の書き方の基本・留意点</li> <li>・記録の5要素</li> </ul>	<p>京都保育福祉専門学院 副学院長  京都ほせん研修センター センター長  岡本 匡弘</p>

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
記録（人）	2	9	4	15
割合	13%	60%	27%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったケース記録の基礎と活用15名についての結果。



#### 受講者の感想（抜粋）

- ・目で見えた状況や利用者様がおっしゃった内容について、主観がないか注意し、正確に状況が分かりやすく伝わるよう意識して記録するようになりました。
- ・不適切と思われる言葉を使用しないよう心がけ、利用者を注意深く観察し、些細なことでも記録に残すようになりました。

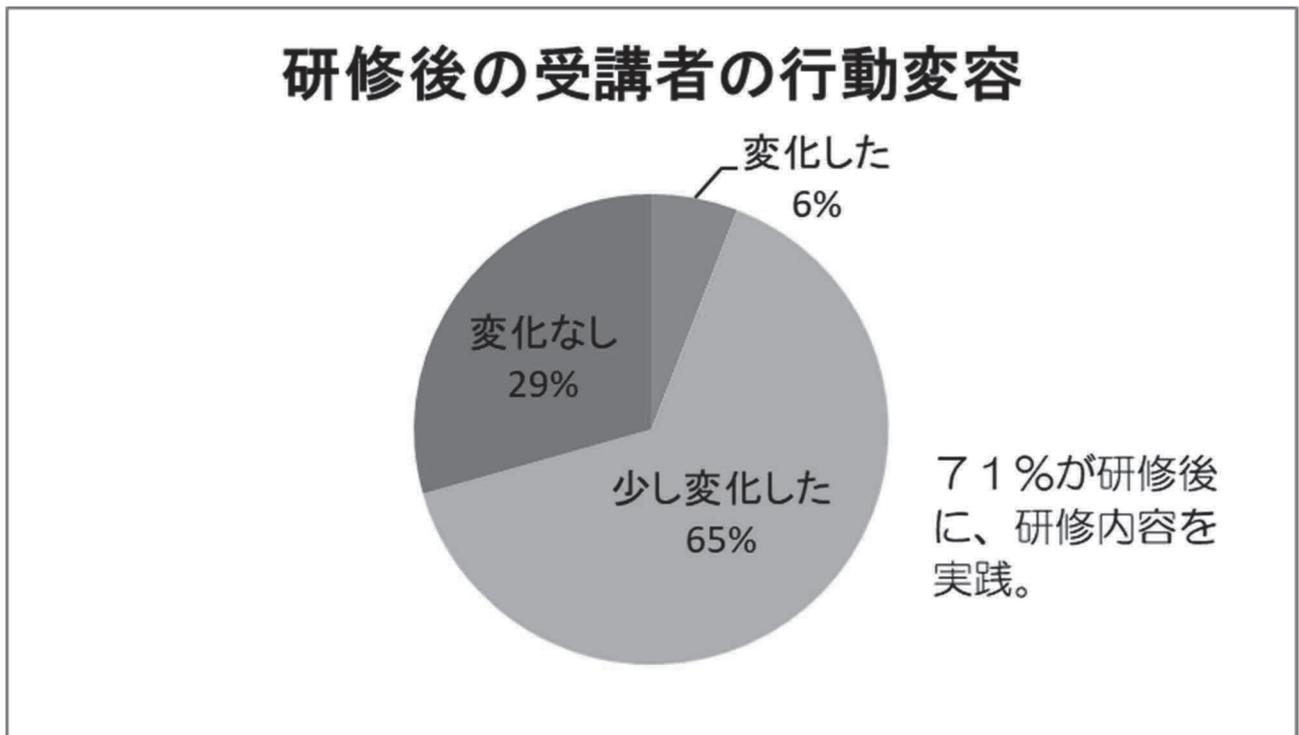
研修名	スーパービジョン基礎講座
目的	この研修では、職員を支え、育てるために必要なスーパービジョンの基礎を学びます。 対人援助の価値を振り返り、支援の気づきを促す方法や、職員が自分の強みを活かせるような関わり方等を学び、職員に寄り添い、ともに育つことで、より良い支援を実践しましょう。
対象	市内社会福祉施設（児童・障がい・高齢等）・団体に勤務する職員 職員を指導する立場の方
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年11月9日（木）
開催日数	1日
定員	30名
受講人数	24名
申込者数	24名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
11/9 (木)	10:00～16:00	○講義・演習 ・スーパービジョンとは ・職員とのコミュニケーション ・チームワーク、リーダーシップ ・安心して悩める場づくり 等	同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 空閑 浩人

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
S V基礎講座（人）	1	11	5	17
割合	6%	65%	29%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったスーパービジョン基礎講座17名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・自分が率先して仕事をすることで、後輩に真面目に取り組んでいる姿を見せることができている。仕事の話やプライベートの話を通して、積極的にコミュニケーションを取っています。
- ・「人を大切にする職場は人が辞めない」を意識して、職員との関係づくりに役立っています。
- ・日々の関わりを大切にしつつ、スーパービジョンの時間を意図的に行うようにしています。

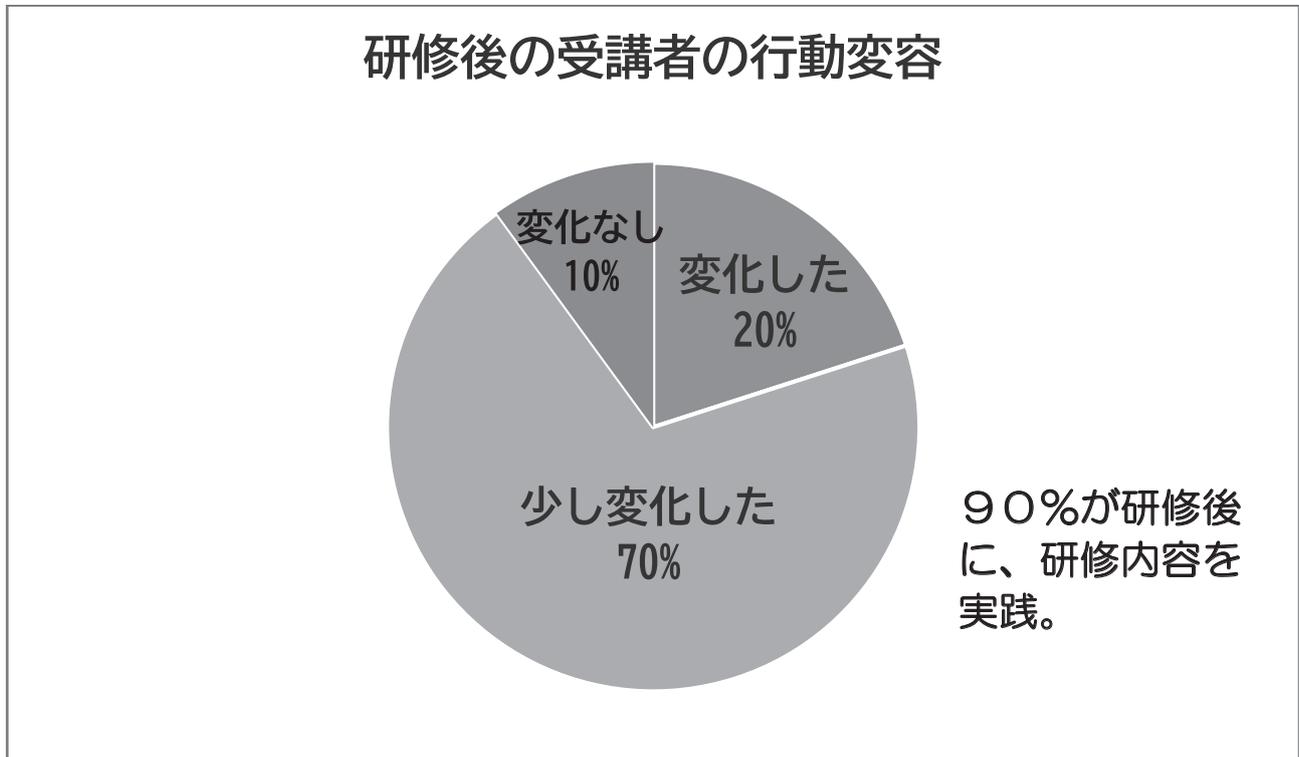
研修名	「わたし」も「あなた」もOK！ アサーション～「感情労働」から考えるコミュニケーション～
目的	「言いにくいこと」 あなたは、うまく伝えられていますか？ 対人援助職は個人的な感情や価値をコントロールし、いかに相手の感情を受容し理解するかが求められます。その一方、皆さんは、仕事や生活の場面で「相手のことばかり考えて自分の伝えたいことが伝わらない」「自分のことを伝えてばかりで相手を傷つけてしまう」…そんな経験はないですか？ この講座では、対人援助職を「感情労働」ととらえ、「ご利用者」や「働く仲間」と対等な関係を結ぶための、アサーティブコミュニケーション（相手のことを思いやりながら率直に自分の伝えたいことをきちんと表現する）を学びます。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する経験年数3年以上の職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年2月17日（土）・18日（日）
開催日数	2日
定員	20名
受講人数	15名
申込者数	16名
会場	京都テルサ

開催日	時間	テーマ	講師
2/17 （土）	13:30～16:30	○講義・演習 「対人コミュニケーション」 「自己の対人関係上の特徴」	天理大学医療学部看護学科 教授 上仲 久 氏
2/18 （日）	10:00～16:00	「上手に伝えるためのシナリオ作りとロールプレイング」 「ロールプレイングとまとめ」	東舞鶴医誠会病院 看護師 堀江 正弘 氏

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
アサーション (人)	2	7	1	10
割合	20%	70%	10%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったアサーション研修10名についての結果。



#### 受講者の感想 (抜粋)

- ・ 今までは「自分の思いを相手に伝えたい」との思いが強く、焦りから相手の言葉をさえぎり一方的に主張する場面が多かった。今は「自他尊重」の考えから相手の主張を聞くゆとりが生まれました。
- ・ 自分の思いはハッキリと伝えることが相手のためになることを学んだので上司に具体的に思いを伝えることを意識できるようになりました。
- ・ ～にこしたことはないよね・でも〇〇〇〇の丸の部分に自分の気持ちも伝えるようにすることで自身のストレスが少なくなりました。

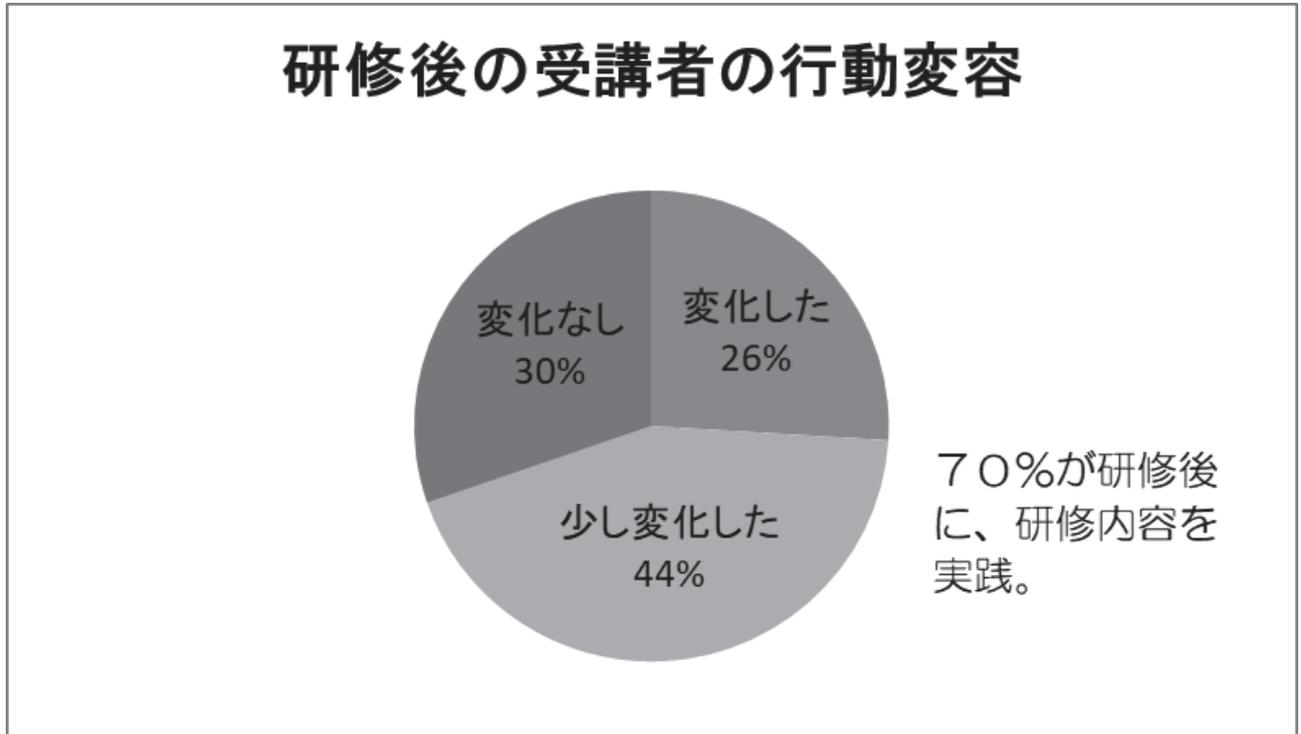
研修名	～気持ちに寄り添う～福祉職場のマナー研修 オンライン動画視聴型研修
目的	社会人になったばかりで丁寧な対応に自信がないとか、福祉職場でのマナーを学ぶ機会がなかったなど、どうすればご利用者等に信頼してもらえる丁寧な接し方ができるか、お悩みではありませんか？ この研修では、丁寧な対応がご利用者等の安心、信頼につながる「福祉職場のマナー」を動画視聴型研修で学びます。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する新任職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年5月1日（月）～9月29日（金）
視聴時間	前編：50分 後編：40分
定員	40名
受講人数	37名
申込者数	38名
会場	動画視聴型研修のため、会場なし

開催日	時間	テーマ	講師
5/1 （月） ～ 9/29 （金）	前編：50分 後編：40分	ご利用者等の気持ちに寄り添う マナー	キャリアコンサルタント 安藤 ゆかり

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
マナー (人)	6	10	7	23
割合	26%	44%	30%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職場のマナー研修23名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・「声と顔は連動している」と学び、マスクをしていても笑顔で声を出すと印象が変わると学んだので実践しています。語尾までしっかり話すことも心がけています。
- ・否定的な内容を肯定的な形に変えて伝えるようにしています。



專門課題別研修（組織運営系）

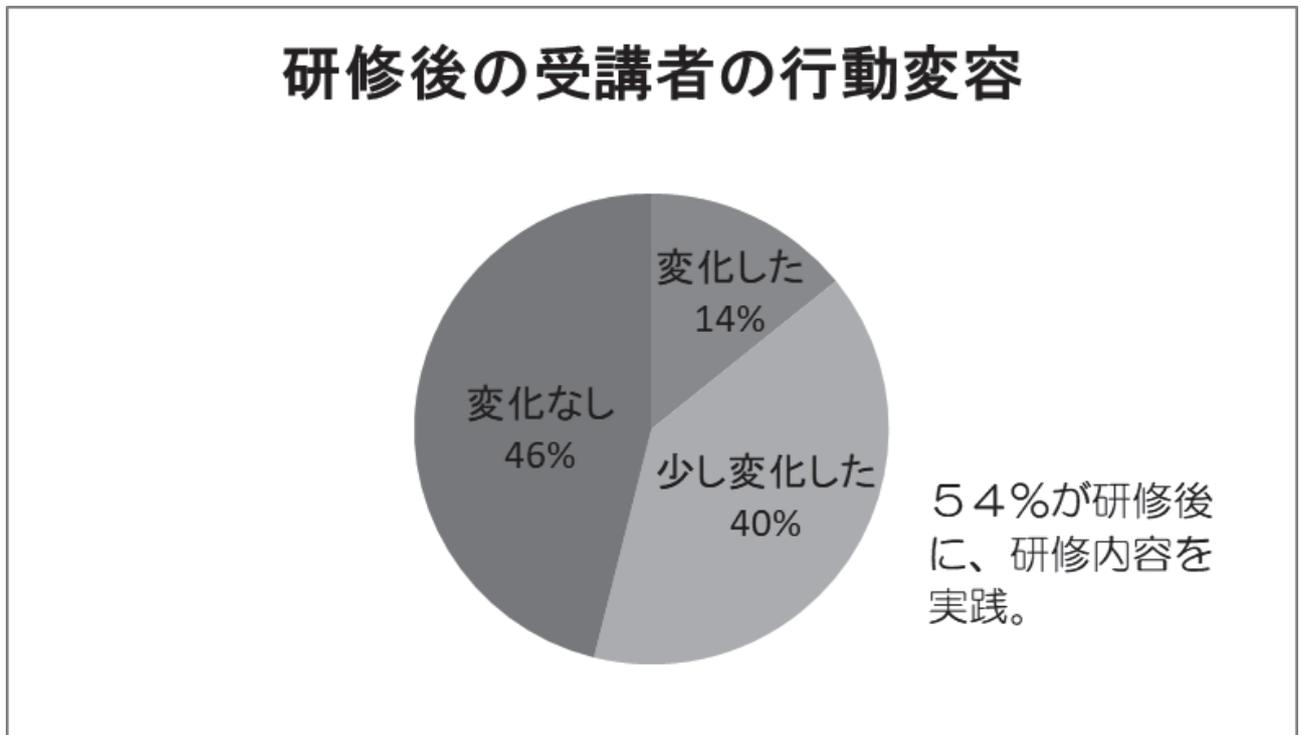
研修名	はじめての広報研修～組織と読み手をつなぐ情報発信とは～オンライン動画視聴型研修
目的	WEBサイトやSNSを運用する際の注意点、見てもらえる記事を作成するためのポイント、想定されるリスクの管理等について学びます。 魅力的な広報で活動を知ってもらい、施設のファンを増やしましょう！
対象	市内福祉施設・団体に勤務する広報担当者
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年5月22日（月）～7月21日（金）
視聴時間	約1時間15分
定員	20名
受講人数	35名
申込者数	35名
会場	動画視聴型研修のため、会場なし

開催日	時間	テーマ	講師
5/22 （月） ～ 7/21 （金）	約1時間15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「広報担当者の仕事」とは</li> <li>・WEBサイト・SNSの運用3つの失敗例から学ぶ</li> <li>・WEBサイト・SNSに掲載しておきたい情報とは？</li> </ul>	株式会社エイデル研究所 大園 早紀

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
はじめて広報(人)	4	11	13	28
割合	14%	40%	46%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったはじめての広報研修28名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・掲載内容の確認を複数で行うようにしました。発信の目的に変更はありませんが、職員全体で目的を共有しています。
- ・お便りをどう受けてもらいたいかをより強く意識するようになりました。また、写真などの個人情報の取扱いにより注意を払うようにしています。

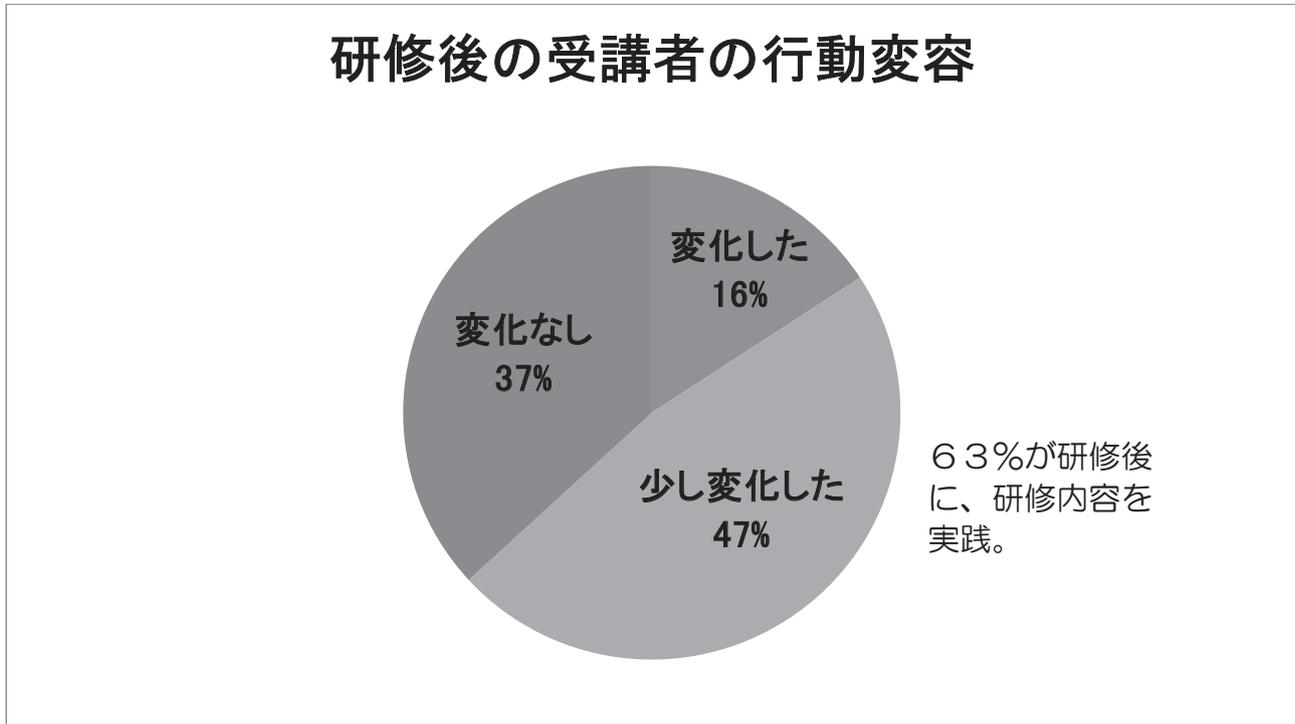
研修名	リスクマネジメント研修《一般職員編》～現場職員の基礎知識と心構え～
目的	リスクマネジメントは、担当者だけでなく職場全体で取り組むことが重要です！ この研修は、職員がリスクマネジメントに対する共通認識をもち、一人ひとりが安心・安全なサービスの提供や、万が一の場合の適切・誠実な対応を実践することで、利用者・家族との信頼関係を築き、福祉・介護サービスが社会的な信頼をさらに高めることをめざします。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年2月1日（木）
開催日数	1日
定員	40名
受講人数	24名
申込者数	24名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
2/1 (木)	10:00～16:00	○講義・演習 「リスクマネジメント概論」 「福祉・介護現場におけるリスクマネジメント」 「リスクマネジメントを進める体制整備」 「事故防止」「苦情対応」 「私の施設・事業所のリスクは？対応の『強み』と『弱み』」 「事故対応・苦情解決のシミュレーション」	(福)リガーレ～暮らしの架け橋～ 総括マネージャー 村田 麻起子

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
リスク一般（人）	3	9	7	19
割合	16%	47%	37%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったリスクマネジメント研修一般職員編19名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 誰か個人の責任を問いがちでしたが、生活の中で起こり得るものとして、対応の担当を決めて周りが協力するなど、根本的な業務改善に取り組むようになりました。
- ・ 日頃から何でも話せる職場環境の改善や職員間で報告・連絡・相談を積極的に行うように意識するようになっていきます。

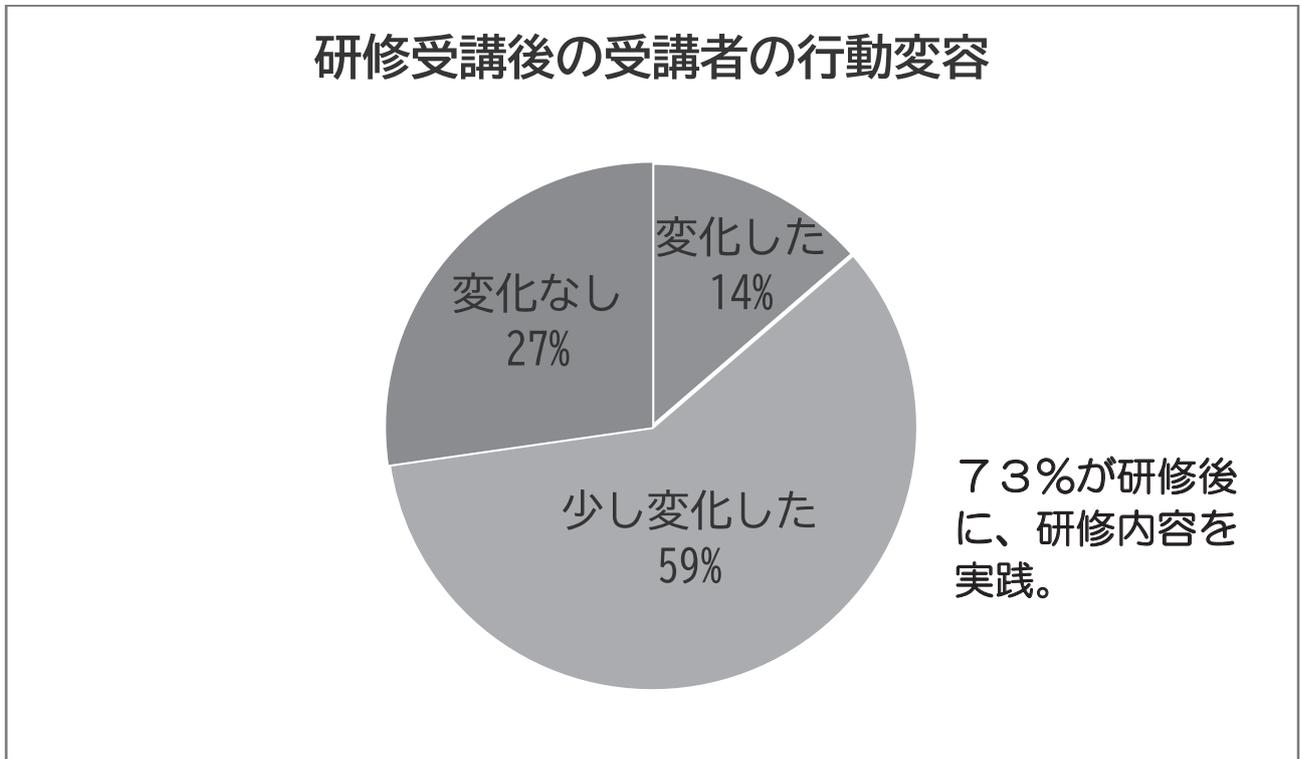
研修名	リスクマネジメント研修《担当職員編》 ～利用者・家族・地域に信頼される組織づくりを目指して～
目的	「職場のリスクマネジメントは十分ですか？」 様々なリスクをできる限り予防するために「事故やヒヤリハットの要因分析のポイント」、「苦情申立に対する法的対応や事後処理と保険」、「リスクに対する組織力の活用、報告・連絡・相談のポイント等」について学びます。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務するリスクマネジメント担当職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年5月15日（月）・29日（月）
開催日数	2日
定員	40名
受講人数	29名
申込者数	32名
会場	ひと・まち交流館 京都、京都リサーチパーク

開催日	時間	テーマ	講師
5/15 （月）	10:00～10:40	○研修オリエンテーション	（福）リガール暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子
	10:50～12:00	○講義 「苦情申立から見た事故・苦情の処理」	みやこ法律事務所 弁護士 小田 宏之
	13:00～15:30	○講義 「事後処理と保険」	株式会社ユメコム 代表取締役 橋本 珠美
	15:40～16:00	○1日目のまとめと2日目の準備について	（福）リガール暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子
5/29 （月）	10:00～16:00	○講義・演習 「インシデントレポートの活用」 「職場での課題解決の実践」	（福）リガール暮らしの架け橋 総括マネージャー 村田 麻起子

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
リスク-担当 (人)	3	13	6	22
割合	14%	59%	27%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったリスクマネジメント研修(担当職員編)22名についての結果。



#### 行動変容内容 (抜粋)

- 自身がサービス向上委員会（リスクマネジメント委員会を改称）の中心的な立場を任せられ、特にヒヤリハット・事故、及び虐待防止・権利擁護の担当者として、当事業所からの福祉サービスの提供に関する、質の向上を図るようにしています。特に7月初旬に「ヒヤリハット啓発週間」として事業者内でヒヤリハットの意識高揚に努め、ヒヤリハットにつながりそうな事象まで踏み込んで所属職員から報告を集めるようにしています。
- 普段から事故の対応に関して、自分なりに意識するようになっていましたが、今回受講したことで、当事者の相談苦情事故対応マニュアルを改めて読み返し、意識だけでは改善や対応ができないことに気付きました。今後も事故防止に努めるためにも、ヒヤリハット報告が出しやすくなるよう、用紙の置き場所などを職員全員と相談しています。

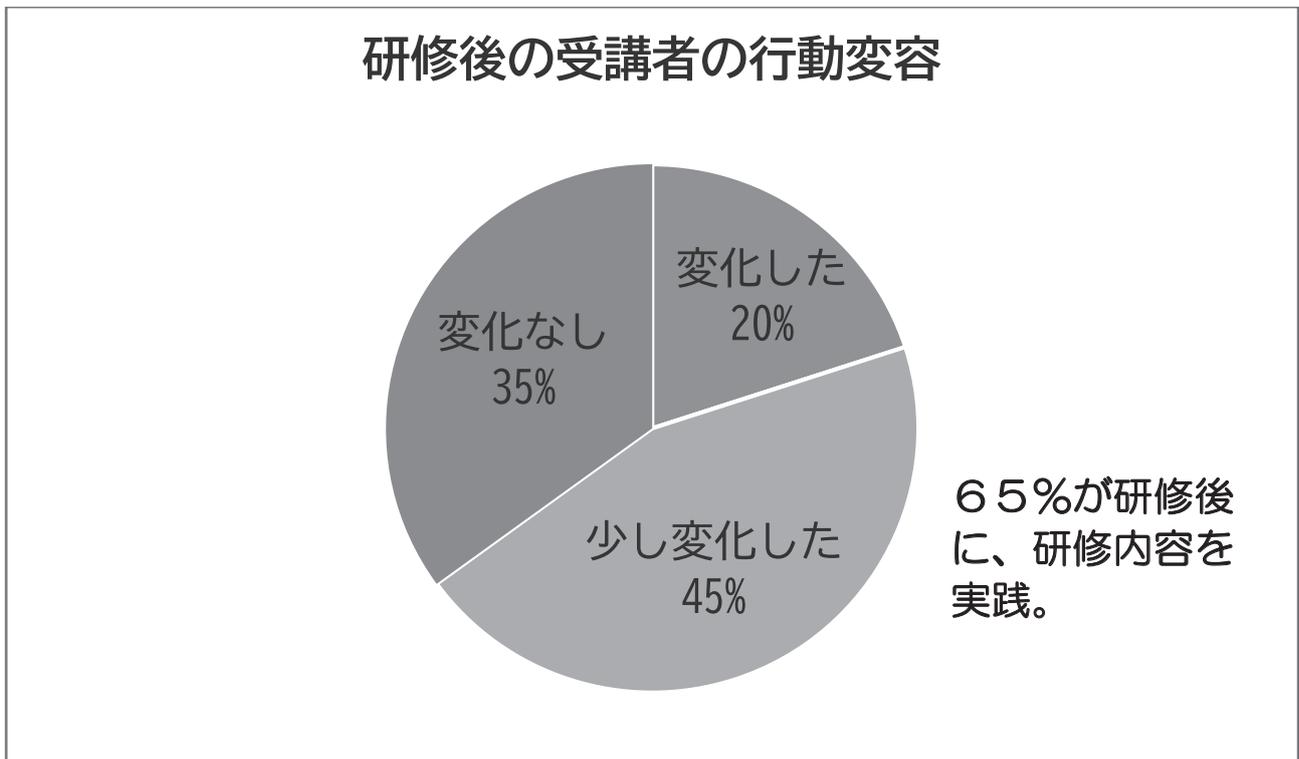
研修名	福祉職員のためのコーチング講座 ～主体性を引き出し、人を育てるコミュニケーション～
目的	人を育てるスキル「コーチング」の基本を身につけることで、後輩育成に活かすとともに、指導的立場の職員としての役割を主体的に遂行できることを目指します。 《目標》コーチングの概念および基本スキルを理解し、実践できるようになる。 自分のコミュニケーションのクセに気づき、改善ポイントを見つける。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的立場の職員
共催	京都市保育園連盟
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年11月27日(月)
開催日数	1日
定員	24名
受講人数	23名
申込者数	24名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
11/27(月)	10:00～ 16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義と演習</li> <li>「コミュニケーションの重要性」</li> <li>「コーチングとは」 <ul style="list-style-type: none"> <li>コーチングとティーチングの違い</li> <li>リーダーシップ・スタイルの違い</li> <li>コーチングとカウンセリングの違い</li> </ul> </li> <li>信頼関係が基礎となるコミュニケーション</li> <li>「コーチングの基本スキル」 <ul style="list-style-type: none"> <li>聴く (アクティブ・リスニング)</li> <li>認める (承認する)</li> <li>質問する (相手のプラスになる効果的な質問)</li> </ul> </li> <li>○コーチング実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>話の聴き方トレーニング</li> <li>コーチング・フロー</li> </ul> </li> </ul>	株式会社ナースハート 代表取締役 井上 泰世

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
コーチング（人）	4	9	7	20
割合	20%	45%	35%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職員のためのコーチング講座20名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- 今までは、すぐに解決方法を伝えていたが、よくないということを学びました。研修で学んだ内容を活かし、面談や相談事があれば聴くに徹することができました。
- 指導的な関わりから対話をもとに、相手に問いかけることを意識しながら答えを引き出すように心がけるようになりました。
- アドバイスとは違う、コーチングの大切さを教わりました。自分で考えて働く職員に育つよう伝える努力を実践しています。
- 対象者に対し表情を見て話すようになりました。また、相手のことを知らずにコミュニケーションを取っていたため、可能な限り会話中は、手を止めて対応するようにしています。

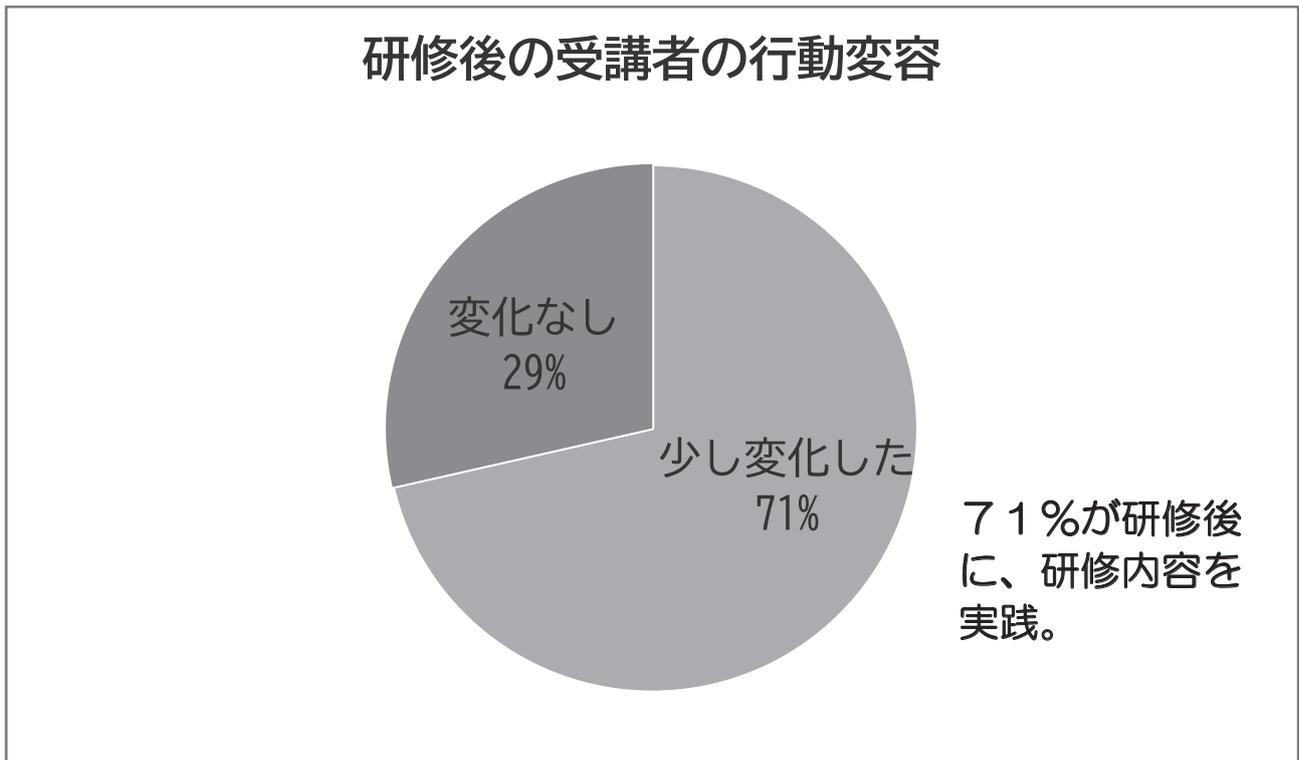
研修名	問題解決のための思考法 ～TOCを活用した取り組みやすくなる工夫～
目的	この研修では問題を把握することや、TOC理論による現状分析、職員が取り組みやすくなるための心理的フォローの方法を学びます。 問題を解決するための手法を学び、よりよい職場づくりに活かしましょう。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年11月17日（金）
開催日数	1日
定員	24名
受講人数	12名
申込者数	14名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
11/17 （金）	10:00～16:00	○講義・演習 「問題解決の思考の流れ」 「制約理論TOCとは」 「クラウドワーク」 「対立する意見の先にある共通の目的を見つける」 「歩み寄るために・感謝の表明」等	キャリアコンサルタント 安藤 ゆかり

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
問題解決(人)	0	5	2	7
割合	0%	71%	29%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった問題解決のための思考法7名についての結果。



#### 受講者の感想（抜粋）

- スタッフの話を不満としてではなく、職場に対する意見として前向きに捉え、会議で話合う機会を設けることができました。
- 対立意見に対し深く考えるようになり、職員からの意見を行動に変える方法を考えるようになったことで、物事を早く進められるようになりました。
- 職員から出た意見に対し、話し合いに対して感謝するようになりました。

研修名	職場内研修担当職員研修「職場の活性化を図る研修を企画しよう！」
目的	<p>【研修のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修担当者として人材育成の重要性を認識し、職場内研修についての自職場での取り組みを振り返ります。</li> <li>・ 自職場での職員研修を充実させます。</li> <li>・ 自職場での職員研修計画を見直します。</li> </ul> <p>⇒職場の活性化を図る。 ⇒職場の人材育成の仕組みを強化する。</p> <p>【本研修プログラムの特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他施設の研修計画などの情報が得られます！</li> <li>・ 研修プランニングの方法を習得することができます!!</li> <li>・ 他施設の研修担当者同士の交流を深めることができます!!!</li> </ul>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職場内研修担当の方
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年12月14日（木）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	17名
申込者数	17名
会場	京都私学会館

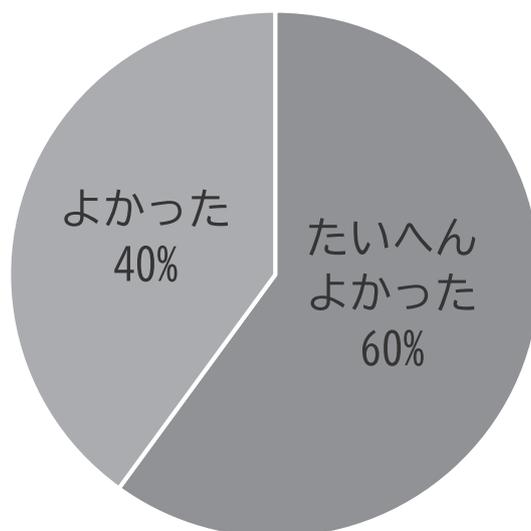
開催日	時間	テーマ	講師
12/14 (金)	10:00～11:10	○導入講義 ○実践報告 「各施設における職場内研修の現状と課題」	(福) 京都福祉サービス協会 施設部 本部長 井上 章
	11:10～12:00	○情報交換	《実践報告》 株式会社 Unity 代表取締役 鯉江 宏樹
	13:00～16:00	○グループ演習 「『職場の活性化』をテーマとした研修プランを作成」	NPO 法人ロックファーム京都 就労継続支援事業所ロックスターズ 中川 忍

## 直後アンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考にな らなかった	合計
研修担当（人）	9	6	0	15
割合	60%	40%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった職場内研修担当職員研修15名についての結果。

### 研修直後の受講者の感想



#### 受講者の感想（抜粋）

- 他の事業所の研修方法など参考になりました。実際の困りごとやニーズに合わせて研修をするというところを自身の研修にも生かしたいと思います。
- 理念は大事だと理解していましたが、職場の活性化についても必要なことです。マンネリ化になりやすい法定研修は方法を変えるだけでマンネリ化を防ぐことができると理解できた。
- 人材不足や業務が多いため、研修に参加しにくい現状があることがわかりました。また、研修目的を明確にすることで、楽しく学べる雰囲気づくりや工夫・研修報告書を簡潔にするなど、気軽に受講するきっかけを作ることが大切だと学ぶことができました。
- 実戦報告がわかりやすく興味を持って聞けました。職場の活性化のために必要な「法人の理念を達成できる人材育成」がとても参考になり自施設でも活かしたいと思いました。

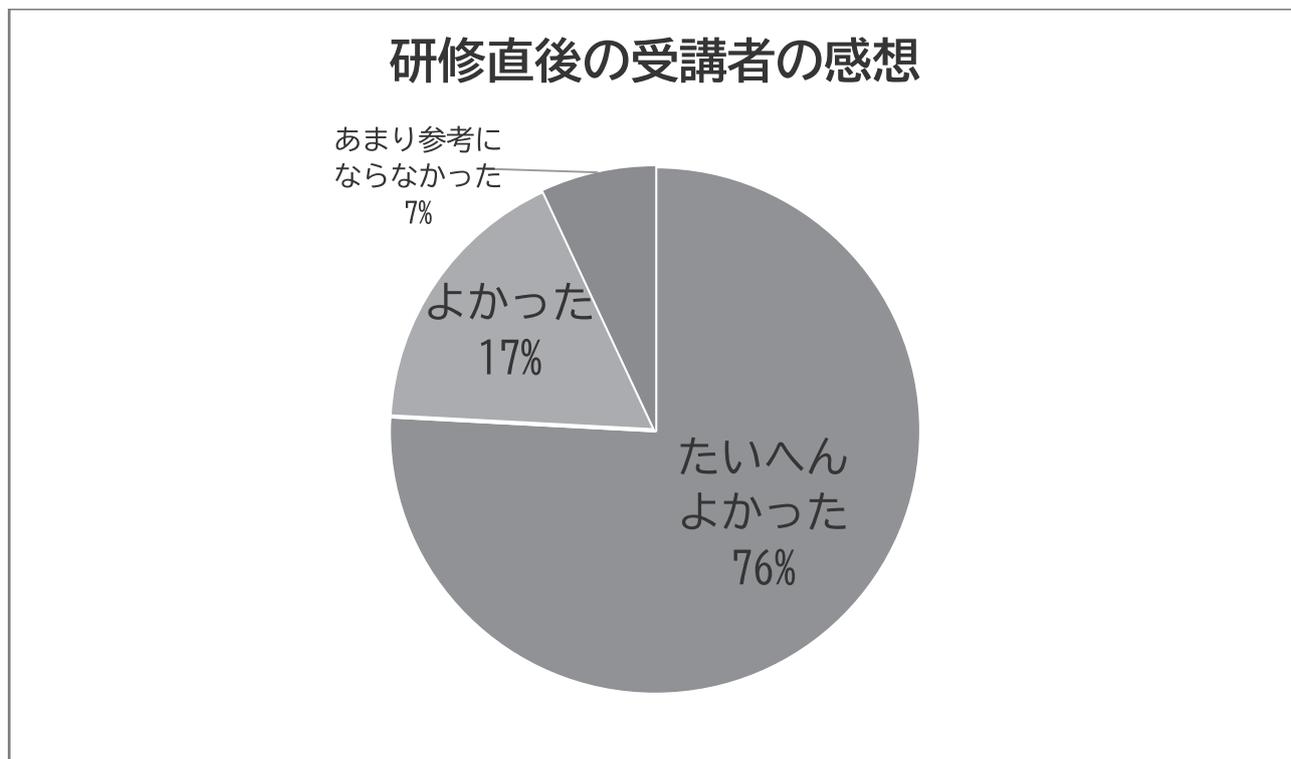
研修名	社会福祉実習担当職員研修
目 的	<p>本研修は、社会福祉専門職を志す学生の現場実習において、実習受け入れ施設・機関と大学が連携を深め、協力して学生の学びをより充実することを目的に毎年開催しています。今年度は、「新カリキュラム実習プログラムをどうつくり、どう指導するのか」というテーマで、学生への実習教育のあり方を皆様とともに考える機会にしたいと思いをします。</p> <p>2021年度から、ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）の新カリキュラムが始まりました。実習については、2か所以上の実習先において合計240時間が課されることとなりましたが、その組み立て方は、養成校によってまちまちです。第1回目は60時間で1回生又は2回生の時に実習し、第2回目は180時間で3回生ないしは4回生の時に実施する養成校もあって、受け入れる実習配属先ではどのような実習プログラムを作成すればよいか、養成校ごとに異なる対応を迫られ、悩んでおられる実習指導者も多いと思います。</p> <p>さらに、実習受け入れ先での学生への日々の指導は実習指導者以外の職員が担当することが多いことから、上記のように養成校の実習の組み立て方が様々であることによって、実習のねらいや目的の周知、学生の実習課題等の情報共有、指導における職員間の連携がますます重要となっています。</p> <p>そこで、今回の実習では、昨年度すでに実習した第1回目が60時間の実習の場合と、今年度第1回目に180時間実習を予定している場合について、配属実習先の実習指導者と養成校の指導教員、それぞれの立場から話題提供をしていただきます。あわせて、職員全体で実習指導に当たるための問題や課題についても共有し、後半のグループディスカッションでさらに皆さんで話し合いたいと思います。</p>
対 象	社会福祉施設・機関及び大学の実習関係者
共 催	京都児童福祉施設実習教育連絡協議会
開催時期	令和5年9月2日（土）
開催日数	1日
定 員	50名
受講人数	40名
会 場	大谷大学 慶聞館4階 K405

開催日	時 間	テ ー マ	講 師
9/2 (土)	13:30～ 16:30	社会福祉実習担当職員研修 「新カリキュラム実習プログラムをどうつくり、どう指導するのか」	≪話題提供 養成校≫ ① 立命館大学 教授 田尾 直樹  ② 京都光華女子大学 教授 千葉 晃央  ≪話題提供 実習指導担当職員≫ ① 飛鳥井ワークセンター 石田 靖  ② つばさ園 北山 友佳子

## 直後アンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考にな らなかった	合計
実習担当（人）	22	5	2	29
割合	76%	17%	7%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった社会福祉実習担当職員研修29名についての結果。



### 受講者の感想（抜粋）

- ・ 他施設のプログラムや工夫していることについて知ることができました。また、養成校からの話を聞いたことで、受講生受入れ時の参考にできると思いました。
- ・ プログラムも施設によって様々ですが、新カリキュラムの内容について、情報共有ができたのが、とても有意義な時間でした。
- ・ 自分自身の実習指導する中で悩みを他施設の指導者との意見交換ができたことは、今後に活かせる内容だったと思います。
- ・ 他施設、学校の様々な立場で色々な考え方や意見を聞くことができました。今後の受講生受入れに向けて貴重な話しを聞くこと機会が得られたことでよかったと思います。

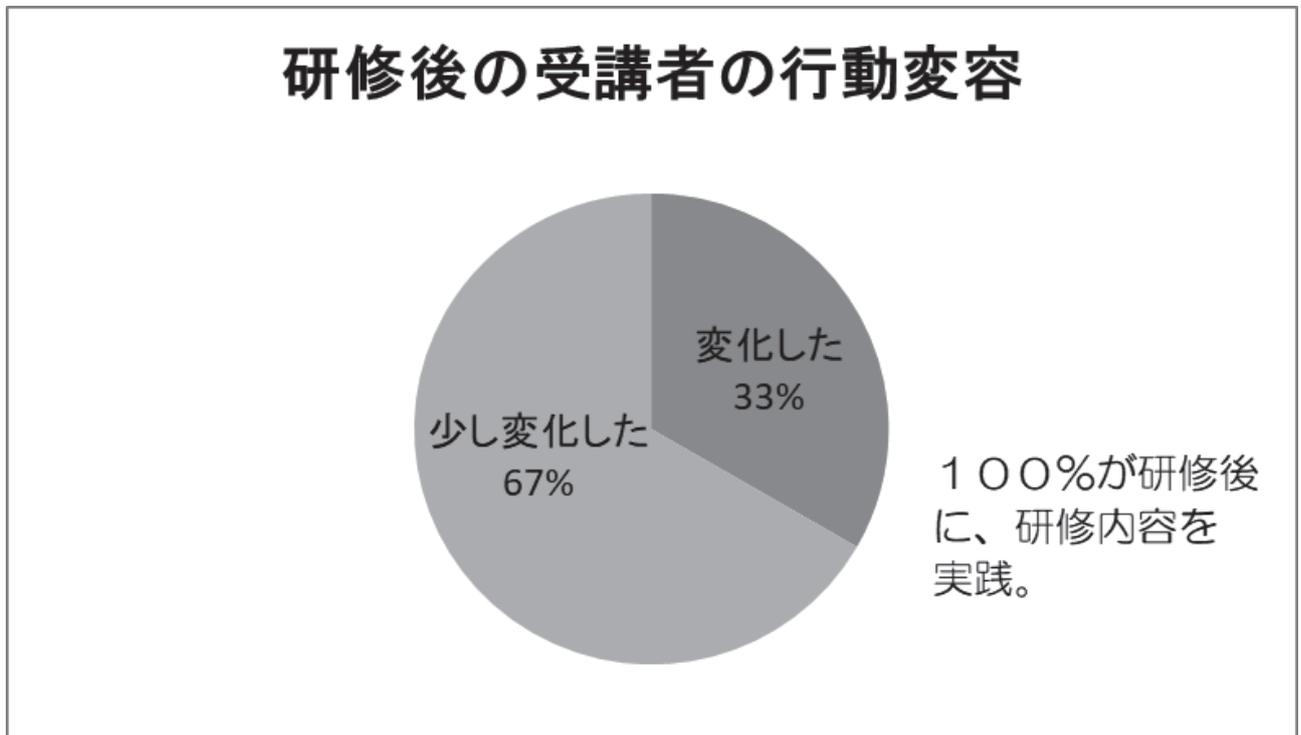
研修名	ファシリテーション～人を動かし、会議を活性化させる～
目的	<p>会議の司会者になることはあるけど、活発な議論ができていない... 会議はするけど結論がハッキリしない... そんな会議を行っていますか？</p> <p>ミーティングや大事な会議の進行を行う時、「会議のゴールイメージ」を立てているかどうかで、結果は全く変わってきます。</p> <p>職員の意見を引き出す方法や協議内容共有の方法（可視化）、チームビルディングの大切さ等、効果的な「ファシリテーション」の技術について演習を交えて学びます。</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年7月27日（木）・8月3日（木）
開催日数	2日
定員	24名
受講人数	16名
申込者数	19名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
7/27 (木)	13:30～16:30	○講義・演習 「ファシリテーションの基本的考え方」 「人の意見やアイデアを引き出す技術」 「ラボラトリーという考え方(学びの循環)」	NPO法人学生キャリア支援 ネットワーク代表 コンテンツプロデューサー  講師 梶谷 康則
8/3 (木)		「会議を作るファシリテーション」 「チーム・ビルディングの大切さ」 「自分の性格や癖の分析と行動対策」 「まとめる技術の実践(どのようにまとめるか)」 「可視化の重要性と技術」 「会議運営の基本は、丁寧な準備から」 「ファシリテーション会議運営の実践」	

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
ファシリ (人)	4	8	0	12
割合	33%	67%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったファシリテーション12名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・会議の目的、ゴールをイメージして、準備するようになりました。
- ・会議の運営をする時に、ねらいや枠組み、スケジュールの共有を事前に行うようにしています。

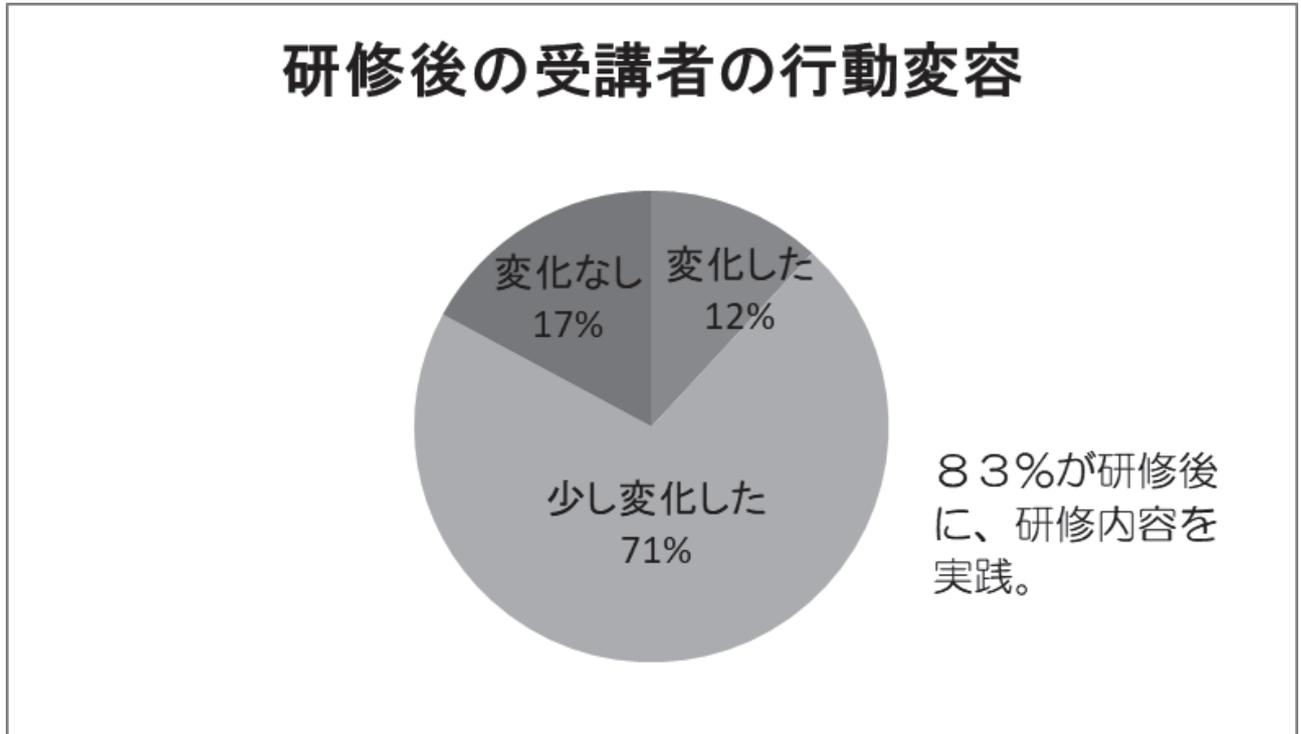
研修名	OJTリーダー育成研修 ～人を育てる！職場が変わる！！～
目的	福祉職場における人材育成において、「職務を通して行うOJT」は職場の土台づくりそのものです。 「きょうと福祉人材認証制度」においても事業所における「OJT体制の構築」の必要性が取り上げられるなど、OJTの重要度はますます高くなっています。 この研修では、OJTにおいて育成チームの要となるOJTリーダーにスポットを当て、職場でOJTを導入し意図的・計画的・継続的に推進する手法の獲得を目指します。 受講者であるリーダーには、実際に職場で対象者を定め、所属長の協力も得ながら自身の取り組みを振り返っていただくという職場実践も含めた「超参加型」研修です。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する指導的職員
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年7月10日(月)・9月13日(水)
開催日数	2日
定員	24名
受講人数	22名
申込者数	24名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
7/10 (月)	10:00～16:00	○講義・演習 「OJTとは」 「OJT構築の方法」 「OJTの実践」 「OJTのためのコミュニケーション(コミュニケーションタイプ)」 「職場実践の共有」 「OJTのためのコミュニケーション(ほめて育てる)」	株式会社スリー・バイ・スリー 代表取締役 勝見 九重
9/13 (水)			

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
OJT (人)	2	12	3	17
割合	12%	71%	17%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったOJTリーダー育成研修17名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・今までの人材育成はできていないことばかりに目を向けてしまっていたのですが、相手の良い所を見つける努力をするように気をつけるようになりました。
- ・対象者のことをよく知るために、今まで以上に話す機会が増えました。どうアドバイスすれば分からない時はすぐ上司に報告し、早めに対応するように意識しています。

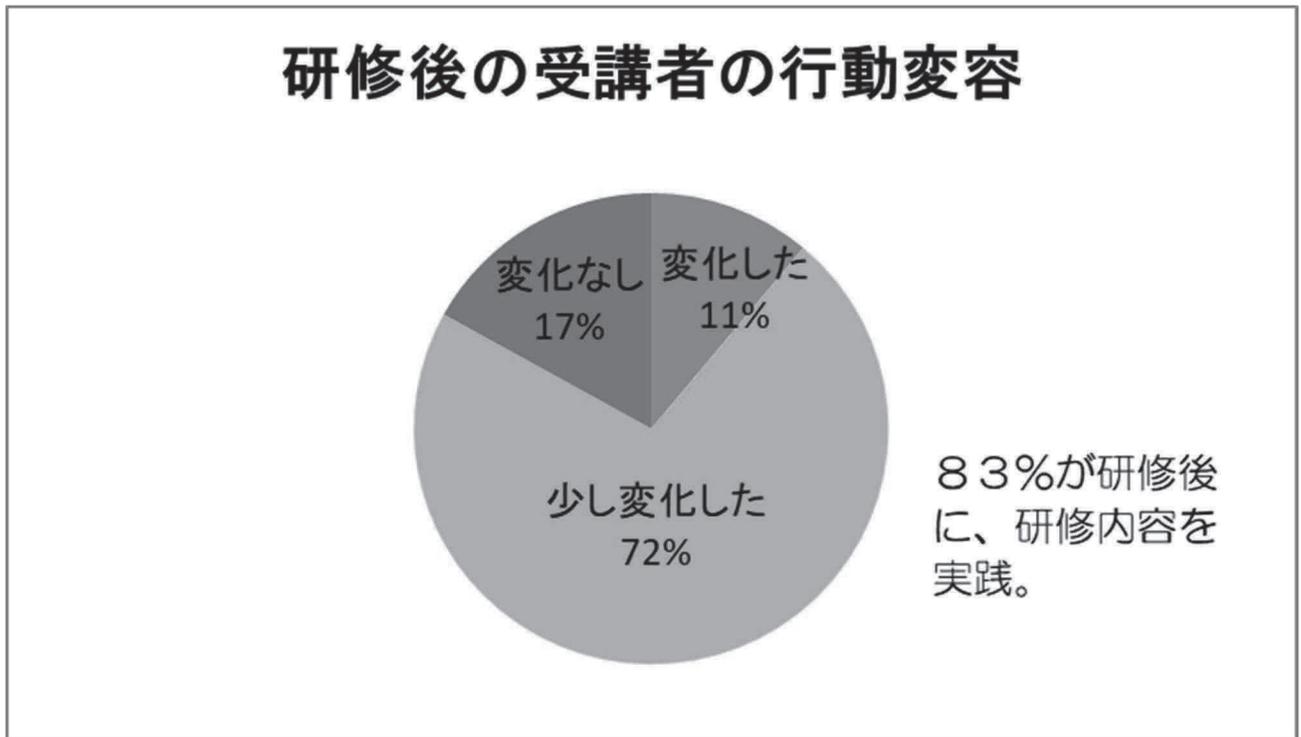
研修名	福祉職員のためのアンガーマネジメント講座 ～怒りの感情と上手につきあうために～
目的	人と人との関わり合う福祉職場においては、心に余裕がない時、人間関係がうまくいっていない時など、相手に対してイライラすることがあります。 「怒り」は誰もが持っている感情で、それ自体は悪いものではありません。大切なのは、怒りをしっかりコントロールする術を身につけることなのです。 虐待防止対策のひとつともなっている「アンガーマネジメント」を学び、自分の感情と上手につきあうことで、よりよい支援を実践していきましょう。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年1月26日（金）
開催日数	1日
定員	40名
受講人数	30名
申込者数	30名
会場	ひと・まち交流館京都

開催日	時間	テーマ	講師
1/26 （金）	10:00～16:00	○講義・演習 ・「アンガーマネジメント」とは ・「怒り」の感情とは ・「アンガーマネジメント」実践テクニック ・自分の「怒りの傾向」に合わせた対処法 ・怒りの原因となりやすい6つのコアビリーフ ・「アンガーマネジメント」を習慣化するために	株式会社ナースハート 代表取締役  一般社団法人日本アン ガーマネジメント協会 認定アンガーマネジメ ント コンサルタント 井上 泰世

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
アンガー (人)	2	13	3	18
割合	11%	72%	17%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったアンガーマネジメント講座18名についての結果。



### 感想 (抜粋)

- ・カッとするような時があったら、6秒待ってみたり自分なりのコーピングマントラを考えたりしています。
- ・自分の怒りの傾向を知り、周りの人との価値観の違いを意識し、相手の立場に立って考えることに気をつけるようになりました。

研修名	心に響く！伝える技術 プレゼンテーション研修 ZOOMオンライン
目的	<p>アイデアは持っているが、どう伝えればいいのかわからなかったり、研修内容を他の職員に伝えたくても、わかりやすい伝え方がわからないのは、そういった伝え方を学んできていないからです。</p> <p>プレゼンテーションは、企画提案や報告・連絡・相談、伝達研修などを相手に分かりやすく伝え、受け入れてもらうための技術です。</p> <p>伝え方の基礎知識や工夫、実際のプレゼンテーションを見たり、演習に行うことにより、心に響く、伝える技術を学びます。</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する職員
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年6月27日(火)
開催日数	1日
定員	24名
受講人数	18名
申込者数	20名
会場	オンラインのため会場なし

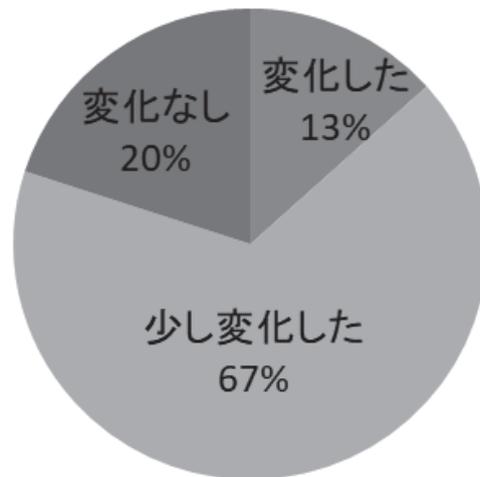
開催日	時間	テーマ	講師
6/27 (火)	10:00～15:00	<p>○講義・演習</p> <p>「プレゼンテーションの基礎知識」</p> <p>「プレゼンテーションの種類」</p> <p>「プレゼンテーションの流れ」</p> <p>「ストーリー作り」</p> <p>「TEDに学ぶプレゼンテーション」</p> <p>「演習 プレゼンテーションの実際」</p>	<p>京都光華女子大学 短期大学部</p> <p>ライフデザイン学科</p> <p>教授 森際 孝司</p>

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
プレゼン (人)	2	10	3	15
割合	13%	67%	20%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったプレゼンテーション研修15名についての結果。

## 研修後の受講生の行動変容



80%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- ・相手が自分の意図や話を理解しているか、同じように捉えているかどうかを確認しながら話すように意識しています。
- ・準備するポイントが明確になり、準備に割く時間が短縮できたと感じています。

研修名	職員のやる気を引き出す モチベーション・マネジメント ハイフレックス型研修
目的	現在の社会情勢として、働き方改革の推進により、残業の減少や働く職員の生産性向上（限られた時間で高い成果を出すこと）が問われるようになってきています。また、雇用の面では人材確保・定着が課題となっています。 生産性を向上させるためには、職員ひとりひとりの『意欲』（やる気）を引き出すことが何よりも大切です。 法人理念の実現に向けて職員の生産性を向上させるために、どのようにすれば職員の働く『意欲』（やる気）を引き出せるのか、その具体的な手法としての『モチベーション・マネジメント』を学びます。そして意欲を持って働ける『働きがい』のある職場づくりが、魅力的な職場につながり、人材確保や離職防止（人材の定着）にもつながるよう実践に活かせる研修を実施します。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的職員
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	① 来場・②Zoom 令和5年8月24日（木） ② 動画（視聴期間）令和5年9月19日（火）～10月20日（金）
開催日数	1日
定員	① 来場・②Zoom 各24名 ② 動画 定員なし
受講人数	① 来場10名、②Zoom2名、③動画27名
申込者数	① 来場11名、②Zoom2名、③動画28名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
①来場 ②Zoom 8/24 (木) ③動画 9/19(火) ～ 10/20(金)	①来場 ② Zoom 10:00～ 16:00 ③ 2時間	○講義・演習 「研修転移」 「坂を上るための2つの力」 (坂の上の太陽) 「外発的動機と内発的動機」 「キャリア 登山型とトレッキング型の違いを理解する」 「ABC理論」 「モチベーションとデモチベーション」 「育て上手なマネージャーと平均的なマネージャーの違いワーク」 「今後の実践プランをつくる」	介護老人保健施設 おおやけの里 管理部次長 辻 智典

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
モチベ【来場・ZOOM】(人)	1	8	0	9
割合	11%	89%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったモチベーション・マネジメント【来場・ZOOM】9名についての結果。

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
モチベ【動画配信】(人)	3	6	9	18
割合	17%	33%	50%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったモチベーション・マネジメント【動画配信】18名についての結果。



### 行動変容内容（抜粋）

・自ら行動できるような声かけを心がけています。受けとめる側がプラスの受け止めをするよう工夫しています。

・あらゆる目的に対し、その過程にある目標を明確にし、一つずつ達成していくための道筋を作る事の大切さを学びました。仕事においてチームでその目的、目標を共有し、結果と過程の等価的重要性を考えるように伝えていきます。

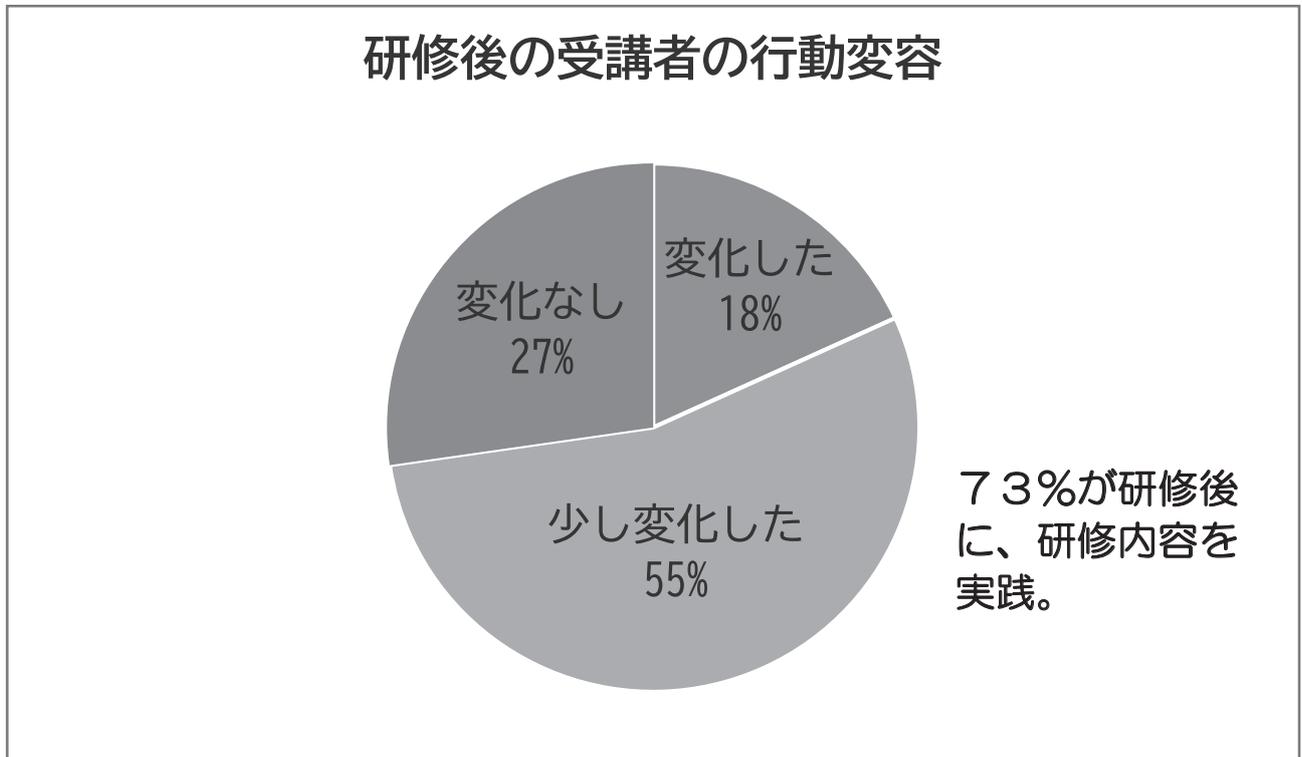
研修名	福祉職場のよりよい人間関係研修
目的	「職場の雰囲気は何となくよくない...」「コミュニケーションがうまくいかない」など、職場での人間関係に悩むことがあると思います。 この研修ではチームとは何か、コミュニケーションという仕組みなど人間関係をよりよくしていくためにできること等を学びます。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的職員
協賛	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年7月19日(水)
開催日数	1日
定員	30名
受講人数	14名
申込者数	15名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
7/19 (水)	13:30~16:30	○講義・演習 「職場とは」 「専門職に求められるもの」 「目標・チームとは何か」 「コミュニケーションを考える」 「言語・非言語のコミュニケーション」 「事例に基づくロールプレイ」等	兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
人間関係（人）	2	6	3	11
割合	18%	55%	27%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった福祉職場のよりよい人間関係研修11名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 研修後、何事も一人で進めるのではなく、多職種の職員にも積極的に意見交換をすることで、情報共有が行いやすくなりました。
- ・ 何事も仕事で終えたことや報告に対して「ありがとう」の感謝の気持ちを大切にすることで、職員の笑顔が増えたように思います。
- ・ マスク着用のため、表情で伝える事は難しい場面もありますが、できるだけ目元だけでも伝えられるように注意しています。また、注意する時、相手を褒める時などにも表情を意識するようになりました。



その他の研修

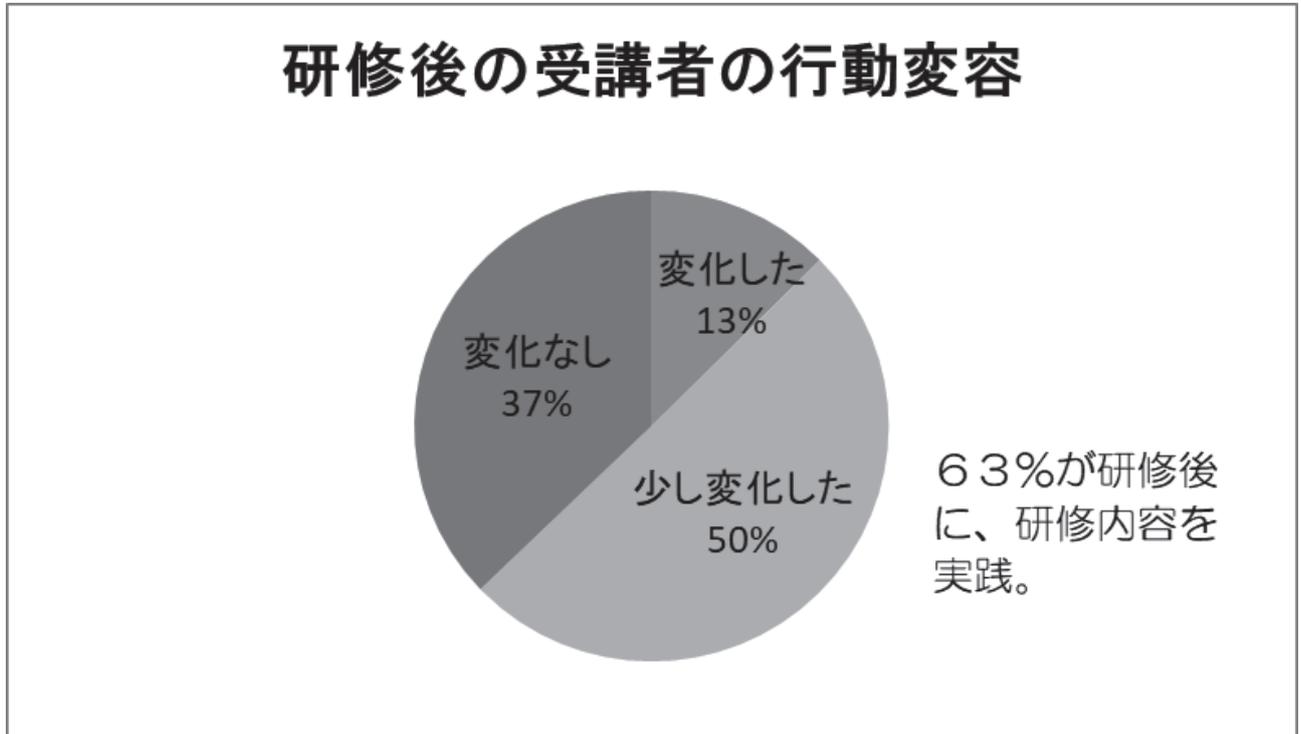
研修名	地域協働セミナー
目的	地域の中で“連携・協働する際の知識・技術” 『多職種でうまく連携して利用者を支援したいけど、どうすればいいかわからない』 とか、『地域住民とよりよい関係づくりをしたい』といったことで悩むことがあると思 います。 ここでは地域貢献活動を題材として取り上げて、連携・協働をスムーズにするための 知識や分析方法・技術を学びます。 福祉施設・団体が取り組む住民・多職種・多機関の連携・協働を学び、利用者支援・ 地域貢献に活かしましょう。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する中堅・指導的立場の職員
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和5年11月6日（月）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	12名
申込者数	13名
会場	ひと・まち交流館 京都

開催日	時間	テーマ	講師
11/6 （月）	10:00～16:00	○講義・演習 「連携・協働の意義」 「チームコーディネーション」 「実際の連携・協働の事例」 「地域アセスメントシート演習」 「連携・協働のプログラム作り演習」	関西福祉科学大学 社会福祉学科 准教授 南 多恵子  社会福祉法人南山城学園 事務局次長 岩田 貞昭

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
地域協働（人）	1	4	3	8
割合	13%	50%	37%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった地域協働セミナー8名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・地域の民生委員や関係機関に対し、事業の周知を積極的に行い、ケースの相談を受けるようになりました。今後は、アンケートを通してニーズの把握に努めていきたいと考えています。
- ・事務所内研修で地域協働について考え、アイデアを出し合いました。今後取り組みそうなものから取り組んでいく予定です。

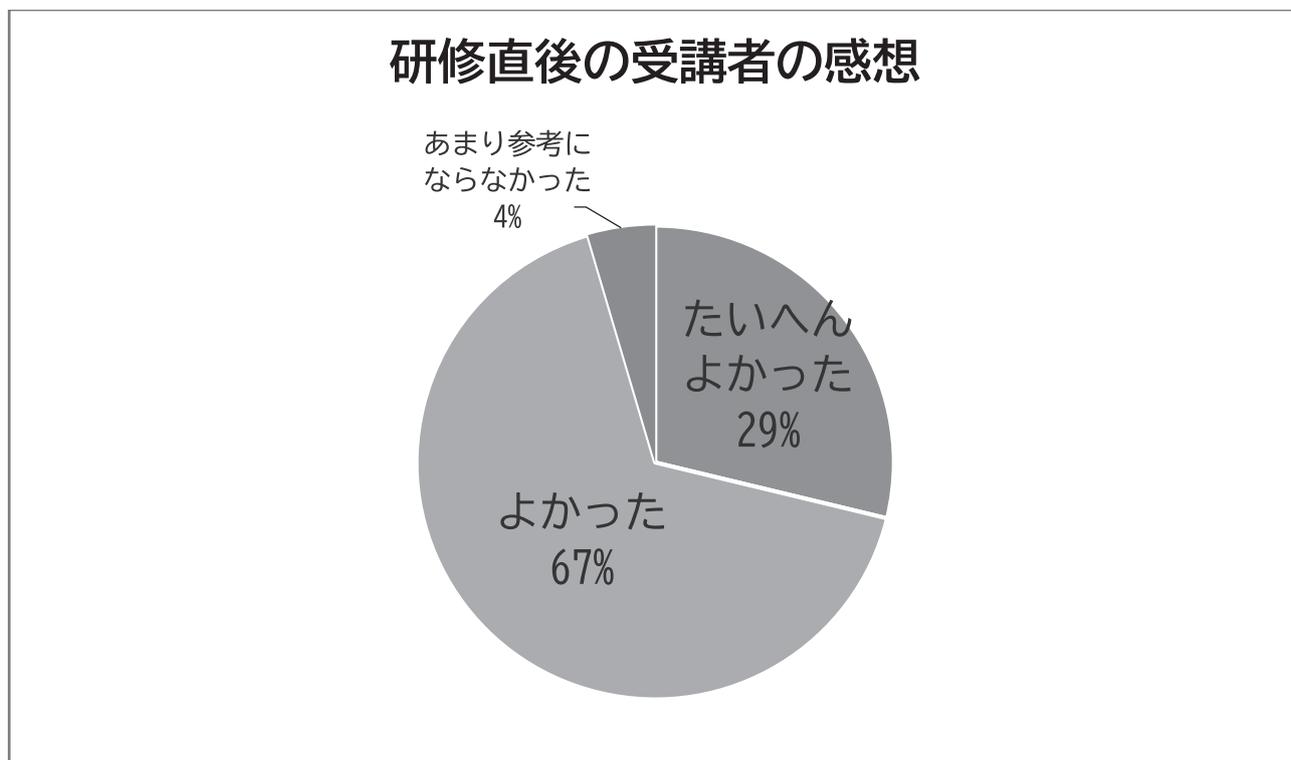
研修名	施設長等管理者セミナー オンライン動画視聴型研修
目的	<p>福祉の職場では、①育成計画を設けて育成する、②評価と公正な処遇の実現、③能力次第での権限委譲、④休暇取得、⑤長時間労働の是正等、様々な施策を用意していても人材の定着に苦勞している法人は多いと考えられます。</p> <p>例えば、キャリアパスは、法人が求める人材像を言語化したものですが、同様に、管理者、管理職・指導職の者が、部下指導に必要な視点を「言語化」することも必要と思われます。具体的には、部下とともに業務に必要な視点、指導や承認が必要な点を「言語化」できること、また正確な知識や情報を教えるだけでなく、部下の関心事を部下とともに「言語化」できることも、部下の定着に必要と考えられます。これらの考えをもとに講義・演習を構成しています。</p> <p style="text-align: center;">《研修プログラム》</p> <p style="text-align: center;">① 業務に必要な知識、技術、態度・価値観 ② 質問で会話をする技術（質問力向上） ③ 相手を決めつけないコミュニケーション</p>
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する施設長・副施設長・管理者・チームリーダー等
主催	京都市社会福祉施設連絡協議会
開催時期	令和6年1月19日（金）～2月29日（木）
開催日数	1時間30分
定員	70名
受講人数	98名
申込者数	98名
会場	動画視聴型研修のため、会場なし

開催日	時間	テーマ	講師
1/19 （金） ～ 2/29 （木）	1時間30分	職員の定着を図るための方策	株式会社 エイデル研究所 人材育成支援部 チーフコーディネーター 増田 直哉

## 直後アンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考に ならなかった	合計
管理者セミナー（人）	19	44	3	66
割合	29%	67%	4%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった施設長等管理者セミナー66名についての結果。



## 感想（抜粋）

- ・ 抽象的な言葉や表現を普段使用していることもあったと感じました。指示等を出す際は、相手と共通の認識を持てているか確認しながら進めていきたいと思いました。
- ・ 職員から聞く様々な課題や会話の内容に対して、自分なりに回答や解決策を発信し、コミュニケーションにも努めていたつもりが、改めて振り返るとチームとしての連携ができていなかったことに気付くことができました。
- ・ この研修で学んだ会話の方法では、職員の本質の理解や当事者として考える質問ができていなかったのではと思いました。
- ・ 学びを習慣化できる機会を持つようになりました。また、「心理的安全性」を学んだことで、職員の離職につながる大きな原因に関係していると考え、1人1人の関わり方について学びたいと思いました。
- ・ コミュニケーションに関しては大事にしていると思っていましたが、相手によって個人差があったと感じました。また、抽象的な言葉や表現を使っている部分もあったため、具体的な内容を提示できるよう意識していきたいと思います。
- ・ 心理的安全性のための、4つの視点「尊重」の部分について苦手意識があるため、気を付けていきたいと感じました。

研修名	介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修受講試験のための受験対策講座
目的	居宅介護支援事業者及び介護保険施設において必要とされている介護支援専門員（ケアマネジャー）養成について、「第26回介護支援専門員実務研修受講試験」の実施が予定されています。当講座は受験を希望する方への受験対策として開催します。
対象	受験希望者
共催	京都府社会福祉協議会 京都社会福祉士会
開催時期	令和5年 7月29日（土）、8月26日（土）、9月2日（土）、9月16日（土）
開催日数	4日
定員	80名
受講人数	79名（4日間延べ人数287名）
会場	ハートピア京都

開催日	時間	テーマ	講師
7/29 （土）	10:00～16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー試験の全体像の把握</li> <li>・介護支援分野の詳細の把握</li> <li>・保健医療福祉サービス分野の詳細の把握</li> <li>・総復習</li> <li>・模擬試験（第4日目）</li> </ul>	（有）いとう総研 取締役 伊東 利洋
8/26 （土）	10:00～16:30		
9/2 （土）	10:00～16:30		
9/16 （土）	10:00～16:30		

介護実習・普及センター事業



介護実習普及センター事業

市民講座					
講座名	期日	内 容	定員	受講人数	掲載頁
介護基礎講座	随 時	・介護機器展示室の見学 ・介護技術 ・福祉用具の活用方法 ・その他	20～30	128 (4回)	85
介護体験講座	随 時	・高齢者疑似体験 ・大人用高齢者疑似体験セット「うらしま太郎」貸出し ・車いす・アイマスク体験	20～30	776 (35回)	85
小学生用「つくしくん」	随 時	・小学生用高齢者疑似体験セット「つくしくん」貸出し	—	12回	85
やさしい介護講座	4月25日	排泄のしくみ、トラブル解消法	20	18	86
	5月17日	もの忘れとは違う『認知症』症状の理解	50	41	
	6月19日	入浴の効果、入浴の方法と介助	30	19	
	7月5日	杖・シルバーカー・車いすを使った移動	30	18	
	8月29日	寝返り、起き上がり・乗り移りの方法と介助	30	22	
	9月5日	食事介助	30	22	
	10月4日	衣服の工夫、着替えの方法と介助	30	17	
	11月13日	排泄のしくみ、トラブル解消法	20	16	
	12月15日	入浴の効果、入浴の方法と介助	30	15	
	1月17日	杖・シルバーカー・車いすを使った移動	30	22	
	2月15日	寝返り、起き上がり・乗り移りの方法と介助	30	20	
3月6日	衣服の工夫、着替えの方法と介助	30	17		
専門職研修					
研修名	期日	内 容	定員	受講人数	掲載頁
介護研修（専門職） 〈基本〉	5月30日	腰痛予防と持ち上げない介護	20	20	91
	7月7日	正しい排泄ケア	20	13	93
	8月22日	入浴と清潔に関する介護技術	20	17	95
	10月30日	正しい褥瘡ケア	20	9	97
	8月22日	上手な着脱介護のコツ	20	11	99
介護研修（専門職） 〈応用〉	6月26日	ベッド上での不良姿勢と改善策（ポジショニング）	20	13	101
	11月7日	車いす上での不良姿勢と改善策（シーティング）	20	13	103

介護機器普及事業						
事業名	開催	内容		利用数	掲載頁	
福祉用具情報提供	通年	福祉用具情報や用具の使用技術に関する情報を提供する	展示点数	610	108	
			見学者数	275	108	
福祉用具シミュレーション事業	通年	専門職者に限り、福祉用具を一定期間貸し出し、使用評価を得る		36	108	
介護・福祉用具の相談事業	通年	相談員を常時配置し、市民等からの電話や面接による相談を行う。各機関との連携を図る		713	108	
インターネット福祉用具展示品検索	通年	本センターで展示している福祉用具について、インターネットで検索できるよう情報を掲載する				
介護ロボット普及 推進事業	1月23日	介護ロボット セミナー	定員	60	24	109
			申込者数	21		
	1/23～2/6	介護ロボット 展示会	見学者数		42	109

広報啓発事業					
事業名	開催	内容		利用数	掲載頁
インターネットによる情報発信	通年	本センターのホームページ及び京・福祉の研修情報ネットにおいて、講座・研修に関する周知を行う			
講座案内パンフレットの発行	4～5回/年	市民一般・団体等に広く講座開催を周知することを目的として発行する			
介護実習・普及センター事業報告書	1回/年	年度毎の事業の報告書を作成する			

介護実習・普及センター連絡会議		
会議名	開催	会場
中日本ブロック介護実習・普及センター等関係機関連絡会議	—	—

# 市 民 講 座

## 介 護 基 礎 講 座

- 1 目 的 希望テーマを選んで介護の一般知識や技術を学ぶ
- 2 内 容 以下の内容から選択  
①介護機器展示室の見学  
②介護技術  
③福祉用具の活用方法  
④その他
- 3 開 催 日 随時
- 4 対 象 者 どなたでも
- 5 定 員 30名程度まで
- 6 講 師 京都市社会福祉協議会 介護実習普及センター職員

	日 付	団 体 名	内 容	人 数
1	5月 29日	宮崎県民生委員	①介護機器展示室の見学	50
2	10月 18日	新道シニアクラブ	③福祉用具の活用方法	16
3	12月 18日	華頂短期大学	①介護機器展示室の見学 ③福祉用具の活用方法	9
4	1月 29日	下京東部地域包括支援センター	①介護機器展示室の見学	2
5	3月 7日	台湾 暨南国際大学 社会福祉学科	①介護機器展示室の見学	28
-	-	その他	④その他	23
合計				128

## 介 護 体 験 講 座

- 1 目 的 希望テーマを選んで介護の一般知識や技術を学ぶ
- 2 内 容 以下の内容から選択  
①高齢者疑似体験講座(大人用)  
②車いす・アイマスク体験
- 3 開 催 日 随時
- 4 対 象 者 どなたでも
- 5 定 員 30名程度まで
- 6 講 師 京都市社会福祉協議会 介護実習普及センター職員

	日 付	団 体 名	内 容	人 数
1	5月 10日	山科区民生委員	①高齢者疑似体験講座	70
2	7月 26日	松尾学区社協・老人福祉委員	②車いす・アイマスク体験	44
3	8月 2日	京都公立学校共済組合	①高齢者疑似体験講座	40
4	9月 27日	京都市建築審査課	②車いす・アイマスク体験	9
5	10月 2日	大阪市西区民生委員	②車いす・アイマスク体験	50
6	12月 18日	まさき工務店	②車いす・アイマスク体験	4
7	6月 8日	紫野高校	②車いす・アイマスク体験	31
8	9月 7日	京都府災害派遣福祉チームDWAT	②車いす・アイマスク体験	52
9	7月 21日	京都市交通局研修所	②車いす・アイマスク体験	8
10	10月 19日	中京区社会福祉協議会	②車いす・アイマスク体験	6
11	11月 22日	特養宝生苑	②車いす・アイマスク体験	9
12	12月 7日	京都市下京東部地域包括支援センター	②車いす・アイマスク体験	50
13	3月 11日	(株)ダイキン工業サービスステーション	②車いす・アイマスク体験	20
-	-	高齢者疑似体験セット貸出時に実施(計22回)	①高齢者疑似体験講座	383
合計				776

## 高 齢 者 疑 似 体 験 (小 学 生 用) 「つ く し 君」 利 用 状 況

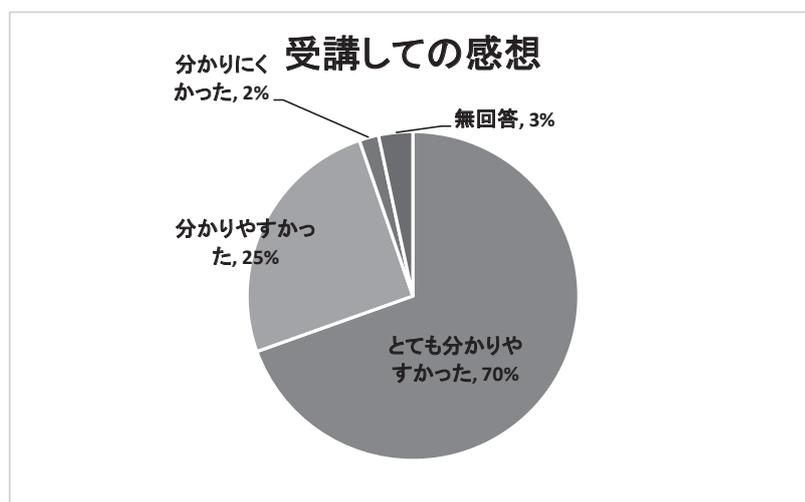
- 1 目 的 加齢による身体的な変化(筋力、視力、聴力などの低下)を知り、高齢者の気持ちや介護の方法、コミュニケーションの取り方を体験的に学ぶ
- 2 対 象 者 京都市内の介護・福祉・医療関係機関および教育機関

	日 付	団 体 名
1	10月 10日	京都高齢者サポート協会
2	10月 19日	向島秀蓮小中学校
3	11月 24日	勸修小学校
4	12月 4日	特別養護老人ホーム 西七条
5	12月 11日	北醍醐小学校
6	2月 28日	京都市大宅地域包括支援センター

## やさしい介護講座

1. 目的            設定されたテーマを通して、介護の基本を学ぶ
2. 対象者        一般の方(福祉現場で勤務する者及び福祉系有資格者を除く)

	日程	時間	テーマ (内容)	講師	申込者数	受講者数
1	4/25	13:30～ 15:30	排泄のしくみ、トラブル解消法、おむつのしくみ、 当て方・選び方	はいせつ総合研究所 むつき庵 平田 亮子 大坪 麻理	24	18
2	5/17	13:30～ 15:30	もの忘れとは違う「認知症」症状の理解(医学的基 礎知識)	三幸会 京都北山病院 院長 澤田 親男	49	41
3	6/19	13:30～ 15:30	入浴の効果、入浴の方法と介助	ぐりっど洛西訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 (作業療法士)	21	19
4	7/5	13:30～ 15:30	杖・シルバーカー・車いすを使った移動の方法と 介助	京都障害者福祉センター 奥村 栄浩 (介護福祉士)	23	18
5	8/29	13:30～ 15:30	寝返り、起き上がり・乗り移りの方法と介助	ぐりっど洛西訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 (作業療法士)	30	22
6	9/5	13:30～ 15:30	『食べる』しくみと工夫、食事の方法と介助	京都栄養医療専門学校 笹井 めぐみ (管理栄養士)	30	22
7	10/4	13:30～ 15:30	衣服の工夫、着替えの方法と介助	京都障害者福祉センター 奥村 栄浩 (介護福祉士)	21	17
8	11/13	13:30～ 15:30	排泄のしくみ、トラブル解消法、おむつのしくみ、 当て方・選び方	はいせつ総合研究所 むつき庵 平田 亮子 大坪 麻理	24	16
9	12/15	13:30～ 15:30	入浴の効果、入浴の方法と介助	ぐりっど右京訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 (作業療法士)	20	15
10	1/17	13:30～ 15:30	杖・シルバーカー・車いすを使った移動の方法と 介助	京都障害者福祉センター 奥村 栄浩 (介護福祉士)	24	22
11	2/15	13:30～ 15:30	寝返り、起き上がり・乗り移りの方法と介助	ぐりっど右京訪問看護ステーション 奥村 雄一郎 (作業療法士)	22	20
12	3/6	13:30～ 15:30	衣服の工夫、着替えの方法と介助	訪問看護ステーション虹 西尾 希実重 (看護師)	19	17
合計					307	247





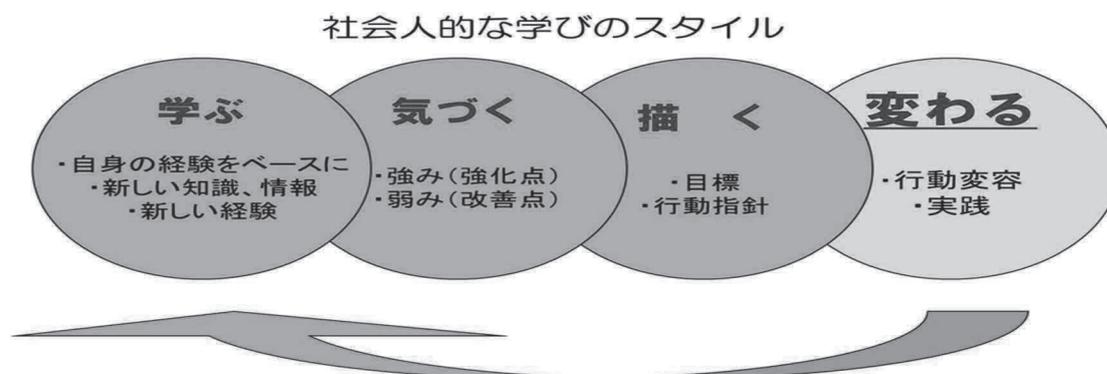
專 門 職 研 修



## 介護研修事業

### 今年度の状況と研修実施後の行動変容についてのアンケート結果（3ヶ月後アンケート結果）

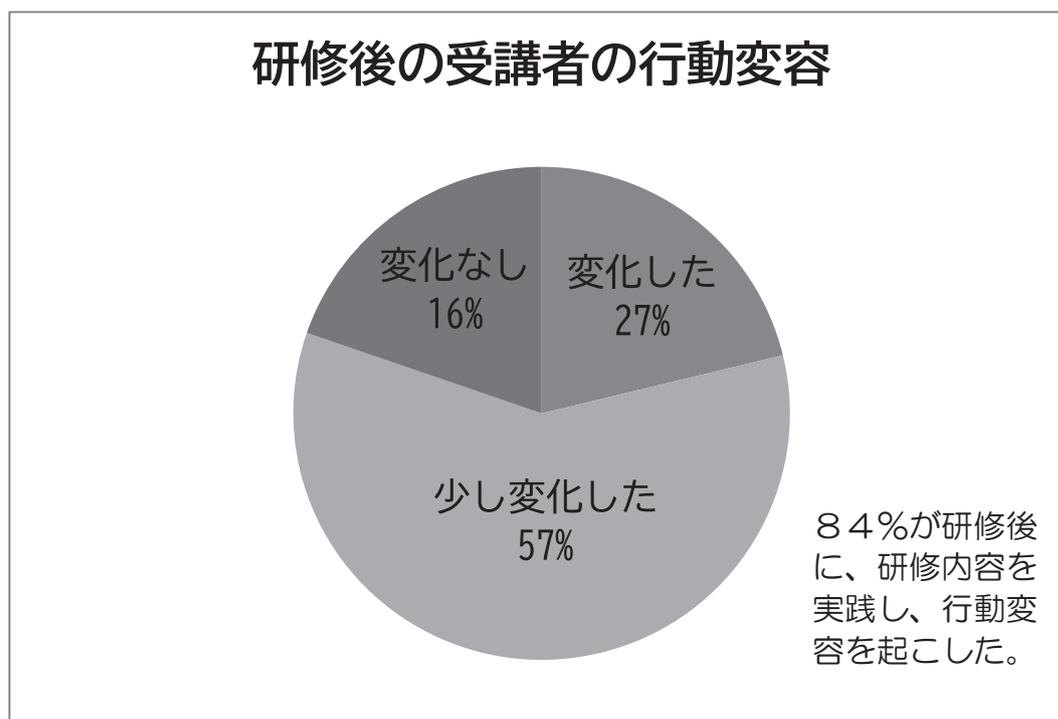
研修は、学習したことを受講後に実践することで、業務に活かすことができ、サービスの質の向上等に役立てることができます。



介護研修事業において、研修実施後に受講者が研修内容を実践し、どのように自らの行動を変化（行動変容）させたかについて、研修実施3ヶ月後にアンケートを実施。

### 令和5年度 介護研修 3ヶ月後アンケート全体集計

	変化した	少し変化した	変化なし	返信数
合計	18	38	11	67
割合	27%	57%	16%	100%



研修名	介護研修 基本① 腰痛予防と持ち上げない介護
目的	ベッド上の仰臥位で寝ている被介護者の水平移動時に、介助者の腰痛を予防する移乗介助を理解する。 また、被介護者の移乗時に福祉用具を活用した、移動・移乗介助方法を学び、スキんテアことができる。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験3年未満の方等）
開催時期	令和5年5月30日（火）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	20名
申込者数	22名
会場	ひと・まち交流館 1階 福祉用具展示コーナー

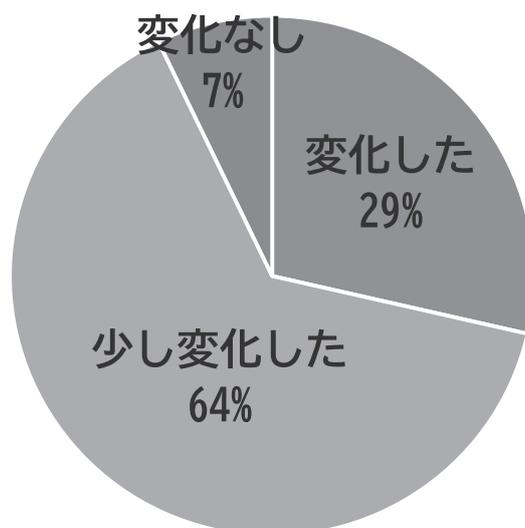
開催日	時間	テーマ	講師
5/30 （火）	13:30～16:00	<b>【講義】</b> ・ノーリフティングとは ・人が移動する際の質量（重心）中心と支持面の関係 ・支持基底面と重心・圧力中心について ・脊椎終板骨折と椎間板損傷のメカニズム ・スキんテアの発生と再発の予防 <b>【実技】</b> ・福祉用具を用いた水平移乗ボートの原理	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部  研修担当部長 理学療法士 神内 昭次

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本①）（人）	4	9	1	14
割合	29%	64%	7%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった腰痛予防と持ち上げない介護14名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



93%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- 一人介助で上方移動を行う際、スライディングシートを使用するようになりました。また、研修で学んだ「枕の位置」を必ず確認してから上方移動を行っています。
- 受講前の上方移動時は、常に枕を外していました。研修で教わった、枕下にビニール袋を敷いて、枕ごと移動する方法を実践できるようになったことで、利用者だけでなく介護する側の自分自身の身体の負担がなくなり、楽に移動介助ができるようになりました。
- 介護ベッド上での上方移動時にスライディングシートを使用することで、利用者と職員にとっても移動介助の負担が軽減しました。また、身体の各部位の重心を考えることで、介助者側は移乗時に過剰な力を必要としないことが実践を通して理解することができました。

研修名	介護研修 基本② 正しい排せつケア
目的	人間にとって排泄の重要性を医療的な視点で理解を深め、おむつ・尿取りパットの種類・構造・メリット・デメリットを理解したうえで、正しいおむつの装着方法を学ぶ。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験3年未満の方等）
開催時期	令和5年7月7日（金）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	13名
申込者数	13名
会場	ひと・まち交流館 1階 福祉用具展示コーナー

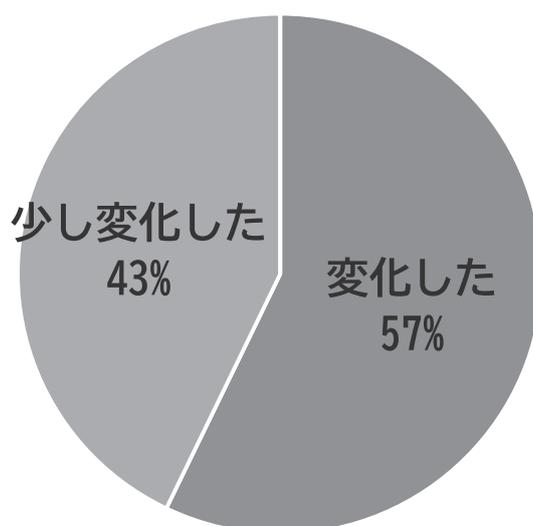
開催日	時間	テーマ	講師
7/7 (金)	10:00～16:00	<b>【講義】</b> ・排泄ケアの特徴 ・排泄と排便のメカニズム ・排泄障害から生じる問題 ・排尿日誌・・・ ・尿は出ないと大変！出ていれば安心？ <b>【実技】</b> ・尿が出にくい現象に至るまでの原因 ・「おむつ」の概念・・・ ・おむつの種類の特徴の説明・・・ ・おむつ+パッドの給水実験 ・おむつの装着体験 正しい装着方法を学ぶ	<b>【午前】</b> 田中 悦子 （NPO法人快適な排尿をめざす全国ネットの会）  <b>【午後】</b> 熊井 利將 （排泄用具の情報館むつき庵）

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本②）（人）	4	3	0	7
割合	57%	43%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった正しい排せつケア7名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



100%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 現場で排泄介助の際、手に取ったリハビリパンツや尿とりパッドの構造や性能を見るようになりました。また、実技で教わったリハビリパンツとパッドのギャザーを立ててセットすることで、尿漏れが起きないことを理解できました。
- ・ 排泄介助で尿とりパッド等を交換する際、相手の方へ不快感を与えないことを考える習慣ができました。
- ・ 自分たちは当たり前のように行っている排泄であるが、研修を通して排泄は生きるうえで大切なことであると再認識しました。実技では高齢者用オムツを使用されている方が感じる「装着時の違和感」「排尿後のパットの膨らみによる不快感」などを体験できたことで、使用されている方の気持ちを理解することができました。また、一定回数水分を吸収した尿とりパッドが膨らむことによって、歩行・座位の姿勢保持の妨げになることが学びました。
- ・ 研修で教わった前開きタイプのオムツの当て方を職場で実践したが、以前よりも尿漏れの回数が減少しました。また、排泄の記録を分析することで、利用者の排泄状況を把握できるようになりました。

研修名	介護研修 基本③ 入浴・清拭に関する介護技術
目的	清潔支援に必要な基本的な知識と技術を学び、介助を受ける側の気持ちを理解する
対象	市内の社会福祉施設・団体に勤務する介護職員
開催時期	令和5年8月22日(火)
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	17名
申込者数	17名
会場	ひと・まち交流館 京都 3階 第5会議室

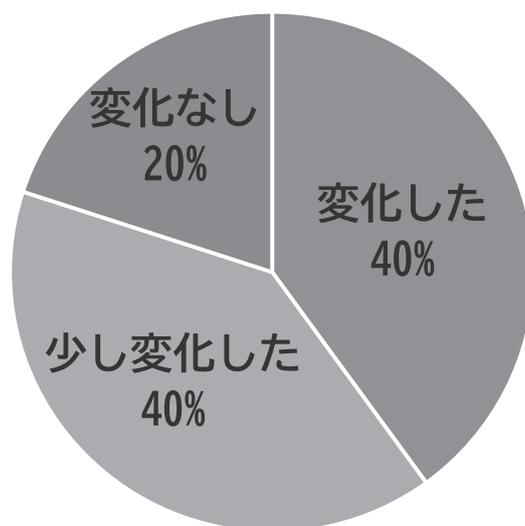
開催日	時間	テーマ	講師
8/22 (火)	13:30～16:00	<b>【講義】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴介助の目的</li> <li>・入浴前の事前準備と注意点</li> <li>・高齢者の皮膚の構造と注意点</li> <li>・清拭、足浴、手浴の効果と手順</li> <li>・洗髪介助のポイント</li> </ul> <b>【実技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洗髪支援に必要な物品の作り方</li> <li>・足浴のデモンストレーション</li> <li>・手浴の準備と上肢の清拭</li> </ul>	木村 美由紀 (京都府介護福祉士会 副会長)  中村 悟 (京都府介護福祉士会 理事)

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本③）（人）	4	4	2	10
割合	40%	40%	20%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった入浴と清潔に関する介護技術10名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



80%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- 研修後、清拭時のお湯の温度や拭くスピード等に注意するようになりました。また、入浴介助や清拭の際、利用者への洗身方法や皮膚にあてるタオルの使い方などを学び、実際の介助の時の参考にしています。
- 自分になかった入浴の介助方法や・清潔に関する知識を学べたのがよかった。また、研修で学んだ清拭時に準備するタオルのたたみ方は、清拭以外で床などの拭き掃除等にも応用しています。実技で、清拭をした後に乾いたタオルで拭き直すと、汗ばむ季節でも気持ちがいいと体験したことは、職場の介護にも役立つ内容でした。
- ヘルパーに対しても、わかりやすく基本を振り返る内容でした。また、お湯の温度やタオルの持ち方・拭き方などは実践的でわかりやすく、所属する事業所内でも介護方法を見直すきっかけになりました。
- これまでは何回も絞り直していたが、1枚のタオルを無駄なく使用方法を教わったことで、丁寧な清拭を行えるようになりました。

研修名	介護研修 基本④ ～正しい褥瘡ケア（褥瘡予防、発生のメカニズム）～
目的	褥瘡を予防するにあたって、摩擦や栄養状態などの発生要因などを理解することが重要である。 この研修では「褥瘡発生のメカニズム」「予防ケア」などの知識の習得を目指す。 また、褥瘡予防に必要な技術などの手技を習得することによって、正しい褥瘡ケアを理解することができる。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員
開催時期	令和5年10月30日（月）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	9名
申込者数	9名
会場	ひと・まち交流館 1階 福祉用具展示コーナー

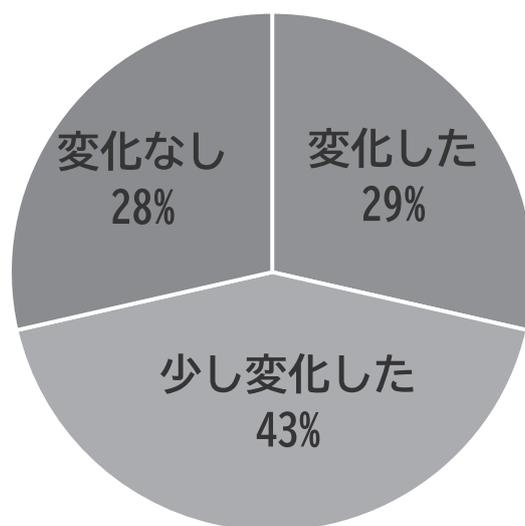
開催日	時間	テーマ	講師
10/30 （月）	13:30～16:00	講義 「褥瘡とは」 「リスクアセスメント」 「褥瘡予防ケア」 実技 圧力・ずれの排除	社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 伊藤 貢江

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（基本④）（人）	2	3	2	7
割合	29%	43%	28%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった正しい褥瘡ケア（褥瘡予防、発生のメカニズム）7名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



72%が研修後に、研修内容を実践。

#### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 体位変換が難しい利用者に対し、研修で学んだ背抜きを行うことで表情に変化がみられるようになりました。また、安楽な姿勢になるようにポジショニングについて、他の職員と話し合い褥瘡予防に努めています。
- ・ 研修後、訪問看護の方にも指導してもらい、利用者へのクッションの入れ方などを実践しています。
- ・ 研修で学んだ、正しい姿勢を保てるようシーティングを心掛けるようになりました。
- ・ 受講後、職場内で復命研修を行い、学んだ内容を他の職員と共有することができました。また、ベッド上で臥床する利用者に対して、座布団やクッションなどを用いて、除圧を意識できるようになったと実感しています。

研修名	介護研修 基本⑤ ～知って得する！！「上手な着脱介助のコツ」～
目的	着脱介助は、様々な身体状態や衣服の材質が異なることで、介助者へ痛みやストレスを与えることがあり、身体介助のなかで難しい内容である。 この研修で、スムーズな着脱介助や正しい手順やポイントを習得することを目指す。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員
開催時期	令和6年2月19日（月）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	11名
申込者数	12名
会場	ひと・まち交流館 1階 福祉用具展示コーナー

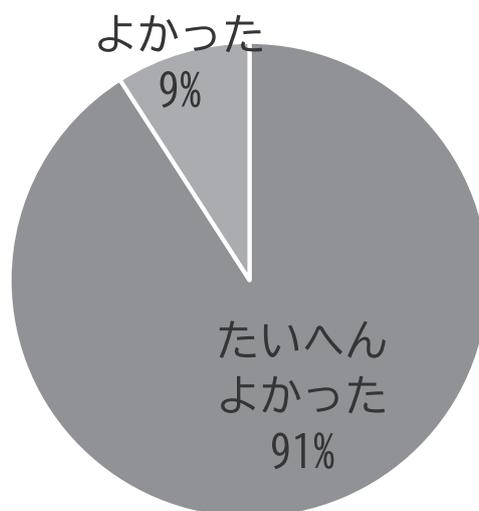
開催日	時間	テーマ	講師
2/19 （月）	13:30～16:00	講義 「人の自然な動きと運動学」 「着脱介助の注意点」 「着衣の材質と特徴」 「正しい着脱順」 実技 「片麻痺のある方の着脱介助」	一般社団法人 京都府介護福祉士会 副会長 木村 美由紀

## 直後アンケート集計

	たいへん よかった	よかった	あまり参考に ならなかった	合計
介護研修（基本⑤）（人）	10	1	0	11
割合	91%	9%	0%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった上手な着脱介助のコツ11名についての結果。

### 研修直後の受講者の感想



#### 受講者の感想（抜粋）

- ・ 大変わかりやすく良かったです。袖がねじれない方法、関節を無理なく曲げられる方法など、ご利用者への配慮など、業務に活かしたいです。
- ・ 現場でのお話を聞いて、まだ体験していない場面での介助を知れて勉強になりました。
- ・ 着にくい素材や関節の使い方、手のひらの使い方など、抜けている基本を思い出すことができました。
- ・ 実際に見てやってみることで、自分の不得意な部分を改めて分析できました。

研修名	介護研修 応用① ベッド上での不良姿勢と改善策（ポジショニング）
目的	長時間ベッド上で身体を動かさない状況による、心身の変化による影響やベッド上でのポジショニングの重要性等の理解を深める。 また、ベッド上で快適で安定した姿勢を理解し、実践的な実技によって正しいポジショニング方法を習得する。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員等（概ね経験3年以上の方）
開催時期	令和5年6月26日（月）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	13名
申込者数	13名
会場	ひと・まち交流館 第1・2会議室／展示室

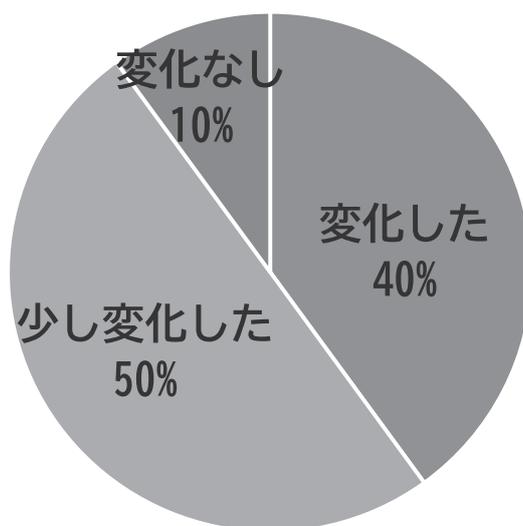
開催日	時間	テーマ	講師
6/26 （月）	10:00～16:00	講義・実技 「ポジショニングとは」 「褥瘡とは」 「皮膚に係る圧とズレ」 「高齢者の姿勢の特徴」 「褥瘡予防ケアの介助方法」 「ベッド上におけるポジショニングの実際」（実技）	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材開発部 研修担当部長 理学療法士 神内 昭次

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（応用①）（人）	4	5	1	10
割合	40%	50%	10%	100%

※アンケートを実施し、返信のあったベッド上での不良姿勢と改善策（ポジショニング）10名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



90%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 利用者の方の仰臥位姿勢時に身体のかんでいる場所や不快感があると学びました。また、利用者の方に対して、手足などに圧が加わりやすい箇所の確認とクッションを使い、利用者の姿勢が楽になるように実践しています。
- ・ 座位につながる起床前のポジショニングを職場内で共有し実践しています。また、研修内容を基に褥瘡の好発部位に対して、ポジショニングを変更することができるようになりました。まだ、他の職員へ助言するまでには至っていませんが、少しずつ自分なりにポジショニングについて考える、きっかけとなった研修でした。
- ・ 研修後、利用者の方の除圧をする時「どこに圧が加わるか」「圧が分散できているか」など考えるようになりました。受講前はクッションを利用すれば、除圧できていると思い込んでいましたが、受講後はクッションの利用方法に根拠を持って実践することができるようになりました。

研修名	介護研修 応用② 車いす上での不良姿勢と改善策（シーティング）
目的	車いすの座位姿勢保持の際、傾いた姿勢での食事を摂取するリスクや、正しくない座位姿勢が及ぼす、臀部褥瘡、誤嚥性肺炎の誘発など、身体に現れる影響と予防的な知識と実践的な技術を習得する。 また、シーティングの基本、車いすを快適に座るための工夫等の介護現場に役立つ方法を学ぶ。
対象	市内社会福祉施設・団体に勤務する介護職員（概ね経験3年以上の方等）
開催時期	令和5年11月7日（火）
開催日数	1日
定員	20名
受講人数	13名
申込者数	13名
会場	ひと・まち交流館 第5会議室

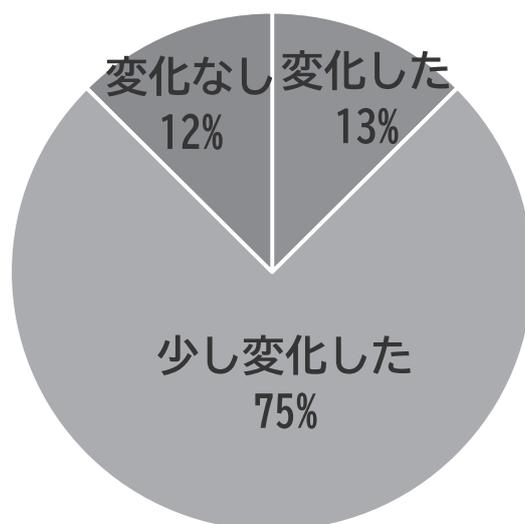
開催日	時間	テーマ	講師
11/7 （火）	10:00～16:00	講義・実技 ・シーティング（座位保持）とは ・対象者にあつた車いすや椅子の選定と調整 ・座位修正介助 ・車いす上におけるシーティングの実際（実技）	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 人材マネジメント室 人事部担当 部長 理学療法士 神内 昭次

### 3ヶ月後アンケート集計

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
介護研修（応用②）（人）	1	6	1	8
割合	13%	75%	12%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった車いす上での不良姿勢と改善策（シーティング）8名についての結果。

## 研修後の受講者の行動変容



88%が研修後に、研修内容を実践。

### 行動変容内容（抜粋）

- ・ 研修で学んだこと基に、利用者の方が座っている姿勢が「正しい姿勢？」「楽な姿勢？」であるかを考えるようになりました。
- ・ 利用者が不良姿勢だった場合、どのように対処すればいいかを職員間で話し合うことが増えました。また、職員間で姿勢について意見を交わすことで、利用者への介護ケアの質の向上につながっていると思いました。
- ・ 車いすに座る利用者の座位姿勢が正しいかを考えるようになり、利用者の方に対して実技で学んだシーティングを少しずつ実践しています。
- ・ 円背姿勢の利用者の方を車いす座ってもらう際、楽な姿勢となるように研修で習ったバスタオルを活用したシーティングを実践し姿勢改善を目指しています。



# 介護機器普及事業



# 令和5年度介護機器相談事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
見学者数	14	5	15	11	5	11	19	14	36	52	47	46	275

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	49	66	49	49	51	57	74	62	73	81	74	28	713
来所	11	5	15	11	5	5	19	14	33	43	47	16	224
TEL	13	22	14	13	30	26	35	36	9	24	18	9	249
メール	16	26	15	13	12	15	9	11	22	11	7	2	159
FAX	9	13	5	12	4	11	11	1	9	3	2	1	81

## 【相談項目】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福祉用具	10	5	11	1	7	10	12	12	14	42	36	7	167
販売店	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住宅改修	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修・講座	38	57	34	44	41	44	44	26	46	27	22	16	439
その他	1	4	4	4	2	3	18	23	13	12	16	5	105

## 【相談処理方法】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
問合せ	45	62	46	49	47	52	71	56	64	56	50	24	622
助言	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
情報提供	3	3	1	0	3	4	3	2	6	25	21	3	74
他機関紹介	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	1	1	0	0	1	0	4	3	0	2	1	14

## 【行政区別相談者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
北区	2	0	5	1	3	3	1	3	1	1	1	0	22
上京区	4	3	4	2	1	4	2	5	6	8	1	2	27
左京区	5	7	4	8	5	3	4	7	4	6	7	3	84
中京区	1	4	3	4	6	3	6	1	0	1	2	5	54
東山区	0	0	1	1	0	1	2	1	1	3	1	0	37
山科区	2	4	3	1	1	2	12	6	10	6	7	4	99
下京区	2	7	5	8	6	7	6	4	15	22	8	6	71
南区	1	1	2	1	2	1	0	3	2	3	2	2	57
右京区	12	10	4	4	7	6	6	7	9	3	5	2	69
西京区	4	7	4	2	3	3	12	5	6	8	4	2	103
伏見区	10	14	9	14	15	19	17	13	14	10	14	1	141
市外	4	4	3	1	1	2	0	1	2	2	9	1	23
不明	2	5	2	2	1	3	6	5	3	6	8	0	84
合計	49	66	49	49	51	57	74	61	73	79	69	28	705

## 【介護機器シミュレーション事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
貸出件数	0	2	3	2	2	5	5	5	5	4	2	1	28

展示点数610点	相談者数713件	見学者数275人	介護機器シミュレーション事業28件
----------	----------	----------	-------------------

研修名	介護ロボットセミナー&展示会 ～ ロボットで変わる移乗のカタチ ～
目的	高齢者の自立支援や介護者の負担軽減等を図るため、移乗・移動系の機器を開発している企業の協力のもと、市民や介護職を対象に介護ロボットの機能や役割などの理解を深める。 また、介護に役立つ様々な介護ロボットの体験ができる展示会を期間限定で開催し、京都市内の介護ロボット普及を推進する。
対象	特に指定なし
開催時期	介護ロボットセミナー 1月23日(火) 介護ロボット展示会 1月23日(火)～2月6日(火)
会場	ひと・まち交流館 1階 福祉用具展示コーナー
展示機種	移乗介護ロボット SASUKE (非装着型) /マッスル株式会社 移乗介護アシストスーツ J-PAS fleairy (装着型) /(株)ジェイテクト

#### 介護ロボット セミナー

定員	60名
受講人数	24名
申込者数	21名

#### 介護ロボット 展示会

見学者数	42名
------	-----

セミナー開催日	時間	テーマ	講師
1/23 (火)	① 10:00～11:30 ② 14:00～15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスにおける生産性向上</li> <li>・移乗介助の課題を解決する機器</li> <li>・移乗介護ロボットSASUKEの特徴と使用方法</li> <li>・介護の現場の困りごと</li> <li>・アシストスーツfleairyの特徴と装着方法</li> <li>・福祉用具を用いた水平移乗ボードの原理</li> </ul>	マッスル株式会社 理学療法士 飛澤 良亮  株式会社ジェイテクト 室長 金谷 学

# 認知症介護実践研修



研修名	京都市認知症介護実践者研修 《第1・2回オンライン研修、第3・4回集合研修》
目的	本人主体の介護を行い、生活の質の向上を図るとともに、行動・心理症状を予防できるよう、認知症介護の理念、知識、技術を修得するとともに、地域の認知症ケアの質向上に関与することができるようになることを目的とする。
目標	<p>【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症ケアの基本的視点、理念及び倫理、認知症の人の意思決定支援のあり方を理解する。</li> <li>・ 中核症状及び行動・心理症状が生じる行動背景を理解したうえで、本人が持つ能力に応じた生活環境づくりやコミュニケーションを実践し、チームで支援する。</li> <li>・ 認知症の人の権利擁護や在宅で介護する家族に必要な支援方法を展開することと、社会資源の開発及び活用を通じて、認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための取組ができる。</li> <li>・ 研修における学習成果を踏まえ、自身の認知症ケアを実践・展開することによる気づきや課題を明らかにし、取り組みの方向性を他者と検討・共有することで、知識の活用に関する幅広い視点を獲得。</li> </ul> <p>【実習】</p> <p>本研修の総合的学習として、認知症の人や家族のニーズを明らかにするため、適切なアセスメント及びケアの実践を通して、実践者としての役割の理解を深め、その技能を磨く。</p>
対象	京都市内の介護保険施設・事業所等で認知症介護に携わる介護職員 身体介護及び認知症介護に関する基本的知識・技術を修得し、かつ介護現場経験が2年以上ある者
開催時期	①（第1回）令和5年 5月18日（木）～令和5年 7月12日（水） ②（第2回）令和5年 6月22日（木）～令和5年 8月18日（金） ③（第3回）令和5年10月24日（火）～令和5年12月13日（水） ④（第4回）令和6年 1月11日（木）～令和6年 3月 4日（月）
開催日数	講義・演習6日間、職場実習4週間
定員	270名
受講人数	267名
申込人数	322名
会場	講義：ひと・まち交流館 京都 （オンライン形式の講義者もこの場所にて講義） 実習：受講者所属施設・事業所
講師	京都市認知症介護指導者

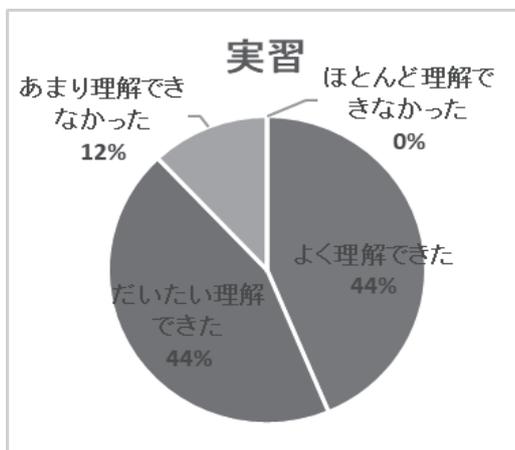
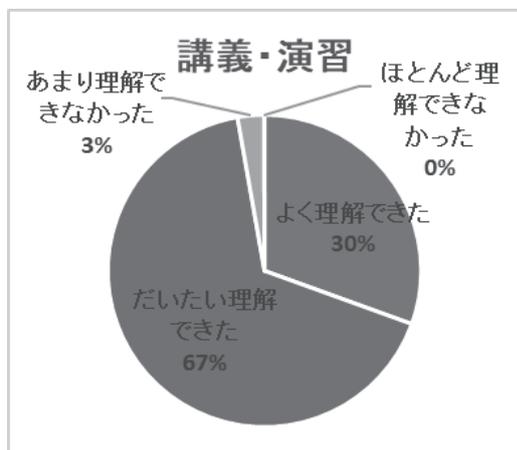
	開催日	時間	科目	講師（所属）
1 日 目	① 5月18日(木) ② 6月22日(木) ③ 10月24日(火) ④6年1月11日(木)	9:30～ 9:40	オリエンテーション	山田 晃 (社会福祉研修・介護実習普及センター) 今村 和之 (社会福祉研修・介護実習普及センター)
		9:40～ 12:50	認知症ケアの理念、倫理と意思決定支援	澤田 卓 (介護老人保健施設博寿苑) 前原ひろみ (ケアサポートセンター鷹峯)
		13:50～ 17:30	生活支援のためのケアの演習 1-①	木村 悠紀 (介護老人保健施設おおやけの里) 前原ひろみ (ケアサポートセンター鷹峯)
2 日 目	① 5月23日(火) ② 6月27日(火) ③ 10月27日(金) ④6年1月15日(月)	9:30～ 10:20	生活支援のためのケアの演習 1-②	中井 功二 (特別養護老人ホーム洛東園)
		10:20～ 10:30	学習成果の課題について	中井 功二 (特別養護老人ホーム洛東園)
		10:40～ 12:10	地域資源の理解とケアへの活用	橋本 千恵
		13:10～ 14:10	QOLを高める活動と評価の観点	小倉 千明 (介護老人保健施設おおやけの里)
		14:20～ 15:50	家族介護者の理解と支援方法	平嶋みどり (京都市修徳特別養護老人ホーム)
		16:00～ 17:30	権利擁護の視点に基づく支援	長澤 香苗 (介護老人保健施設おおやけの里)
3 日 目	① 6月 6日 (火) ② 7月14日 (金) ③11月10日 (金) ④6年1月30日(火)	9:30～ 10:20	学習成果の実践展開と共有	中村 悟 (介護老人保健施設おおやけの里)
		10:25～ 15:25	生活支援のためのケアの演習 2	城山いづみ 前原ひろみ (ケアサポートセンター鷹峯) 宮本 路加 (高齢者福祉総合施設ももやま)
		15:30～ 17:30	アセスメントとケアの実践の基本 1	中村 悟 (介護老人保健施設おおやけの里)
4 日 目	① 6月14日 (水) ② 7月20日 (木) ③11月16日 (木) ④ 6年2月6日(火)	10:00～ 13:00	アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ	井藤晴美 (京都福祉サービス協会) 岩崎由香里 (グループホームかたぎはら) 長澤香苗 (介護老人保健施設おおやけの里)
		13:30～ 14:30	職場実習の課題設定	鈴木佳奈 (エクセレント東山) 辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里)
		14:30～ 17:30	職場実習オリエンテーション 職場実習の課題分析	山田 晃 (社会福祉研修・介護実習普及センター) 今村 和之 (社会福祉研修・介護実習普及センター) 京都市認知症介護指導者
職 場 実 習	① 6月15日(木)～7月11日(火)      ③ 11月17日(金)～12月12日(火) ② 7月21日(金)～8月17日(木)      ④ 6年2月7日(水)～3月3日(日)			
5 日 目	① 6月29日(木) ② 8月4日(金) ③ 12月1日(金) ④6年2月22日(木)	14:00～ 17:00	職場実習フォロー	京都市認知症介護指導者
6 日 目	① 7月12日(水) ② 8月18日(金) ③ 12月13日(水) ④6年3月4日(月)	10:00～ 13:00	職場実習評価	京都市認知症介護指導者

職場実習	
実習先	受講者所属施設・事業所
実習目的	本研修の総合学習として、認知症の人への適切なアセスメント及びケアの実践を通して、実践者としての役割の理解を深めその技能を磨く。
実習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズをアセスメントできる。</li> <li>・認知症の人の生活の質の向上を目的にした、実践計画を遂行できる。</li> <li>・実践計画をもとに各職場の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践ができる。</li> </ul>
実習内容	<p>【1週目～2週目】所属の職場・本人・家族への説明と同意 再アセスメントの実施、センター方式シートの作成と活用、実習ワークシートと実践計画書の作成</p> <p>【3週目】実践計画書に基づきケアを実践（計画評価）</p> <p>【4週目】実践内容の整理、評価、報告資料の作成</p>
職場実習フォロー	
目的	研修内容の実効性を高めるために実習の進捗状況を報告し、実習を進める上での課題と今後の方針を決定する。
職場実習評価	
目的	アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価分析し、今後の課題を明確にすることができる。
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した実践計画を整理し、他者に伝えることができる。</li> <li>・認知症の人にとって有益な実践計画であったか客観的に評価し助言することができる。</li> <li>・結果を分析し、今後の課題を明確にすることができる。</li> </ul>

【科目の到達目標に対する自己評価】

科目の到達目標ごとに自己評価の段階別回答数を集計し、受講者全体としての理解度を示した。

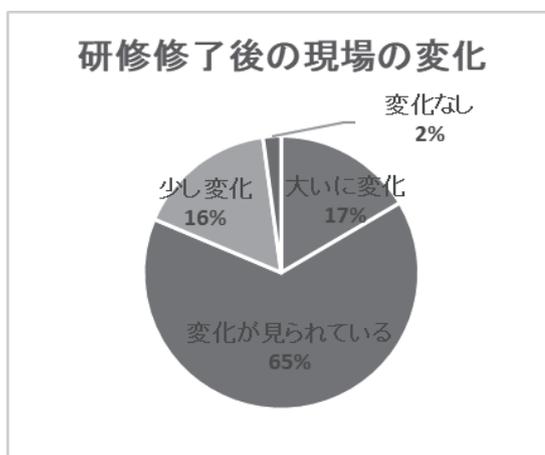
評価基準		よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	ほとんど理解できなかった
講義・演習	到達目標数：24項目 回答のべ人数：6291人	1921	4196	172	2
	割合 (%)	30%	67%	3%	0%
実習	到達目標数：3項目 回答のべ人数：348人	152	154	42	0
	割合 (%)	44%	44%	12%	0%



【研修受講効果】

管理者からみた研修終了後の現場の変化

評価基準	大いに変化あり	変化が見られている	少し変化がみられる	ほとんど変化なし
回答人数：188人	31	122	31	4
割合 (%)	17%	65%	16%	2%



研修名	京都市認知症介護実践リーダー研修 《Z o o mオンライン研修》
目的	事業所全体で認知症について理解し、本人主体の介護を行い、生活の質の向上を図るとともに、B P S Dを予防できるチームケアを実施できる体制を構築するための知識・技術の習得と地域の認知症施策の中で様々な役割を担うことができるようになることを目的とする。
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病態、発症要因、発症メカニズム、最新の薬物治療に関する専門かつ最新の知識の修得、認知症に関する最新の施策動向及び各地域における施策の実施状況を理解する。</li> <li>・チームの方向性を明確にし、ケア方法を共有化する方法を習得し、それらのチームマネジメント手法を認知症ケアにおいて展開する。</li> <li>・倫理に関する考え方や判断、認知症に伴う行動・心理症状への介護、食事、排泄、入浴等の基本的な生活行為への支援、権利擁護並びに家族支援に関する教育及び指導方法を理解する。</li> </ul>
対象	京都市内の介護保険施設・事業所等で認知症介護に携わる介護職員 介護現場経験が5年以上あり、施設・事業所等においてケアチームのリーダー（リーダーになることが予定される者を含む）かつ、認知症介護実践者研修もしくは旧認知症介護実務者研修（基礎課程）を修了し1年以上経過している者
開催時期	令和5年 8月 23日（水）～令和5年10月19日（木）
開催日数	講義・演習7日間、職場実習4週間
定員	30名
受講人数	30名
申込人数	30名
会場	オンライン研修：ひと・まち交流館 京都
講師	京都市認知症介護指導者

	開催日	時間	科目	講師(所属)
1 日 目	8月23日（水）	9:30～ 9:45	オリエンテーション	山田 晃 今村 和之 (社会福祉研修・介護実習普及センター)
		9:45～ 10:45	認知症介護実践リーダー研修 の理解	辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里) 鈴木 佳奈 (エクセレント東山)
		10:45～ 12:45	チームケアを構築するリーダ ーの役割 I	
		13:45～ 17:00	認知症の専門的理解	井藤 晴美 (京都福祉サービス協会) 辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里) 鈴木 佳奈 (エクセレント東山)

2 日 目	8月30日(水)	9:30～ 11:50	チームケアを構築するリーダーの役割Ⅱ	澤田 卓 (介護老人保健施設博寿苑) 磯部 直文 (京都大原記念病院) 藤田 崇 (居宅介護支援事業所博寿苑) 江谷 政芳 (グループホームさいわい)
		12:50～ 15:00	ケアカンファレンスの技法と実践	前原 ひろみ (ケアサポートセンター鷹峯) 藤田 崇 (居宅介護支援事業所博寿苑) 澤田 卓 (介護老人保健施設博寿苑)
		15:10～ 17:20	職場内教育の基本視点Ⅰ	中村 悟 (介護老人保健施設おおやけの里) 辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里) 藤田 崇 (居宅介護支援事業所博寿苑)
		17:30～ 18:30	茶話会Ⅰ(オンライン懇親会)	京都市認知症介護指導者
3 日 目	9月7日(木)	9:30～ 13:00	認知症ケアにおけるチームアプローチの理論と方法	辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里) 中村 悟 (介護老人保健施設おおやけの里) 宮本 路加 (高齢者福祉総合施設ももやま)
		14:00～ 16:10	職場内教育の基本視点Ⅱ	中村 悟 (介護老人保健施設おおやけの里) 辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里)
		16:20～ 17:30	職場実習の課題設定(Ⅰ)	宮本 路加 (高齢者福祉総合施設ももやま)
4 日 目	9月13日(水)	9:30～ 11:50	職場内教育(OJT)の方法の理解Ⅰ	辻 智典 (介護老人保健施設おおやけの里) 細井 妙子 (グループホーム四条大宮) 鈴木 佳奈 (エクセレント東山)
		12:50～ 15:00	職場内教育(OJT)の方法の理解Ⅱ	
		15:10～ 17:20	職場内教育(OJT)の実践Ⅰ	平島みどり (高齢者福祉施設修徳特別養護老人ホーム) 細井 妙子 (グループホーム四条大宮)
		17:30～ 18:30	茶話会Ⅱ(オンライン懇親会)	京都市認知症介護指導者
5 日 目	9月22日(金)	9:30～ 13:00	職場内教育(OJT)の実践Ⅱ	城山いづみ 細井 妙子 (グループホーム四条大宮) 平島みどり (高齢者福祉施設修徳特別養護老人ホーム)
		14:00～ 15:00	職場内教育(OJT)の実践Ⅲ	
		15:10～ 17:30	職場実習の課題設定(Ⅱ)	木村 悠紀 (介護老人保健施設おおやけの里) 中井 功二 (特別養護老人ホーム洛東園) 片山 雅己 (十四軒町の家)

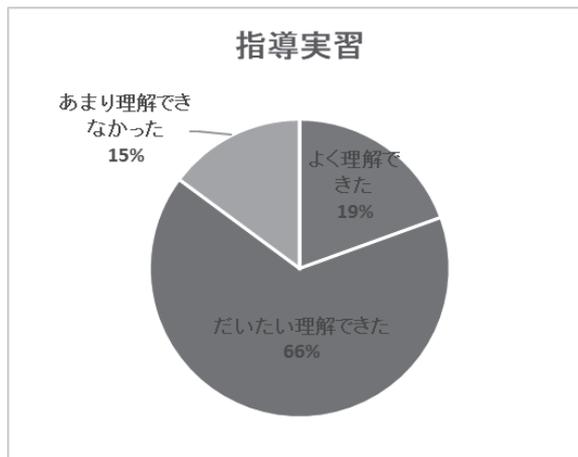
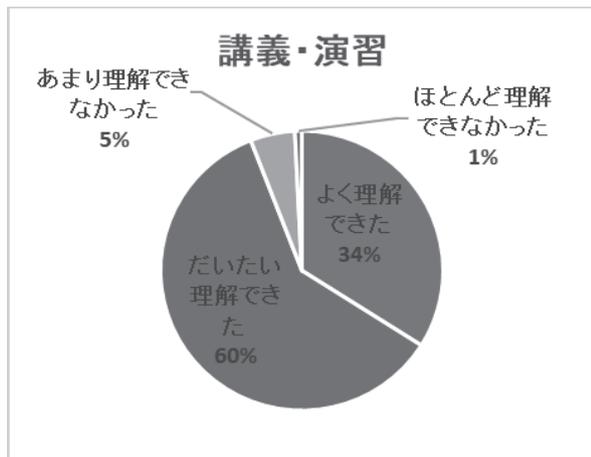
職場 実習	9月 23日 (土) ~ 10月 18日 (水)			
6 日 目	10月5日(木)	9:30~ 11:50	ストレスマネジメントの理論 と方法	平嶋みどり (高齢者福祉施設修徳特別養護老人ホーム) 岩崎由香里 (グループホームかたぎはら)
		12:50~ 17:00	認知症施策の動向と地域展開	橋本 千恵 小倉 千明 (介護老人保健施設おおやけの里)
		17:10~ 18:00	実習フォロー (個別指導)	京都市認知症介護指導者
7 日 目	10月19日(木)	9:30~ 17:00	結果報告 / 職場実習評価	京都市認知症介護指導者

職場実習	
実習先	受講者所属施設・事業所
実習目的	・本研修の総合的学習として、実習をとおり、実践リーダーとしての役割の理解を深め、その技能を磨く。
実習目標	・現場職員の認知症ケア能力の評価と課題の抽出を行うことができる。 ・現場職員の認知症ケアにおける指導目標を立案することができる。 ・指導目標に応じた指導計画を作成することができる。 ・講義・演習で学んだ指導方法を実際に活用することができる。
実習内容	実習計画に沿って実習協力者の認知症ケア能力について評価を行っていき、その結果を実習協力者と共有し、そのうえで実習協力者の認知症ケアに関する課題と目標を検討し、指導計画を作成する。 【1週目】実習協力者への同意取得。実習協力者の認知症ケア能力の評価方法の作成と評価の実施 【2週目】実習協力者の認知症ケア能力の評価と課題の抽出 【3週目】評価結果の分析による指導目標の策定及び評価結果の共有 【4週目】認知症ケア指導計画書の作成、共有
職場実習フォロー	
目的	実習の進捗状況や成果等を報告し課題と今後の方針を決定する。
結果報告／職場実習評価	
目的	実習を通して認知症ケアの指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとしての指導の方向性を明確にできる。
目標	・認知症ケアの指導方法の課題やあり方について客観的・論理的に考察し、報告することができる。 ・実習協力者への認知症ケア指導の課題を評価し、指導の方向性を計画にすることができる。

【科目の到達目標に対する自己評価】

科目の到達目標ごとに自己評価の段階別回答数を集計し、受講者全体としての理解度を示した。

評価基準		よく理解できた	だいたい理解できた	あまり理解できなかった	ほとんど理解できなかった
講義・演習	到達目標数：41項目 回答のべ人数：1136人	386	683	58	9
	割合 (%)	34%	60%	5%	1%
指導実習	到達目標数：4項目 回答のべ人数：108人	21	71	16	0
	割合 (%)	19%	66%	15%	0%



【研修受講効果】

受講者自身の指導力の向上

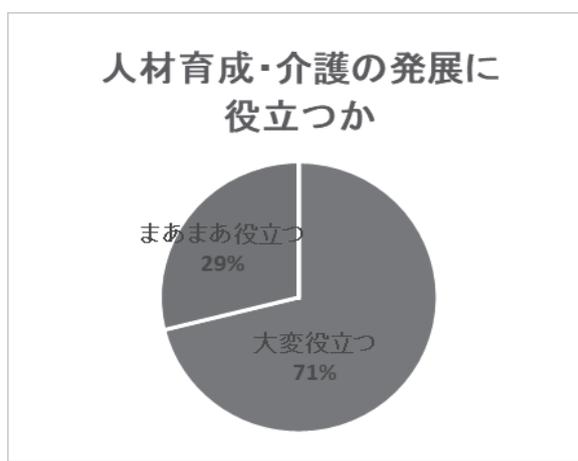
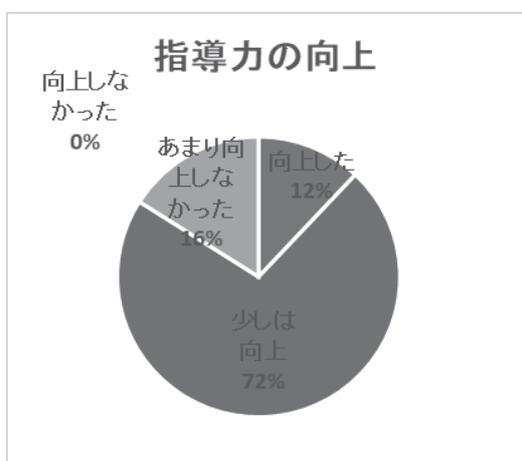
評価基準	向上した	少しは向上した	あまり向上しなかった	ほとんど向上しなかった
回答人数：25人	3	18	4	0
割合 (%)	12%	72%	16%	0%

【研修終了後の管理者の評価】

研修での学びは事業所の認知症介護の発展及び人材育成に役立つか

(介護の発展・人材育成の各項目ごとに集計した数字を2で割ったもの)

評価基準	たいへん役立つ	まあまあ役立つ	あまり役立つ	全く役立つ
回答人数：26人	18.5	7.5	0	0
割合 (%)	71%	29%	0%	0%



# 区役所・支所福祉業務職員研修



令和5年度 区役所・支所福祉業務職員研修〈参集型・オンライン動画視聴型〉

研修の名目			講師	対象者数	受講者数
新任	①	対人援助(クレーム対応を含む。)	浅野 衣子	100	75
新任	②	インテーク・アセスメントをはじめとする相談援助活動	増田 康夫	91	48
新任	③	要援護高齢者・認知症に係る相談援助の留意点	眞辺 一範	89	54
新任	④	ひとり親家庭等に係る相談援助の留意点	芹澤 出	96	50
新任	⑤	精神障害に係る相談援助の留意点	橋本 史人	94	49
新任	※ ⑥	視覚・聴覚・知的障害に係る相談援助の留意点	河野 翔太	88	56
新任	⑦	社会保険(医療・雇用・労災・介護保険等)の基礎知識	佐竹 康男	89	43
新任	⑧	社会福祉協議会の事業	京都市社会福祉協議会	92	41
2年目	⑨	発達障害に係る相談援助の留意点	京都市発達障害者支援センターかがやき	97	61
2年目	⑩	ホームレス・刑務所出所者に係る支援ツール, 関係機関	京都府地域生活定着支援センターふいっと	91	61
2年目	⑪	児童虐待に係る支援ツール, 関係機関	橋本 和明	99	60
2年目	⑫	権利擁護(成年後見制度)の知識	萩原 卓司、京都市成年後見支援センター	92	61
2年目	⑬	交通事故, 借金の法律知識	山下 信子	91	58
2年目	⑭	母子世帯の扶養の法律知識	本條 裕子	93	59
係長	※ ⑮	スーパービジョンの方法と実際	栗田 修司	12	12
合計				1,314	788

※⑥、⑮は参集型、その他13の研修はオンライン動画視聴型で実施。

令和5年度 区役所・支所福祉業務職員研修

研修事後アンケート結果（全体）

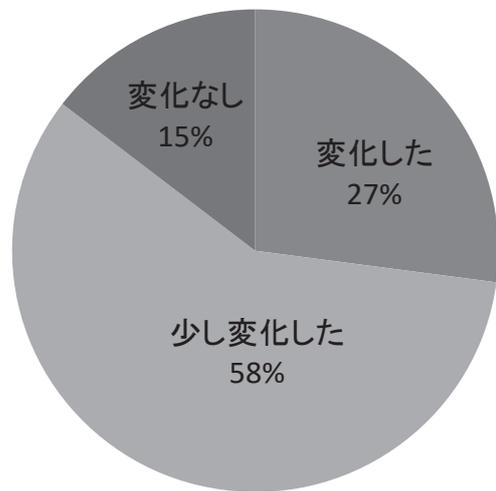
I 一番参考になった研修

新任ワーカー	①対人援助（クレーム対応を含む）
2年目ワーカー	②権利擁護（成年後見制度）の知識
新任係長	②スーパービジョンの方法

II 行動変容

	変化した	少し変化した	変化なし	返信数
新任ワーカー	12	29	7	48
2年目ワーカー	11	22	6	39
新任係長	3	5	1	9
合計	26	56	14	96
割合	27%	58%	15%	100%

研修後の受講生の行動変容



85%が研修後に、  
研修内容を実践  
し、行動変容を

## 新任ケースワーカー 事後アンケート集計

### I 一番参考になった研修

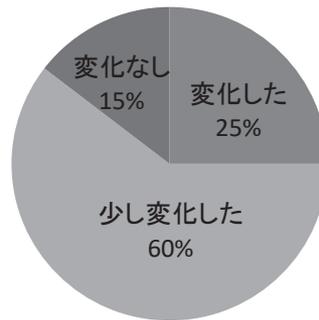
研修名	回答数
①対人援助（クレーム対応を含む）	14
②インテーク・アセスメントをはじめとする相談援助活動	1
③要援護高齢者・認知症に係る相談援助の留意点	7
④ひとり親家庭等に係る相談援助の留意点	1
⑤精神障害に係る相談援助の留意点	6
⑥視覚・聴覚・知的障害に係る相談援助の留意点	8
⑦社会保険（医療・雇用・労災・介護保険等）の基礎知識	4
⑧社会福祉協議会の事業	7
回答なし	0
合計	48

### II 行動変容

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
新任ワーカー（人）	12	29	7	48
割合	25%	60%	15%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった48名についての結果。

### 研修後の受講者の行動変容



85%が研修後に、研修内容を実践。

#### 行動変容内容（抜粋）

・研修を通じて、生活保護受給者との対応については大きく変化があったと思います。ひとり親の母子家庭、障害者、高齢者など様々な方が受給されています。それぞれ背景があって受給に至っているため、改めて個々の状況を見つつ支援を行う大切さを実感しました。

・来客対応時の姿勢や立ち振る舞いの改善、また説明を行うことよりも話を聞くことを優先するようになりました。

## 2年目ケースワーカー 事後アンケート集計

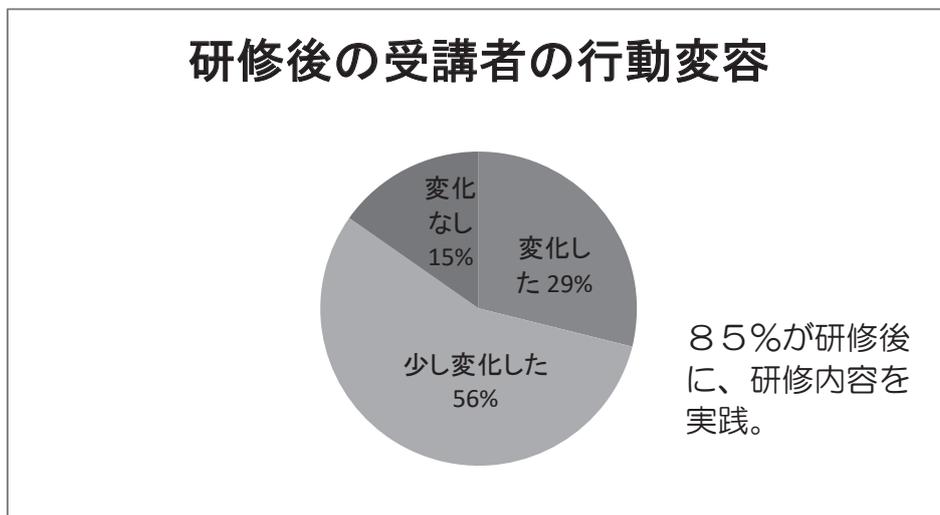
### I 一番参考になった研修

研修名	回答数
⑨発達障害に係る相談援助の留意点	6
⑩ホームレス・刑務所出所者に係る支援ツール、関係機関	9
⑪児童虐待に係る支援ツール、関係機関	2
⑫権利擁護（成年後見制度）の知識	13
⑬交通事故、借金の法律知識	2
⑭母子世帯の扶養の法律知識	7
回答なし	0
合計	39

### II 行動変容

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
2年目ワーカー（人）	11	22	6	39
割合	29%	56%	15%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった39名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・実際に成年後見制度を利用している市民や今後利用を検討すべき市民に対して、より制度を理解したうえで説明や手続き、関係者からの話を傾聴することができるようになった。

- ・刑務所出所者の方々について、自分自身が「怖い人なのでは」という思いをどこかで抱いていた気がしますが、刑務所出所後こそ支援が必要なときであるということを研修を通して知ることができました。出所後にきちんとした支援があれば、再犯に繋がるものが減り、社会復帰に繋がる可能性が高まるのだなと感じました。

## 新任係長 事後アンケート集計

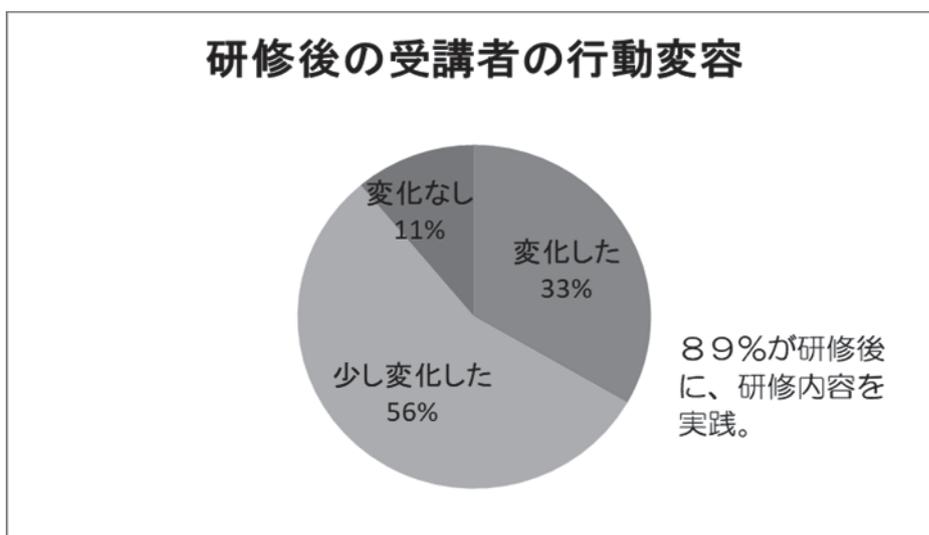
### I 一番参考になった研修内容

研修名	回答数
①開かれたスーパービジョンのシステム	1
②スーパービジョンの方法	5
③何をどのように、伝える順序	3
④記録の大切さ	0
合計	9

### II 行動変容

	変化した	少し変化した	変化なし	合計
新任保護係長 (人)	3	5	1	9
割合	33%	56%	11%	100%

※アンケートを実施し、返信のあった9名についての結果。



#### 行動変容内容（抜粋）

- ・係員さんの日ごろの表情等の変化について気をつけることを意識したり、係員さんが相談しやすいような工夫や相談時の対応について考えるようになった。

- ・スーパービジョンに関する考え方や方法を学んだことで、担当者や相談者からの相談等に対する自身の対応を振り返ることができた。また、研修受講前よりも、担当者や相談者の相談時の様子（表情や声のトーンなど）に注意を払うようになった。



発行

社会福祉法人京都市社会福祉協議会

社会福祉研修・介護実習普及センター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

ひと・まち交流館 京都

TEL 075-354-8771 / FAX 075-354-8808

<https://www.syakyo-kyoto.net>